

TEAM GUIDE
チームガイド
&
国際大会状況
報告
REPORT

2022

亞細亞大学

テニス部

亞細亞大学
亞細亞大学短期大学部



テニス部の
ホームページを
開設しました!



亞細亞大学
ASIA UNIVERSITY



新1号館

学生生活に関する各事務室や教員の研究室、会議室などがある校舎です。



2号館

ガラス張りの外観がひときわ目立つ校舎。中・大規模教室と、屋上庭園があります。



3号館

演習や語学の授業で使われる小規模教室と、講義用の大教室、講堂があります。



5号館

大小24の教室。授業の合間には多くの学生が行き交い、ベンチで談笑する光景も。



7号館

南門に接した教室メインの校舎。正面にはコミュニティバスの停留所があります。



8号館(国際交流会館)

国際交流センター、附置機関、大学院生用の自習室、留学生別科の教室などがあります。



太田耕造記念館

約68万冊の蔵書と最新設備を備えた図書館、学園史展示室などで構成されています。



ASIA PLAZA

食堂とグループ学習スペースを擁する、多目的施設です。



体育館

競技用のフロアのほか、柔道場、剣道場、リング、トレーニングセンターなどがあります。

Hinode Campus

日の出キャンパス

グラウンドやテニスコートを擁する総合運動場をはじめ、合宿などで利用する宿泊施設があります。最寄り駅はJR五日市線「武藏引田」駅。



本テニスの育成には大きな課題があります。ひとつは18歳以上の強化です。多くのジュニアや高校生は、指導者や親とともに夢と希望をもってテニスに取り組んできています。テニスは決して18歳までに完成することができない、奥の深いスポーツですが、それを18歳以上でどのように磨くかが日本テニス最大のテーマのはずです。ということは、大学の役割は非常に大きく、特に重要なのが指導力です。選手が転戦するだけでは身につかないもの、または、それ以上のものを大学が提供できなければ意味がありません。

次に重要なのが環境の強化です。関東の大学では春闘（関東学生）、夏闘、新進戦、リーグ戦と4つの大会のみです。全国大会はインカレ、インカレ・インドア、大学王座の3つの大会です。これらの大会は同世代だけが参加します。しかし、実は戦う相手はもっと別の世界にもいます。知っている人と戦うことよりも、まったく知らない人と戦うことがどれだけ人をワクワクさせるでしょうか。大学4年間であらゆる世代やレベルや地域を越えたテニスを体験し、挑むことほど、素晴らしいものはありません。自分が今までつくり上げたテニスを試す“最高ステージ”は、大学テニスの世界以外にもあるのです。

当然、「負け」や「失敗」が付きまとい、自分を見失うこともあることでしょう。しかし、「負け」を嫌い、「失敗」をたくさんしない学生が、いつどうやってそこから這い上がる精神を身につけることができるでしょうか。私は学生こそ

「失敗することが仕事」だと思っています。そこからしか創意工夫や独創性は生まれきません。

能力があるにもかかわらず、挑戦を恐れ、安全で安定な道にすがっている精神のテニスには、困難を乗り越える力が備わりません。いつかラケットを置いたときに、就職したときに残るのは、テニスの技術や記録だけではなく、未知を乗り越えてきた精神力であってほしいのです。

私はその一環として、アメリカの大学との対抗戦、韓国体育大学との交流合宿を行なってきました。1月のオーストラリアン・オープン観戦では「これが本物」と感じることができます。そして、いまは春に男女の国際テニス大会（1万5千ドル）を学内で開催しています。学生主体のこの大会は、まさに選手しか経験のない学生たちに、テニスへの取り組み方から、技術、体力、精神力、戦術、歴史、経済、経営、哲学にいたるすべてを、外国選手やスポンサー、観客など、テニスにかかわる人々から学ばせてもらっています。国際大会は最高のコーチングになっているのです。

初めは国際大会レベルのパワーやスピードや意識の違いに弾き飛ばされていたものの、徐々にそれに近づくための行動が起こってきました。「機会」が学生を育てていることを実感します。国際大会という環境は学生に大学テニスに明け暮れる=守りの伝統を、攻める「機会」へと発展させていることは間違ひありません。

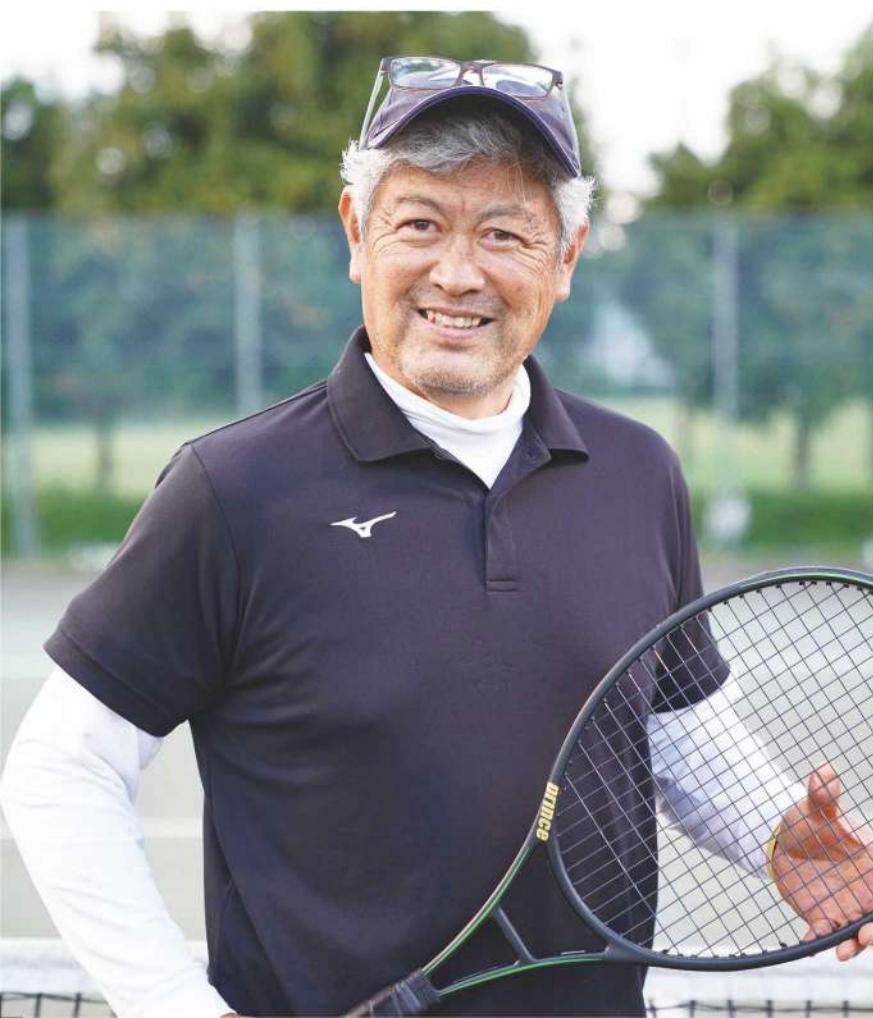
私は亞細亞大学に奉職して35年になりますが、冒頭の理想には残念ながらまだ到達しません。それでも、これまで

理想に向かっていっしょに闘った多くの学生たちや卒業生には感謝しています。永遠にチームは完成できません。しかし、向上に悩める学生に出会ったときには、自分の未来を信じて戦う意思がある学生と出会ったときには、いっしょに青春時代を闘いたい。私は自らの可能性を信じる本気の選手を歓迎します。

テニスは18歳までには決して完成しません。
自らの可能性を信じて未来に向かって挑戦する本気の選手を歓迎します。

堀内昌一

（亞細亞大学教授 / テニス部監督）



日の出キャンパス 紹介

ここがテニス部のホームです!

最寄り駅はJR五日市線「武藏引田」駅です。ここにはテニスコートをはじめ、野球場、サッカー場、陸上トラックなど、スポーツ関係の研究施設があります。屋外競技のクラブは主にここで練習をします。



テニスコート

ハードコート8面と砂入り人工芝コート2面の合計10面のテニスコートがあります。面数が多いので、少人数で効率よく、充実した練習ができます(全面ナイター完備)。

※ハードコート10面に新しくリニューアルします(2022年12月完成予定)。



日の出 キャンパス 案内図



【アクセス】

武藏引田駅まで

・「新宿駅」から約90分、「東京駅」から約100分(JR中央線、青梅線、五日市線利用)

・「大宮駅」から約120分(JR埼京線、川越線、八高線、五日市線利用)

武藏引田駅から日の出キャンパス「亜細亜大学セミナーハウス」まで

・武藏引田駅の改札口は北口1ヶ所、下車後、踏切まで戻り、北(左)に向かって徒歩7分

【所在地】

〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1466 TEL042-597-0714

私たち亞細亜大学は、毎年10月に行われる全日本大学対抗王座決定試合に出場し優勝することを目指とし毎日活動しております。昨年は、新型コロナウィルス感染症の影響でリーグ戦という形ではなく「王座出場校決定トーナメント」という形で関東1部校だけで開催しました。結果は、トーナメント一回戦敗退という結果に終わってしまい、悔しい結果となりました。私たちの目標としている「王座優勝」という目標を達成するには、関東1部の中で上位2校に入る必要があります。関東1部校には、早稲田大学、慶應義塾大学などはじめ強豪校が所属しています。ですが、戦う機会があるということは勝つチャンスはいくらでもあると私は考えます。なぜなら、この亞細亜大学にはハードコート8面、オムニコート2面の計10面のテニスコートがあり、現在、新設中のトレーニングセンターやランニングコースといった最高の環境があります。そして、堀内昌一監督をはじめ、森 稔詞コーチ、長久保大樹コーチ、高橋 隼コーチ、今泉智仁コーチ、石榑結太コーチが指導にあたりテニス面、トレーニング面の強化をしてくださるため、他の大学にはない環境で毎日活動ができるからです。亞細亜大学のテニス部監督である堀内昌一監督がよく学生に伝えていることは、「失敗するのが学生の仕事」だということです。失敗を恐れて何も挑戦しないまま終わるくらいなら失敗を経験し、そこから学んでまた挑戦することのほうが人生において価値のあることだとお話ししています。私は、同級生がないため一つ下の後輩と共に練習計画やトレーニング計画を考えますが、どうしたら部活をもっとよくできるか試行錯誤しています。正解がないからこそ色々なことを考えてしまいますが、この考えているとい

う行動が私自身を成長させているのだと思います。今年のチームは、テニスの技術面を鍛えることもそうですが、思考力を鍛えるということを常に考えて活動しています。考える力をもっと身に着けることで、テニスでも成長を図りますが、一人の人間として大きく成長していくと考えています。テニスだけでなく人間として沢山学べるこの亞細亜大学は最高の環境だと思います。

また、昨年は新型コロナウィルス感染症の影響で中止となってしまいましたが、毎年3月に行われる亞細亜大学国際オープンテニスでは、1.人間力向上、2.社会貢献、3.競技力向上、という3本柱を掲げて活動しています。この大会は日本で初めて大学主催の国際大会を行った大学でもあり、そこには堀内昌一監督の日本テニス界を変えたいという強い思いから開催されました。学生が一から協賛金を集めることや、計画を立てて企画・運営を行うため、大変なことはありますが普通ではできない体験ができます。今後生きていこうで自分の強みになります。大会期間中は、海外から来た選手と英語でコミュニケーションを取る機会があったり、自分が選手として出場しプロフェッショナルの方と同じテニスコートで対戦する機会がある為、一人の選手としても成長できる場だと思います。

他にも沢山お伝えしたいことがあります。亞細亜大学はテニスを通じて人間力や社会性を向上させることのできる環境が揃っています。心から強くなりたいと思っている学生ばかりなのできっと今後も成長していく団体だと思っています。興味がありましたら亞細亜大学硬式庭球部に体験しに来てください。是非、亞細亜大学で私たちと共に戦いましょう。

**挑戦し続ける大学、
それが亞細亜大学です！**

浅海 裕一

(亞細亜大学硬式庭球部主将／4年)



入学案内

スポーツ・文化活動入試のご案内 (令和5年度)

亞 細亞大学のスポーツ・文化活動入試は「経営学部経営学科」「経済学部経済学科」「法学部法律学科」「国際関係学部国際関係学科」「国際関係学部多文化コミュニケーション学科」「都市創造学部都市創造学科」の5学部6学科があります。

テニス部は2023年の今年は、上記の5学部6学科より選択してもらえることとなっております。テニス

部には「経営学部」「経済学部」「法学部」「国際関係学部」「都市創造学部都市創造学科」の学生が在籍しています。

私たちの中には、スポーツ・文化活動入試だけでなく一般入試やAO入試、指定校推薦や公募推薦などで入部した学生もいます。みんなテニスが大好きな学生ばかりです。部員一同、みなさんの入部をお待ちしています。

亞細亞大学が求める学生像
募集するスポーツの技能に優れた将来性のある者

スポーツ・文化活動入試の詳細は亞細亞大学HPにてご確認ください



〒180-8629 東京都武蔵野市境5丁目8番
入試・広報センター TEL.0422-36-3273

<https://www.asia-u.ac.jp/admissions/sports/>
e-mail:nyushi@asia-u.ac.jp



2 004年度卒業の北崎悦子です。私の高校時代の最高戦績は、全国大会ベスト8でした。高校卒業時には、同期のトップレベルの選手たちがプロの世界にチャレンジしていく姿を見て、私は「大学テニスで強くなってプロになりたい」という目標を持って、亚細亚大学に進学しました。

入学当初から、私はすでに大学テニスのトップレベルで活躍されていた先輩方とともに、学生大会のみならず、JOP大会や国際大会を転戦することによって、実戦経験を積み上げる機会に恵まれました。そこでは、常に高いレベルの技術や戦術、精神力を求められたため、私は堀内監督やコーチから熱心にご指導いただき、時に挫けそうになりながらも、その技術や戦術を必死に習得しようとチャレンジし続けました。

このような亚細亚大学での4年間の取り組みを通して、私はプロとしてテニスに向き合う姿勢や考え方を学ぶことができたと思っています。それは、大学テニスで強くなるために、①自分のプレーを分析して課題を見つけ出し、②年間の出場試合を考慮しながら課題に取り組む計画を立てて実行し、③その課題がどの程度改善できたかについて自己評価す

るという思考を繰り返すことでした。この考え方には、テニスに取り組むためだけに必要なことではなく、卒業後の人生においても仕事や日常生活で起こるさまざまな問題を解決するときに役立つと思います。

現役引退後、私は亚細亚大学での学びと8年間のプロ活動の経験を大学生に伝えていきたいと思い、指導者になる道を選択しました。そして現在、私はトップ選手の指導に関する事例について、指導者がどのような点に着目して選手を指導したのかという指導の観点を明らかにする研究を行い、そこから得た知見を踏まえて実践の現場で指導しています。また今年度4月から、大学の専任教員としてのスタートを切ったばかりなので、学生にテニスの楽しさや奥深さを感じてもらうための練習方法や計画についても日々試行錯誤しています。

皆さんも4年間の学生生活を通して、常に明確な目標に向かって、成功や失敗を繰り返しながらも怯むことなく、前向きにチャレンジし続けてください。そして、さまざまな出会いを大切にして、その自分のチャレンジを楽しむ気持ちも忘れないでください。その経験はきっと、皆さんにとってかけがえのない貴重な財産になると思います！



亚細亚大学テニス部での学びと経験を振り返って。

北崎悦子

(学習院大学 スポーツ・健康科学センター 教授)

きたざき・えつこ ©1982年10月14日生まれ。東京都出身。東海大学付属浦安高校卒。98年全国高等学校総合体育大会 単ペスト16。99年国民体育大会(千葉県代表)少年女子 第8位。2000年全日本ジュニア選手権18歳以下 単ペスト8。2001年亚細亚大学に入学。2001年全日本学生テニス選手権 単ペスト4。2001年全日本学生室内テニス選手権 単 準優勝。2002年全日本テニス選手権 混合複ペスト4。2003年全日本学生室内テニス選手権 複優勝。2005年に卒業後にプロ転向し2007年広島国際テニストーナメントで国際大会のシングルス初優勝。WTA最高ランキングは単514位、複419位。JOP最高ランキングは単28位、複29位。2013年に現役を引退し、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程(体育学)、3年制博士課程(コーチング学)を経て、2020年4月から現職。日本スポーツ協会公認コーチ、ユニバーシアード女子コーチ。

1

995年卒業の宮地弘太郎です。私の同期には、昨年引退した本村剛一プロと2つ下に岩渕聰プロがあり、柳川高校時代から良きライバルでした。

彼らはプロの道を選択し、私は大学進学の道を選択。亜細亜大学入学当初から、「大学テニスに留まらない競技生活を送る」ことをテーマに4年間を過ごしました。

なぜ亜細亜大学に進学したのか—亜大には日本のトップジュニアが多数在籍しており、大学を経由して世界を目指す集団、大学からプロを目指せるというイメージが定着していたことに加え、大学テニスのパイオニアでもある堀内先生の「大学はさらなる飛躍に挑戦する場所であり、大学からグランドスラムに挑戦する」という考えに共感したからです。

卒業後、さまざまな企業のサポートを受け、約8年間プロテニス選手として、ATPランキング100位を目指し、世界を転戦しましたが、目標に到達することはできませんでした。

その後、28歳で現役を引退し、指導者の道へ進むことを決意しました。そこでの主たる研究テーマは、硬式テニス（球技／対人／ネットラケット型）のゲーム分析（エリート選手、大学生選手の技術や戦術の様相）や、競技特性に応じた体力組成の分析により効果的な指導方法論を導き出し、大学生選手の技術に関しては総合的研究を行ない、ドリルの効果も検討していくことを目指しました。

選手から研究者へという転身は、テニス選手では珍しく、テニス漬けで過ごした私がその道に進むことに周りは驚いて

いましたが、当の本人は、これから新たな人生に向けて30歳手前ながら、胸ときめいていました。私の強みは、実体験で得た知見や、経験で培った実技ですが、現在大学テニスを指導する上でのテーマは、主観的コーチング+客観的コーチングです。テニスは日々進化し、トレーニング方法も年々変容してきています。現場+研究からの知見を学生にフィードバックし、大学生からでも世界を目指せる環境整備や、大学テニスの醍醐味を学生に伝えていくことが私の使命ではないかと考えています。

近年、残念なことは高校生プレーヤー、大学生プレーヤーに夢がないことです。大学進学のための『テニス』ではなく、夢の実現のための『テニス』でしょう。私の夢は“日本のテニスを自分が変える！”ことでした。日本のテニスを変える=大学出身者がグランドスラムに出場すること。そのためには、大学や国内一般の試合だけに留まらず、海外ヘトライし、さまざまなプレーヤーと対戦し、自分のスタイルを確立することです。いま日本のテニスは世界と拮抗しています。錦織圭選手、添田豪選手、伊藤竜馬選手と世界のトップ選手=「テニスで飯が食える」時代に突入してきました。これは、先を見据えたJTAの強化活動の成果だと思います。私はいまこそ、大学テニスプレーヤーがそこに食い込んでいく絶好のタイミングと考えています。

亜細亜大学時代に培われたもの——「考える」ことが『人間を成長させる』ことに繋がり、上達に『近道』ではなく、強くなるには『人と違うこと』を『人の倍努力する』ということを学びました。高校生のみなさん、大学生活はあっという間です。『夢』を持って『夢』の実現に向けて精進してください。

**学生時代の私の夢は“日本のテニスを変える!”ことでした。
いまは大学出身者がグランドスラムに出場する—
その夢をもって指導しています。**

宮地弘太郎

(大阪体育大学専任教授/テニス部監督)

みやち・こうたろう◎1974年2月18日生まれ。広島県出身。柳川高校卒。91年インターハイ団体準優勝、単ベスト8、複ベスト4。92年亜細亜大学に入学。93、95年インカレ優勝。94年全日本準優勝。95年ユニバーシアード銅メダル獲得(27年ぶり)。卒業後プロ転向し、ジャパンオープン・ベスト16。99年全豪予選決勝敗退。元デ'杯日本代表。ATP最高位は303位(98年7月)、JOP3位。03年に現役を引退し、日本体育大学学院を経て、07年4月から現職。ユニバーシアード男子監督。S級エリートコーチ



CONTENTS

大学案内

02 武蔵野キャンパス 04 日の出キャンパス 06 令和5年度入学案内

PART 1 部活動紹介

- 03 挨拶～堀内昌一(亞細亞大学教授 / テニス部監督)
12 部活の素晴らしさ、信念
14 テニス部主要Topics[年表]
19 2021年度王座出場校決定トーナメント結果 20 過去(1988～)の主な戦績
24 亞細亞の部活 入学前から卒業までの流れ
26 1年間の流れ
28 我々は本物のテニスを追求する。
29 挨拶～森 稔詞(亞細亞大学テニス部コーチ)

PART 2 チーム紹介

- 05 挨拶～浅海裕一(4年/男子主将)
30 永綱憲悟学長挨拶 31 宇田川裕部長、金子国彦部長挨拶
32 指導スタッフ紹介 34 男女部員名簿 39 インスタグラム・ブログ紹介
40 ウィンボール紹介 41 練習風景
42 寮生の1日／中島美夢(4年)・自宅生の1日／市野瀬楓(3年) 43 寮とは
44 「部員からひと言」高校生のみんなへ
46 文武両道～学生は部活と授業の両立を目指す。
- 学部紹介** 48 法学部 中島美夢(4年)の場合
49 経済学部 安井愛乃(4年)の場合
50 國際関係学部 川崎理比人(3年)の場合
51 経営学部 ホスピタリティ・マネジメント学科 富永 葵(2年)の場合
52 経営学部 経営学科 芳谷 仁(3年)の場合
53 都市創造学部 李 光輝(3年)の場合
- 54 大学に入って、こんなに変わりました!
谷 順太(2年)／富永 葵(2年)／安井愛乃(4年)／芳谷 仁(3年)

PART 3 卒業後の進路

- 07 挨拶～北崎悦子(亞細亞大学テニス部OB)
09 挨拶～宮地弘太郎(亞細亞大学テニス部OB)
56 大学から世界へ 亞細亞大学、メルボルンに行く。 文◎吉松忠弘
「大学に行ったら世界に行けないなんて言わせない」 記事提供◎テニスマガジン
58 プロ活動報告 ～熊坂拓哉・高見澤岳飛・堀内竜輔・松田美咲～
60 卒業生、それぞれの道 高田 充/駒田政史/西岡靖雄/岡村麻千香/平良和巳/遠藤真理子
中村聰利/新谷 啓/城間和人/加藤彰馬/福田弓乃/田中文彩
橋本大貴/高橋玲奈/三上英知/平沼かおる/柴 廣一/恒松拓未
69 主な就職先～目黒志和
71 就職ガイダンス～清水奎吾

PART 4 国際大会報告

- 72 フューチャーズが出来るまで
74 2022国際大会状況報告
77 日の出に世界がやってきた。 文◎武田 薫 記事提供◎テニスマガジン
80 亞細亞大学主催 チャリティクリニックのお知らせ
81 参加者の声
85 亞細亞大学国際オープンテニス2023大会告知

2022 亞細亞大学 テニス部

チームガイド
TEAM GUIDE

国際大会状況報告
REPORT

©ここに掲載する記事、写真、および図版の無断転載を厳禁します。

STAFF

●Editorial supervisor
堀内昌一 Shoichi Horiuchi
森 稔詞 Toshitsugu Mori

●Editor in chief
日野知紀(3年) Tomoki Hino

●Editor
大村蒼太(2年) Souta Omura
加藤陽菜(2年) Hina Kato
伊藤 楓(3年) Kaede Ito

●Design / Printing
株式会社 文伸 Bunshin Corporation



Editor's MEMO

●アジア編集長として作成に携わりました。亞細亞大学の魅力が詰まっていますので沢山の方々に見ていただきたいです。
(日野知紀／写真左上)

●今回初めてアジアの作成に携わらせて頂きました。新しいページもある為、楽しんで見て頂けたら嬉しいです。
(伊藤 楓／写真右上)

●今回初めてアジア作成に携わらせて頂きました。亞細亞大学テニス部の良さが詰まっていますので、沢山の方々に見て頂けたら嬉しいです。
(加藤陽菜／写真左下)

●今年からアジア作成に携わらせて頂きました。苦労した分素晴らしいアジアができました。ぜひ見てください。
(大村蒼太／写真右下)





大学に勤めて35年になります。最近では教え子の結婚式に毎月のように招待されるような歳になりました。ひとりもふた回りも大きくなった教え子の成長を見るたびに、ただ驚くばかりです。そこには同期たちも集まっていますから、その成長ぶりにも驚かされてしまいます。

あれほどやんちゃだった学生時代からは想像もできないくらい、社会でもまれ、成長した姿を見るにつけて、たった4年の間だったけれど、ともに過ごした時間のありがたさを感じています。同期や同僚たちが披露するエピソードを聞き、スナップ写真を見て、当時を想い出し、私はうなづくばかりです。

入学式に卒業式、そして結婚式と、繰り返される“集合写真”こそ、まさに“部活”的証。それが真剣にテニスに取り組み、いっしょに戦ってきたからこそ迎えられる瞬間だと思います。その当時は、そんな未来を想像することもできなかったでしょうが、大人になり、みんなで再び顔を合わせたときに、“部活”的のすばらしさを感じてくれていると私は確信しています。

“部活”は一見ややこしそうですが、実はとてもシンプルなものです。

私はいつも学生たちに「できるまでやれ」と指導しています。課題を与えると、すぐにできるヤツ、すぐにできないヤツ、まったくできないヤツに、できるまでやろうとしないヤツと、さまざまですが、いずれに対しても“部活”は容赦しません。ヒントは与えますが、答えは自分で見つけなければならないのです。私が答えをあげることはできません。答えを見つけるのは自分。見つけるまでにはおそらく相当な時間がかかります。でも、“待つこと”も私の仕事。そうしているうち、失敗してしまうこともしばしばありますが、それでもいいと思っています。失敗が教えてくれるものもある。それがまた、大きな財産となるからです。

コートにはコーチと部員がいますが、最終的

には、部員自身が課題を解決する力を身につけなければ意味がないと思っています。課題や目標を達成するために必要となるのは、自身の力であるとともに、重要なのは仲間の力。そのことに気づき、みんなで結束してこそ、乗り越えられるものがあることにも気づいてほしいのです。そのことに気づき、その力の大きさを知ったときに、喜びを分ち合える関係になります。ひとりでは到底できることにも、みんなの力を合わせれば必ず近づくことができる、達成できる。私はそれが“部活”だと思います。

部活って、本当にすばらしい！ 高校生諸君、私たち亞細亞大学でいっしょに部活をやろう！

文◎堀内昌一

すばらしい！ 部活

高校生諸君、私たち亞細亞大学でいっしょに部活をやろう

亞細亞大学テニス部

過去34年間の
主要Topics

衛藤瀧吉学長



93年、UCLAへ。堀内監督の隣りの女性はビート・サンプラス姉妹

1987年(昭和62年)

- ・衛藤瀧吉学長就任(1987-95年)。一芸入試を導入。(写真①)
- ・堀内昌一が講師およびテニス部監督に就任。

1988年(昭和63年)

- ・男子7部リーグ優勝/6部リーグ昇格
- ・女子5部リーグ3回戦敗退

1989年(平成元年)

- ・男子6部リーグ優勝/5部昇格
- ・女子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・亞大初となる全国タイトル。インカレ・インドアで山崎史子が単優勝。
- ・アメリカプログラム(AUAP／正規単位取得型の留学プログラム)開始。

1990年(平成2年)

- ・男子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・女子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・男子初となる全国タイトル。インカレ単優勝・森稔詞、複優勝・岡田岳二/坂口雄二。
- ・国際関係学部国際関係学科開設。

1991年(平成3年)

- ・男子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・女子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・日の出トレーニングセンター完成。
- ・海外のITFサーキットに岡田・森・高田の3名が参戦。約4ヶ月間、オーストラリア・アメリカ・韓国を回る。そこで亞大生初となるATPポイントを獲得(岡田3ポイント、森1ポイント)。
- ・第16回ユニバーシアード(イギリス)日本代表選手に森、伊東新、山崎、赤堀奈緒の4名が選ばれる。また堀内昌一監督も日本代表コーチに就任。

1992年(平成4年)

- ・男子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・ITFサーキットに単身、宮地弘太郎が遠征(フィリピン)。ATP3ポイント獲得。
- ・女子初となるインカレ・タイトルを獲得。赤堀が単優勝。

1993年(平成5年)

- ・男子2部リーグ優勝/1部リーグ昇格
- ・女子1部リーグ初優勝/女子王座初優勝(写真②)
- ・全米遠征(93年～97年)で、強豪大学(USC/UCLA/スタンフォード大など)と対抗戦。(写真③)
- ・第17回ユニバーシアード(アメリカ)で赤堀が平木理化(青学)とのペアで銀メダル獲得。
- ・日本経済短期大学と亞細亞大学が統合、亞細亞大学短期大学部開設。

1994年(平成6年)

- ・男子1部リーグ初優勝/大学王座初優勝(写真④)
- ・女子1部リーグ優勝2連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで初のアベック優勝。
- ・全日本選手権複で、佐藤博康/駒田政史が学生として33年ぶりに優勝。(写真⑤)

1995年(平成7年)

- ・男子1部リーグ優勝2連覇/大学王座2連覇
- ・女子1部リーグ優勝3連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで2度目のアベック優勝。
- ・全日本選手権男子単で宮地が決勝進出。
- ・第18回ユニバーシアード(福岡)男子単で宮地が27年ぶりに銅メダルを獲得。
- ・ジャパンオープン男子単で宮地が3回戦進出(ベスト16)。

1996年(平成8年)

- ・男子1部リーグ優勝3連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグで3度目のアベック優勝。
- ・岡本聖子が全日本学生テニス選手権大会、全日本学生室内テニス選手権大会で単準優勝
- ・小沢愛が関東学生テニストーナメント大会で単優勝、全日本学生室内テニス選手権大会で複優勝
- ・坂井美紗江が関東学生新進テニス選手権大会で単優勝

93年、女子が大学王座初制覇





94年、男子が初の大学王座日本一

- ・片倉恵が全日本学生テニス選手権大会で複優勝
- ・鈴木クラウディオ勲が関東学生テニス選手権大会で単優勝
- ・越智亘が全日本学生室内テニス選手権大会で複準優勝

1997年(平成9年)

- ・男子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝5連覇/大学王座2度目の優勝
- ・関東1部リーグで4度目のアベック優勝。
- ・第19回ユニバーシアード(イタリア)女子複で岡本聖子が銅メダル獲得。
- ・片倉恵が関東学生テニストーナメント大会で複準優勝
- ・鈴木クラウディオ勲が関東学生テニストーナメント大会で複優勝

1998年(平成10年)

- ・男子1部リーグ優勝5連覇/大学王座4位
- ・女子1部リーグ優勝6連覇/大学王座2連覇達成(3度目の優勝)
- ・関東1部リーグ5度目のアベック優勝。
- ・コーチ帯同で3週間、岡本聖子がアメリカのITFサーキットに参戦。(写真⑥)

1999年(平成11年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝7連覇/大学王座3位
- ・ITFサーキット(アメリカ/メキシコ)参戦。
- ・第20回ユニバーシアード(スペイン)の日本代表監督に堀内昌一が就任。

2000年(平成12年)

- ・男子1部リーグ6度目の優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ8連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグは6度目のアベック優勝。

2001年(平成13年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ4位(関東リーグ9連覇ならず)

2002年(平成14年)

- ・男子1部リーグ3位
- ・女子1部リーグ9度目の優勝/大学王座3位
- ・テニス部専任コーチにOBの森稔詞就任。

2003年(平成15年)

- ・男子1部リーグ7度目の優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ10度目の優勝(写真⑦)/大学王座4位
- ・関東1部リーグ7度目のアベック優勝。
- ・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦遠征を開始。以来、有志を募っての恒例行事に。
- ・韓国体育大学と合同合宿。韓国と日本を交互に遠征(03年~06年)

2004年(平成16年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで5位となった男子は、初の2部との入れ替え戦へ。勝利して1部残留が決定。
- ・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に宮崎靖雄が参加。

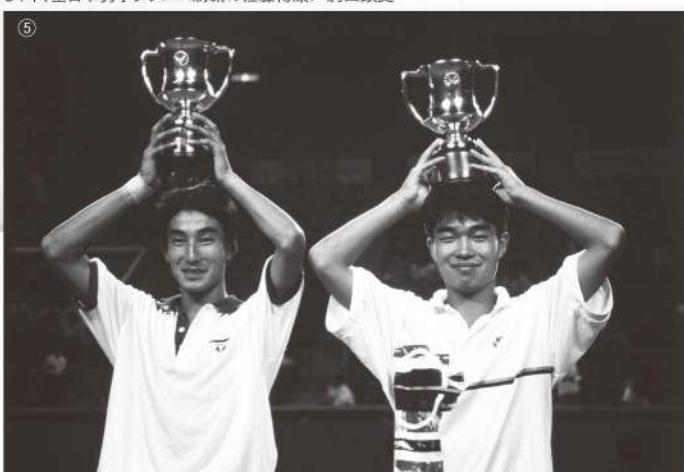
2005年(平成17年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで6位の男子は2度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に、男子は比嘉明人、女子は遠藤真理子と高橋令が参加。ボブ・ブレットコーチの指導を仰ぐ。

2006年(平成18年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグで5位の男子は、3度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・オーストラリアン・オープン観戦遠征。
- ・コーチ帯同で3週間、オーストラリアのITFサーキットに参戦。

94年、全日本男子ダブルス制覇の佐藤博康／駒田政史



98年、インカレを制した岡本聖子





03年、10度目の関東リーグ優勝

2007年(平成19年)

- ・男子1部リーグ4位　・女子1部リーグ3位
- ・男子フューチャーズ『第1回亜細亜大学国際オープン』(1万ドル)を開催。篠川智大が本戦1回戦に勝利し、ATP1ポイントを獲得。
- ・国際大会開催にあたり、「チャリティー・テニスクリニック」を始める。収益のすべてを運営費に充て、年間20回を目標に開催。
- ・アメリカプログラム(AUAP)の参加学生数が1万人突破。
- ・ユニバーシアード(バンコク)の日本代表監督に森穣詞が就任。
- ・堀内昌一助教授が教授に昇格。
- ・テニス部強化に尽力を注いだ元学長、衛藤瀧吉先生逝去。享年84才。

2008年(平成20年)

- ・男子1部リーグ4位　・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・第2回男子フューチャーズ開催。
- ・スポーツケア・アローズと年間50日間の専属トレーナー契約を交わす。

2009年(平成21年)

- ・男子1部リーグ4位　・女子1部リーグ6位/2部降格
- ・関東リーグで6位の女子は、初の2部との入れ替え戦へ。最後はエース宮本紗織が敗れて、2部降格へ。1989年に5部で優勝してから王座優勝、その後は常勝し、1部を死守してきたが、ついに力尽きる。
- ・第3回男子フューチャーズ開催。

2010年(平成22年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留　・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・関東リーグで6位の男子は、4度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・関東リーグ2部で優勝の女子は、1部との入れ替え戦で日本大学に勝利し、1部復帰。
- ・全日本選手権・混合複で篠川智大(／瀬間詠里花プロ)が初優勝。
- ・第4回男子フューチャーズ開催。
- ・森コーチ帯同で、ボルトガルのITF女子サーキットに3週間遠征。メンバーは宮本紗織・荒木史織・山本翔子。
- ・新しい部室が完成。

明治との入替戦勝利後1部残留



2011年(平成23年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留　・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグ6位の男子は、5度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・全日本選手権・混合複で篠川智大(／田中真梨プロ)が2連覇。
- ・第5回男子フューチャーズ開催も、予選サイン当日に東日本大震災が起きる。予選を消化するも、ITF・JTA・春のフューチャーズシリーズ大会ディレクターらと協議の結果、大会中止を決定。
- ・亜細亜大学建学70周年。
- ・テニス部創部50周年。
- ・部室前に駐車場が完成。

2012年(平成24年)

- ・男子と並び、女子サーキット『第1回亜細亜大学国際女子オープン』(1万ドル)を開催。伊波佳苗が単ベスト8進出。
- ・第6回男子フューチャーズ開催。
- ・男子1部リーグ6位/1部残留　・女子1部リーグ4位
- ・関東リーグ6位の男子は、6度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・亜細亜大学文部科学省「グローバル人材育成推進事業」採択

2013年(平成25年)

- ・男子1部リーグ5位/2部降格　・女子1部リーグ4位
- ・関東リーグ5位の男子は7度目の2部との入れ替え戦へ。敗北し、1994年から続いた1部から降格する。
- ・亜細亜大学新5号館完成
- ・第7回男子フューチャーズ開催。
- ・第2回亜細亜大学国際女子オープン開催。山本翔子が単ベスト8進出。

2014年(平成26年)

- ・第8回フューチャーズ開催。
- ・第3回亜細亜大学国際女子オープン開催。
- ・1年生の田中亮寛がインカレ単ベスト8
- ・男子2部リーグ2位で1部リーグとの入れ替え戦へ。惜しくも敗北し2部残留。/女子1部リーグ5位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。

日大との入替戦勝利後1部復帰昇格





第6回亞細亞大学国際女子オープン ダブルス表彰式

2015年(平成27年)

- ・第9回フューチャーズ開催。主将の仲村元希が1回戦勝利し、初のATPポイント獲得。
- ・第4回亞細亞大学国際女子オープン開催。
- ・軽井沢フューチャーズで田中亮寛が初のATP獲得。単ベスト8
- ・亞細亞大学の食堂、アジアプラザ完成。
- ・男子2部リーグ1位で1部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部昇格。(写真⑨) / 女子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留(写真⑧)。

2016年(平成28年)

- ・亞細亞大学建学75周年。
- ・関東学生新進テニス選手権大会において、山藤彩香が単優勝、田中文彩がベスト4、大塚陽平/伊藤陸組がベスト8になる。
- ・田中文彩、高橋玲奈が堀内監督引率の元、中国ITFに3週間参戦。
- ・第10回フューチャーズ開催。加藤彰馬が1回戦勝利、初のATPポイントを獲得。
- ・第5回亞細亞大学国際女子オープン開催。高橋玲奈が1回戦を勝利し、WTAポイント獲得(通算7ポイント目)。また、本戦WCで出場した楚南美波/中沢夏帆組がベスト4進出。山藤彩香/田中文彩組(WC)、高橋玲奈/南文乃組(WC)もベスト8進出。
- ・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・女子1部リーグ4位で1部残留。

2017年(平成29年)

- ・関東学生新進テニス選手権大会において、男子複橋本大貴/恒松拓未組が準優勝になる。
- ・田中文彩、松田美咲が堀内監督引率の元、中国ITFに2週間参戦。
- ・加藤彰馬が宮崎靖雄コーチ引率の元、インドネシアITFに2週間参戦。ITFからの通達により、今回、男女大会ともに\$10,000から\$15,000へ賞金額増額され開催。
- ・第11回フューチャーズ開催。
- ・第6回亞細亞大学国際女子オープン開催(写真⑩)。
- ・関東学生テニストーナメント選手権大会にて、女子単で1年生の松田美咲が初優勝。
- ・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・女子1部リーグ4位で1部残留。

2018年(平成30年)

- ・加藤彰馬がHong Kong futuresに1週間参戦。
- ・関東学生新進テニス選手権において、男子複加藤彰馬/吉田慎組が優

勝、女子複中沢夏帆/大西沙依組が準優勝になる。

- ・第12回フューチャーズ開催。熊坂拓哉が1回戦勝利、初のATPポイント獲得。また、加藤彰馬/吉田慎組(WC)ベスト8進出。
- ・第7回亞細亞大学国際女子オープン開催。中沢夏帆が1回戦勝利、WTAポイント獲得。また、高橋玲奈/中沢夏帆組(WC)がベスト8進出。
- ・平成30年度関東学生テニストーナメント大会にて、女子単で4年生の高橋玲奈がベスト4、2年生の松田美咲/朝倉菜月ペアが準優勝。
- ・松田美咲が関東オープンテニス選手権大会単優勝。
- ・全日本学生テニス選手権大会にて、女子単で4年生の中沢夏帆がベスト4、2年生の松田美咲が準優勝、女子複で4年生の高橋玲奈/中沢夏帆が準優勝。
- ・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・女子1部リーグ準優勝で大学王座へ。
- ・大学王座にて決勝戦で早稲田大学に敗れ準優勝。
- ・全日本テニス選手権にて、女子単で2年生の松田美咲がベスト4、女子複で4年生の高橋玲奈/中沢夏帆がベスト8。
- ・熊坂拓哉、高見澤岳飛がThailand F8 futuresに1週間参戦。
- ・松田美咲がW 15 Nonthaburiにて準優勝。
- ・全日本学生室内テニス選手権大会にて、男子単で3年生の加藤彰馬がベスト8、男子複で3年生の加藤彰馬/(橋川泰典(日本大学))がベスト8。女子単で2年生の松田美咲が準優勝、女子複で4年生の高橋玲奈/中沢夏帆が優勝、2年生の松田美咲/朝倉菜月がベスト8。

2019年(平成31年)

- ・熊坂拓哉、高見澤岳飛、松田美咲がトルコITFに2週間参戦。
- ・関東学生新進テニス選手権大会にて、男子複岡庸輔/工藤颯人がベスト8。
- ・第13回亞細亞大学国際オーブンテニス開催。
- ・第8回亞細亞大学国際女子オープン開催。また、南文乃/朝倉菜月組(WC)がベスト8進出。
- ・2019年度関東学生テニストーナメント大会にて男子単工藤颯人がベスト4。女子複で南文乃/島中美夢が準優勝、松田美咲/朝倉菜月がベスト4。
- ・W15 Gimcheonにて、松田美咲が準優勝。
- ・2019年度関東学生テニス選手権大会にて、男子単高見澤岳飛が準優勝、男子複加藤彰馬/高見澤岳飛が準優勝。女子複南文乃/朝倉菜月が準優勝。
- ・男子1部リーグ4位で1部残留。
- ・女子1部リーグ5位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・熊坂拓哉、高見澤岳飛がM 15 Changwonに1週間参戦。
- ・W2 Toowoombaにて女子複松田美咲/荒川晴菜(青山スポーツ)が準優勝。

日本学生テニス選手権大会
主催：全日本学生テニス連盟
後援：日本学生スポーツ振興会
協賛：日本学生テニスサークル協会



2020年度インカレ終了後

- ・全日本テニス選手権にて女子複で松田美咲/松本安莉(山梨学院大学)がベスト8、伊藤さつき/中島美夢がベスト16。
- ・2019年度全日本学生室内テニス選手権大会にて、女子単松田美咲が優勝。

2020年(令和2年)

- ・2019年度関東学生新進テニス選手権大会にて、男子複堀内竜輔/熊坂拓哉が準優勝。女子単伊藤さつきが優勝。

2021年(令和3年)

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、亞細亞大学国際オープンテニス2020が中止となる。
- ・2020年度関東学生テニストーナメント大会にて、男子単熊坂拓哉が準優勝、高見澤岳飛がベスト8。男子複熊坂拓哉/堀内竜輔組が優勝、権藤卓巳/古藤嵩大組がベスト8。女子単山崎郁美が準優勝、中島美夢がベスト8。女子複伊藤さつき/中島美夢組がベスト4、山崎郁美/吉川ひかる組がベスト4。
- ・2020年度全日本学生テニス選手権大会にて、男子単高見澤岳飛、濱口昌孝がベスト16。男子複熊坂拓哉/堀内竜輔組がベスト16。女子単山崎郁美がベスト4、松田美咲がベスト8。女子複伊藤さつき/中島美夢組がベスト16(写真⑪)。
- ・2020年度全日本学生室内テニス選手権大会にて、男子単熊坂拓哉がベスト4。高見澤岳飛、濱口昌孝がベスト8。女子単松田美咲が2連覇を果たす(写真⑫)。山崎郁美がベスト4。

2022年(令和4年)

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、亞細亞大学国際オープンテニス2022が中止となる。
- ・2022年度関東学生テニストーナメント大会にて、男子単で濱口昌孝、目黒志和、岡悠多がベスト16。古藤嵩大、権藤卓巳、谷颶太がベスト64。男子複で岡悠多/石井智也ペア、濱口昌孝/目黒志和ペアがベスト16。古藤嵩大/権藤卓巳ペアがベスト32。女子単では山崎郁美がベスト4、吉川ひかる、齋藤瑠奈がベスト16。中島美夢、沼野菜海がベスト32。女子複で伊藤さつき/中島美夢ペアが優勝。中山麗未/吉川ひかるペアが

ベスト16。児山心美/富永栞ペアがベスト32。

・男子単で濱口昌孝、目黒志和、岡悠多がベスト32。男子複で濱口昌孝/目黒志和ペアがベスト16。古藤嵩大/権藤卓巳ペアがベスト32。岡悠多/石井智也ペアがベスト32。女子単では、山崎郁美がベスト8。吉川ひかる、齋藤瑠奈がベスト32。女子複では、山崎郁美/安井愛乃ペアがベスト8。中山麗未/吉川ひかるペアがベスト16。伊藤さつき/中島美夢ペアがベスト32。

・2021年度全日本学生室内テニス選手権大会にて、男子単で目黒志和がベスト16、濱口昌孝がベスト32。女子単で山崎郁美がベスト8、中島美夢がベスト16。伊藤さつき、吉川ひかるがベスト32。女子複では安井愛乃/山崎郁美ペアがベスト8。中山麗未/中島美夢ペア、伊藤さつき/吉川ひかるペアがベスト16。

インカレインドア2連覇の松田美咲

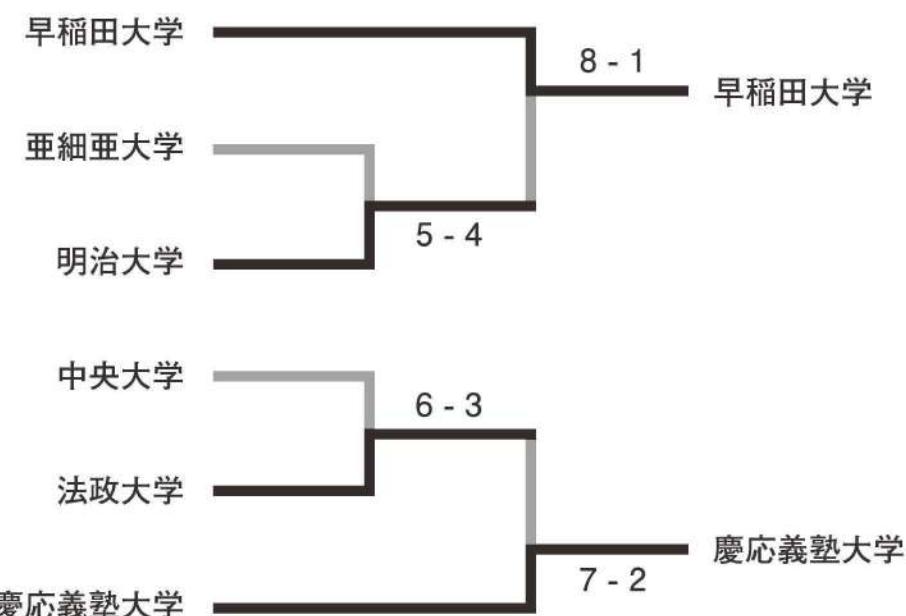


2021年度インカレ終了後



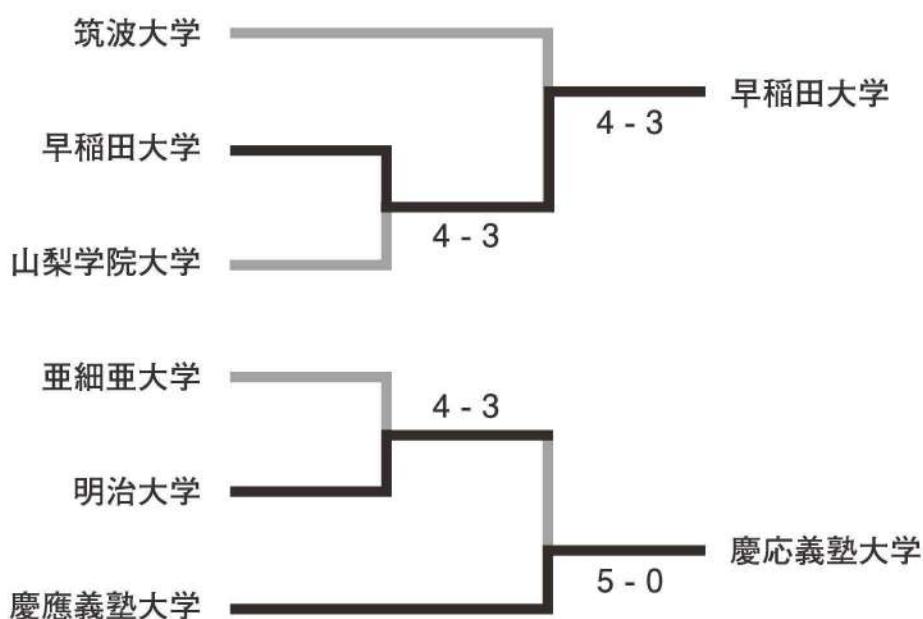
2021年度王座出場校決定トーナメント(男子)

王座出場



2021年度王座出場校決定トーナメント(女子)

王座出場



PART 1 部活動紹介

亞細亞大学テニス部 過去(1988年~)の主な戦績

関東大学テニスリーグ&全日本大学対抗テニス王座決定試合

年度	関東大学リーグ		大学王座	
	男子	女子	男子	女子
1988年(昭和63年)	6部昇格	5部		
1989年(平成元年)	5部昇格	4部昇格		
1990年(平成2年)	4部昇格	3部昇格		
1991年(平成3年)	3部昇格	2部昇格		
1992年(平成4年)	2部昇格	1部昇格		
1993年(平成5年)	1部昇格	優勝		優勝
1994年(平成6年)	優勝	優勝	優勝	3位
1995年(平成7年)	優勝	優勝	優勝	3位
1996年(平成8年)	優勝	優勝	準優勝	準優勝
1997年(平成9年)	優勝	優勝	準優勝	優勝
1998年(平成10年)	優勝	優勝	4位	優勝
1999年(平成11年)	準優勝	優勝	準優勝	準優勝
2000年(平成12年)	優勝	優勝	準優勝	準優勝
2001年(平成13年)	準優勝	4位	3位	
2002年(平成14年)	3位	優勝		3位
2003年(平成15年)	優勝	優勝	3位	4位
2004年(平成16年)	5位	準優勝		4位
2005年(平成17年)	6位	準優勝		4位
2006年(平成18年)	5位	準優勝		準優勝
2007年(平成19年)	4位	3位		
2008年(平成20年)	4位	準優勝		準優勝
2009年(平成21年)	4位	2部降格		
2010年(平成22年)	5位	1部昇格		
2011年(平成23年)	6位	準優勝		準優勝
2012年(平成24年)	6位	4位		
2013年(平成25年)	2部降格	4位		
2014年(平成26年)	2部1位	1部5位		
2015年(平成27年)	1部昇格	1部6位		
2016年(平成28年)	1部6位	1部4位		
2017年(平成29年)	1部6位	1部4位		
2018年(平成30年)	1部6位	準優勝		準優勝
2019年(平成31年)	1部4位	1部5位		
2020年(令和2年)	新型コロナウイルス感染拡大の為中止			
2021年(令和3年)	1部校による王座出場校決定トーナメントで男女1R敗退			

全日本学生テニス選手権大会&全日本学生室内テニス選手権大会 出場人数

年度	インカレ				インカレインドア			
	男子出場人数		女子出場人数		男子出場人数		女子出場人数	
	S	D	S	D	S	D	S	D
1989年(平成元年)	3人	2組	1人		3人	1組	1人	
1990年(平成2年)	3人	2組	1人	1組	3人	2組	2人	2組
1991年(平成3年)	3人	4組	6人	4組	4人	4組	2人	2組
1992年(平成4年)	5人	4組	2人	4組	1人	1組	3人	4組
1993年(平成5年)	10人	5組	7人	3組	2人	3組	2人	2組
1994年(平成6年)	7人	5組	3人	2組	3人	1組	2人	2組
1995年(平成7年)	6人	3組	8人	3組	1人	1組	2人	1組
1996年(平成8年)	6人	2組	7人	3組	1人	1組	2人	1組
1997年(平成9年)	4人	3組	6人	1組	3人	1組	5人	1組
1998年(平成10年)	5人	2組	6人	4組			2人	2組
1999年(平成11年)	5人	4組	4人	2組	2人	2組	1人	1組
2000年(平成12年)	6人	4組	5人	3組	3人	1組	2人	
2001年(平成13年)	4人	1組	4人	2組	1人	1組	2人	2組
2002年(平成14年)	5人	3組	4人	2組	3人	1組	3人	2組
2003年(平成15年)	4人	2組	4人	2組	1人	1組	2人	1組
2004年(平成16年)	2人	4組	4人	4組	2人		1人	2組
2005年(平成17年)	3人	2組	7人	5組	1人		2人	
2006年(平成18年)	5人	2組	7人	3組	1人		1人	2組
2007年(平成19年)	7人	1組	5人	3組	2人		2人	1組
2008年(平成20年)	5人	3組	6人	2組	3人	1組	1人	
2009年(平成21年)	6人	3組	5人	2組	2人	1組	1人	1組
2010年(平成22年)	6人	4組	6人	3組		1組	3人	1組
2011年(平成23年)	2人	1組	7人	4組		1組	2人	1組
2012年(平成24年)	3人		3人	1組		1組	2人	1組
2013年(平成25年)	2人		4人	2組				
2014年(平成26年)	2人	2組	1人	なし	2人	2組	1人	なし
2015年(平成27年)	2人	1組	4人	1組			4人	1組
2016年(平成28年)	1人	2組	3人	1組	1人	1組	1人	1組
2017年(平成29年)	1人	1組	4人	2組				
2018年(平成30年)	3人	1組	4人	4組	3人	1組	3人	2組
2019年(平成31年)	5人	1組	2人	2組	4人	1組	3人	2組
2020年(令和2年)	6人	3組	5人	2組	5人	2組	5人	2組
2021年(令和3年)	6人	3組	10人	4組	3人	2組	5人	3組



2019年度関東大学テニスリーグ最終戦後



平成30年度全日本大学対抗テニス王座決定試合F後

個人戦績

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア	
		S	D	S	D
1989年 平成元年度	男子	坂口雄二	準優勝	ベスト16	本戦
		森 稔詞	ベスト8	ベスト4	本戦
		岡田岳二	ベスト16	ベスト8	
		高田 充	ベスト4		ベスト4
		桜井和人	ベスト16		
	女子	山崎史子	ベスト4	優勝	
		森 稔詞	優勝	ベスト4	ベスト8
		岡田岳二	ベスト4	優勝	ベスト8
		坂口雄二	ベスト8	優勝	ベスト8
		高田 充			ベスト8
1990年 平成2年度	女子	山崎史子	準優勝	準優勝	優勝
		三輪陽子	準優勝	優勝	本戦
		赤堀奈緒		ベスト8	準優勝
		石田恵子			準優勝
		森 稔詞	優勝	優勝	ベスト4
	男子	伊東 新	準優勝	ベスト16	優勝
		高田 充	ベスト16	ベスト4	ベスト16
		岡田岳二		優勝	
		駒田政史		ベスト4	準優勝
		城間和人		ベスト4	ベスト8
1991年 平成3年度	女子	須藤陽史		ベスト4	ベスト8
		坂口雄二		ベスト16	ベスト8
		佐藤武文			ベスト16
		佐藤博康			ベスト16
		赤堀奈緒	ベスト4	優勝	優勝
	男子	山崎史子	ベスト8	優勝	優勝
		三輪陽子	ベスト32		ベスト4
		釣 雅美	ベスト32		
		萱嶋奈穂	ベスト32		
		土方千代	ベスト32	ベスト16	
1992年 平成4年度	女子	北野由美		ベスト8	
		辻麻千香		ベスト8	
		斎藤裕子		ベスト16	
		井上朋子		ベスト16	
		浅見玲子		ベスト16	
	男子	石田恵子			ベスト4
		伊東 新	準優勝	ベスト16	ベスト8
		宮地弘太郎	ベスト8		
		佐藤博康	ベスト16	ベスト4	
		駒田政史	ベスト32		
1993年 平成5年度	女子	馬越浩也	ベスト32		
		鈴木 潤		準優勝	
		久田英登		準優勝	
		佐藤武文		ベスト4	ベスト4
		城間和人		ベスト16	
	男子	須藤陽史		ベスト16	
		紀 有二		ベスト16	
		赤堀奈緒	優勝	準優勝	優勝
		石田恵子	ベスト4	準優勝	優勝
		浅見玲子		ベスト4	ベスト4

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア	
		S	D	S	D
1994年 平成6年度	男子	土方千代	ベスト16	ベスト16	本戦
		釣 雅美	ベスト16		本戦
		辻麻千香	ベスト32	ベスト16	本戦
		常盤 安	ベスト32	ベスト16	ベスト8
		大竹山理映	ベスト32	ベスト8	
	女子	浅見玲子		ベスト16	本戦
		伊東 新	優勝	ベスト4	
		宮地弘太郎	準優勝	ベスト4	
		馬越浩也	ベスト4	ベスト8	ベスト8
		土屋哲史	ベスト16	ベスト8	ベスト8
1995年 平成7年度	女子	竹下和史	ベスト16	準優勝	
		酒井俊亮	ベスト32		
		佐藤博康	ベスト32	ベスト4	準優勝
		山下大介		準優勝	優勝
		駒田政史			準優勝
	男子	久田英登		ベスト16	
		杉田光徳		ベスト16	
		吉田亜梨	準優勝	準優勝	本戦
		常盤 安	ベスト8	準優勝	準優勝
		土方千代	ベスト32	ベスト8	優勝
1996年 平成8年度	女子	石田玲奈		ベスト8	
		宮地弘太郎	優勝	ベスト16	
		竹下和史	ベスト8	優勝	
		馬越浩也	ベスト8	ベスト16	
		山下大介	ベスト16	優勝	2R
	男子	酒井俊亮	ベスト16	ベスト8	
		紀 有二	ベスト32		
		土屋哲史		ベスト8	
		橋本吉弘			優勝
		越智 亘			優勝
1997年 平成9年度	女子	横井佑未	ベスト4		
		吉田亜梨	ベスト8	ベスト4	2R
		坂井美紗江	ベスト16		
		小沢 愛	ベスト16	ベスト4	優勝
		中川 彩	ベスト16		
	男子	石田玲奈	ベスト32	ベスト16	優勝
		常盤 安	ベスト32	ベスト4	
		柴田孝子	ベスト32	ベスト16	
		高梨清乃		ベスト16	
		ケイティ・スカルズ	ベスト8		本戦
1998年 平成10年度	女子	竹下和史	ベスト8	ベスト4	
		芳野 猛	ベスト16		
		越智 亘	ベスト32	ベスト16	準優勝
		山下大介	ベスト32	ベスト4	
		橋本吉弘	ベスト32	ベスト16	準優勝
	男子	岡本聖子	準優勝	ベスト4	準優勝
		横井佑未	ベスト4		
		常盤 安	ベスト8	優勝	
		中川 彩	ベスト16		
		吉田亜梨	ベスト32	ベスト4	

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア	
		S	D	S	D
1999年 平成11年度	石神理貴		ベスト8		
	辻 雄馬		ベスト8		
	女子 岡本聖子	優勝	優勝	ベスト8	優勝
	木根潤晶子	ベスト4		ベスト4	ベスト4
	横井佑未	ベスト16	ベスト16		優勝
	田口景子	ベスト16	優勝	ベスト8	
	金井奈央子	ベスト16	ベスト8		
	片倉 恵	ベスト32	ベスト8		
	永井圭子		ベスト16		
	森井景子		ベスト16		
2000年 平成12年度	坂井美紗江		ベスト16		
	堀川奈緒子				ベスト4
	男子 石浦純一	ベスト16	ベスト16		優勝
	石神理貴	ベスト16	ベスト16	優勝	
	三好 敏	ベスト16		本戦	
	辻 雄馬	ベスト32	ベスト16		本戦
	国吉智規	ベスト32			
	朴 潤九		ベスト16	2R	本戦
	吉川真司		ベスト16	ベスト4	優勝
	菊池 恒		ベスト16		
2001年 平成13年度	宮下知朗		ベスト16		
	山下智史		ベスト16		
	女子 岡本聖子			準優勝	
	田口景子	準優勝	準優勝	本戦	準優勝
	金井奈央子	ベスト16			
	片倉 恵	ベスト32	準優勝		
	飯田京子	ベスト32			
	川野美季		ベスト16		
	中川 麗		ベスト16		
	男子 石神理貴	ベスト4	ベスト8	2R	
2002年 平成14年度	吉川真司	ベスト4		準優勝	ベスト4
	三好 敏	ベスト16	ベスト32	2R	
	大迫幸輝	ベスト32			
	朴 潤九	ベスト32	ベスト8		
	宮崎靖雄	ベスト32	ベスト8		
	辻 雄馬		ベスト8		
	後藤光弘		ベスト8		
	石浦純一				ベスト4
	女子 田口景子	準優勝	優勝	ベスト4	
	金井奈央子	ベスト16	優勝		
2003年 平成15年度	平田育子	ベスト16	2R		
	水野衣里子	ベスト16	本戦		
	五藤かおり	ベスト32	2R	本戦	
	男子 宮崎靖雄	ベスト4	準優勝	ベスト8	本戦
	朴 潤九	ベスト8	準優勝		本戦
	国吉智規	ベスト32			
	比嘉明人	ベスト32			
	北崎悦子	ベスト4		準優勝	本戦
	金井奈央子	ベスト16	ベスト4		
	平田育子	ベスト16	ベスト4	本戦	準優勝

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア	
		S	D	S	D
2004年 平成16年度	男子 比嘉明人	ベスト16	ベスト16	ベスト8	
	乾祥一郎	ベスト16	ベスト16	ベスト8	
	大山謙一			ベスト16	
	平良和己			ベスト16	
	垣内崇寛			ベスト16	
	小松優介			ベスト16	
	佐地竜介			ベスト32	
	古城泰裕			ベスト32	
	女子 北崎悦子	ベスト16	ベスト16	ベスト16	ベスト8
	津布久萌	ベスト16	ベスト32		ベスト4
2005年 平成17年度	安田絵子	ベスト32	ベスト32		
	川崎光美	ベスト32	ベスト16		
	上條いづみ			ベスト16	
	原由紀代			ベスト32	
	森 美紀			ベスト16	ベスト8
	高橋 令			ベスト32	
	富田真吉	ベスト32		ベスト8	
	大塚真之助	2R			
	佐地竜介	本戦		ベスト16	
	古城泰裕			ベスト16	
2006年 平成18年度	村居誠悟			ベスト32	
	新谷 啓			ベスト32	
	女子 森 美紀	ベスト16	優勝		ベスト4
	原由紀代	ベスト32	ベスト16		ベスト8
	川崎光美	ベスト32	本戦		
	津布久萌	2R	ベスト16		ベスト8
	高橋 令	2R	ベスト16		
	宮崎優実	2R			
	坪奈津美	本戦	優勝		ベスト4
	遠藤真理子		本戦		
2007年 平成19年度	土屋奈夏		ベスト32		
	角田良美		ベスト8		
	男子 富田真吉	ベスト16		ベスト16	
	大塚真之助	ベスト32			
	牛田敦之	ベスト32			
	新谷 啓	2R	ベスト32		
	小出侑門	2R			
	佐地竜介		ベスト8		
	古城泰裕		ベスト8		
	高橋 隼		ベスト32		
2008年 平成20年度	女子 森 美紀	2R	ベスト16		ベスト4
	津布久萌	ベスト32	ベスト16		準優勝
	高橋 令	ベスト32	ベスト16		
	坪奈津美				ベスト4
	土屋奈夏	ベスト16	ベスト16		
	角田良美	準優勝	ベスト8	ベスト16	
	宮崎優実	ベスト16	ベスト8	ベスト8	
	木下ミサ	ベスト32			準優勝
	木下ミサ	ベスト32			
	大塚真之助	ベスト16		ベスト16	
2009年 平成21年度	富田真吉	ベスト16	ベスト32	ベスト16	
	篠川智大	ベスト32			
	小出侑門	2R	ベスト32		
	牛田敦之	2R			
	古城泰裕	本戦			
	青木 翔	本戦			
	井上貴博		ベスト32		
	風早一樹		ベスト32		
	女子 宮崎優実	ベスト16	ベスト8	ベスト4	
	角田良美	ベスト16	ベスト8	ベスト16	
2010年 平成22年度	木下ミサ	ベスト16	ベスト16		
	土屋奈夏	2R	ベスト16		準優勝
	坪奈津美	本戦	ベスト16		準優勝
	井上貴博	ベスト8	ベスト8	ベスト16	ベスト4
	富田真吉	ベスト16			
	篠川智大	ベスト16	ベスト8	ベスト8	ベスト4
	牛田敦之	ベスト32	ベスト32	ベスト16	
	大原文平	2R			
	土居諒大		ベスト32		
	高橋 隼		本戦		
2011年 平成23年度	風早一樹		本戦		
	女子 宮崎優実	ベスト4	ベスト8	準優勝	
	木下ミサ	ベスト16	ベスト16		
	土屋奈夏	2R	ベスト16		
	坪奈津美	本戦	ベスト16		
	井上貴博	ベスト8	ベスト8	ベスト16	ベスト4
	富田真吉	ベスト16			
	篠川智大	ベスト16	ベスト8	ベスト8	ベスト4
	牛田敦之	ベスト32	ベスト32	ベスト16	
	大原文平	2R			
2012年 平成24年度	土居諒大		ベスト32		
	高橋 隼		本戦		
	風早一樹		本戦		
	女子 宮崎優実	ベスト4	ベスト8	準優勝	
	木下ミサ	ベスト16	ベスト16		
	角田良美	ベスト16	ベスト8	準優勝	
	井上貴博	ベスト8	ベスト8	ベスト16	ベスト4
	富田真吉	ベスト16			
	篠川智大	ベスト16	ベスト8	ベスト8	ベスト4
	牛田敦之	ベスト32	ベスト32	ベスト16	

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア	
		S	D	S	D
2009年 平成21年度 男子	長谷川梨紗	2R	ベスト16		
	荒木史織	本戦			
	美濃越彩	本戦			
	井上貴博	ベスト8	ベスト8	ベスト16	ベスト8
	篠川智大	ベスト16	ベスト8	ベスト16	ベスト8
	牛田敦之	ベスト32	ベスト32		
	河原 純	2R			
	土居諒大	2R	ベスト32		
	田村和也	2R	本戦		
	井原 力		本戦		
2010年 平成22年度 男子	木下ミサ	ベスト16	ベスト16	ベスト8	準優勝
	荒木史織	2R	ベスト16		準優勝
	美濃越彩	2R			
	長谷川梨紗	本戦			
	宮本紗織	本戦	ベスト32		
	下村恵那		ベスト32		
	井上貴博	ベスト16	ベスト8		ベスト8
	土居諒大	2R	ベスト4		
	篠川智大	2R	ベスト4		ベスト8
	田村和也	2R	本戦		
2011年 平成23年度 男子	井原 力	2R	本戦		
	高橋良平	本戦			
	長久保大樹		本戦		
	風早一樹		ベスト8		
	岡部慎一郎		本戦		
	女子	宮本紗織	ベスト16	ベスト32	ベスト16
		山本翔子	ベスト16	ベスト32	ベスト16
		鈴木直子	2R		
		荒木史織	2R	ベスト8	ベスト8
		伊波佳苗	2R	ベスト32	ベスト16
2012年 平成24年度 男子	長谷川梨紗	本戦	ベスト32		
	田村和也	ベスト32	ベスト32		ベスト8
	林 倫正	ベスト32			
	長久保大樹		ベスト32		ベスト8
	女子	宮本紗織	ベスト8	ベスト16	
		長谷川梨紗	ベスト16	ベスト16	
		荒木史織	ベスト16	ベスト32	ベスト8
		伊波佳苗	ベスト32	ベスト16	ベスト16
		山本翔子	ベスト32	ベスト16	ベスト16
		鈴木直子	ベスト32	ベスト32	
2013年 平成25年度 男子	伊藤優花	2R			
	境 有紀		ベスト32		
	女子	高橋良平	2R		
		林 倫正	2R		
		仲村元希	2R		
	女子	山本翔子	準優勝	準優勝	ベスト4 優勝
		伊波佳苗	ベスト16	準優勝	ベスト16 優勝
		伊藤優花	2R		
	女子	白井卓也	本戦		
		仲村元希	ベスト32		
2014年 平成26年度 男子	女子	山本翔子	ベスト8	ベスト4	
		伊波佳苗	ベスト32	ベスト4	
		伊藤優花	2R		
	男子	白井卓也	本戦		
		仲村元希	ベスト32		
	女子	山本翔子	ベスト8	ベスト4	
		伊波佳苗	ベスト32	ベスト4	
		伊藤優花	ベスト32	ベスト16	
	男子	松本千広	2R	ベスト16	
		小堺透馬		ベスト32	
2015年 平成27年度 男子	仲村元希	本戦	ベスト32		
	女子	田中亮寛	ベスト8	本戦	ベスト16
		橋本大貴		本戦	
	女子	松本千広	ベスト32	ベスト32	ベスト4
		山藤彩香	ベスト32		
		辻本有佳里	2R		
		田中文彩		ベスト32	
		高橋玲奈	ベスト8		
	男子	橋本大貴		ベスト32	
		恒松拓未		ベスト32	
2016年 平成28年度 男子	女子	加藤彰馬	2R	ベスト32	
		吉田 慎		ベスト32	
		山藤彩香		ベスト32	
	女子	橋本大貴		ベスト32	
		恒松拓未		ベスト32	
		加藤彰馬	2R	ベスト32	

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア	
		S	D	S	D
2017年 平成29年度 男子	田中文彩	2R	ベスト32		
	高橋玲奈		ベスト32		
	中沢夏帆	本戦			
	橋本大貴		本戦		
	恒松拓未		本戦		
	加藤彰馬	2R			
	田中文彩	ベスト32			
	高橋玲奈	ベスト32		ベスト32	
	中沢夏帆	2R	ベスト32		
	山口真琴	2R			
2018年 平成30年度 男子	楚南美波		ベスト32		
	朝倉菜月		ベスト32		
	加藤彰馬	ベスト16	ベスト32	ベスト8	ベスト8
	吉田 慎		ベスト32		
	高見澤岳飛	2R		ベスト32	
	堀内竜輔	本戦			
	熊坂拓哉			ベスト16	
	高橋玲奈	ベスト32	準優勝	ベスト16	優勝
	中沢夏帆	ベスト4	準優勝	ベスト32	優勝
	山口真琴	本戦		ベスト16	
2019年 平成31年度 男子	楚南美波		ベスト16		
	大西沙依		ベスト32		
	南 文乃		ベスト32		
	朝倉菜月		ベスト16		ベスト8
	松田美咲	準優勝	ベスト16	準優勝	ベスト8
	加藤彰馬	ベスト16	ベスト32	ベスト32	ベスト8
	吉田 慎		ベスト32		
	高見澤岳飛	ベスト32		ベスト32	ベスト8
	工藤颯人	ベスト32		ベスト32	
	熊坂拓哉	ベスト32		ベスト16	
2020年 令和2年度 男子	堀内竜輔	本戦			
	南 文乃	ベスト32			
	松田美咲	ベスト32	優勝	ベスト4	ベスト4
	朝倉菜月		ベスト32		ベスト4
	伊藤さつき	2R		ベスト16	ベスト8
	中島美夢		ベスト32	ベスト16	ベスト8
	熊坂拓哉	ベスト32	ベスト16	ベスト4	ベスト16
	高見澤岳飛	ベスト16		ベスト8	ベスト16
	清水奎吾	2R		ベスト32	
	堀内竜輔	2R	ベスト16	ベスト32	ベスト16
2021年 令和3年度 男子	工藤颯人	2R			
	濱口昌孝	ベスト16			
	岡悠多		ベスト32		
	石井智也		ベスト32		
	権藤卓巳		本戦		ベスト16
	古藤嵩大		本戦		
	松田美咲	ベスト8		優勝	ベスト16
	朝倉菜月				ベスト16
	中島美夢	ベスト32	ベスト16	ベスト32	ベスト16
	伊藤さつき	ベスト32	ベスト16	ベスト32	ベスト16
2022年 令和4年度 男子	山崎郁美	ベスト4	ベスト32	ベスト4	
	吉川ひかる	ベスト32	ベスト32	ベスト32	
	濱口昌孝	ベスト32	ベスト16	ベスト32	
	目黒志和	ベスト32	ベスト16	ベスト16	
	岡悠多	ベスト32	ベスト32		
	石井智也		ベスト32		
	権藤卓巳		ベスト32		
	古藤嵩大		ベスト32		
	中山麗未	本戦	ベスト16		ベスト16
	安井愛乃		ベスト8		ベスト8
2023年 令和5年度 男子	中島美夢	2R	ベスト32	ベスト16	ベスト16
	伊藤さつき	ベスト32	ベスト32	ベスト32	ベスト16
	山崎郁美	ベスト8	ベスト8	ベスト8	ベスト8
	吉川ひかる	ベスト32	ベスト16	ベスト32	ベスト16
	齋藤瑠奈	ベスト32			
	園城海遙	本戦			
	沼野菜海	本戦			
	児山心美		本戦		
	富永菜		本戦		

亞細亞の部活

入学前から卒業までの流れ

入学前

高校3年 ⇒ 大学1年

大切な時間 大学入学前から部活は始まっている

12月

年末合宿(12月20日~27日)

練習内容

- ・学生は全国各地から延べ100名を超す参加者(高校生・中学生)とともに練習やトレーニングを行なう。後輩たちとともにに行なうことにより、テニスの基礎を確認、時間をかけて徹底的に基礎を磨く。



ときにOB、OGやプロ(スペシャルゲスト)も参加。レクチャーを受ける高校生や部員たち



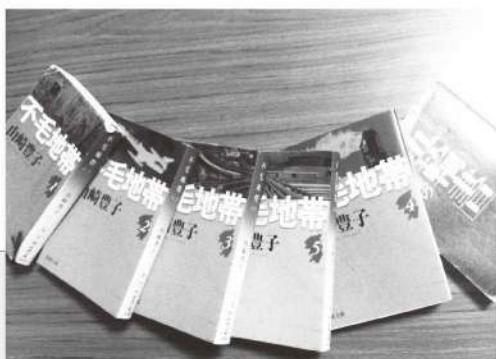
全員コンチネンタルグリップへ移行

- ・その年にやり残した課題、自分の改善点を徹底的に克服する。

- ・特にサービスは改善の必要がある場合が多く、この時期にグリップをコンチネンタルにして、基本を学ぶ。

オリエンテーション

- ・部員が作成したカレンダーに基づいて、翌年1年間のスケジュールを説明。
- ・4月からスタートする大学生活、特に授業に関する説明がある(4年間で必要な124単位に関して)。1年生での単位数取得の方法とその重要性などのレクチャーを受ける。
- ・『テニス発見ノート』を作成。
- ・翌年2月から始まる合宿までの宿題となるのが読書。『五輪の書』と『不毛地帯』を読み、後日感想文を提出。



1月

・冬休み(故郷へ帰省する学生が多い)

- ・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦。有志を募り、学生や監督・コーチとともにメルボルンへ。予選および本戦を観て、肌で“世界のテニス”を感じる(1月10日前後~20日前後まで)。※新型コロナウイルス感染拡大の為、未定



監督・コーチと同じ部屋で、夜中もテレビを観ながら談笑



オーストラリアン・オープンのセンターコート

2月

- ・高校を卒業した学生から2月の合宿に参加(12年年末合宿での宿題提出)。

- ・大学4年間でのテニス活動における準備(基礎体力や基礎技術の改善)。

- ・翌3月に大学で開催する男女の国際大会の準備をする。

- ・これから的生活拠点、活動の準備をする。

- ・国際大会参加を想定し、ITFのI-pin(アイ・ピン)登録と春の男子フェューチャーズ、女子サーキットへの申し込みを行う。

3月

- ・基礎練習から応用練習への移行期。

- ・体力強化を継続する。

- ・月末から始まる男子フェューチャーズと女子サーキットへの参加を目指すとともに、大会運営に参加する。



スーパーバイザーや審判のレクチャーなどを受ける学生

4年間の目標を考える。 学生は本物を学べ!!

大学

1年

- ・1年間で40単位取りきれるように努力する。
- ・体力、技術、精神の向上を目指す。
- ・基礎体力、基礎技術の取得。
- ・大学テニス界での自分の位置を確立すること。春／夏の関東学生での予選突破や本戦での活躍。インカレでの活躍。学生ランキングを上げること。
- ・新しい生活に慣れ、部活動とともに大学生活においての自分のベースを確立すること。

大学

3年

- ・3年生終了時に、124単位を取り切れるように努力する。
- ・勝負の年を充実させていく。
- ・海外遠征や国内トーナメントなどに積極的に参戦する。
- ・卒業後のことを見据えて、思いきりチャレンジする。
- ・卒業後に向けて進路を決定していく。部活動をきちんとこなしながら就職活動を行なう。

大学

2年

- ・さらに40単位を取り、3年生で124単位取り切れるように努力する。
- ・勝負の年にする。
- ・体力、技術力のさらなる向上。
- ・積極的に对外試合や国内一般トーナメントに参加する。
- ・目標を忘れず、周りに流されないこと。

大学

4年

- ・4年間の集大成として、思いきり勝負する(そうなるように1～3年生をコツコツと精一杯努力しておくことが重要)。
- ・積極的に海外遠征でチャレンジする。
- ・卒業後の準備をする(プロ、実業団、指導者、教員、一般社会人など、それぞれの道へ)。
- ・教職科目を履修している学生は、母校にて教育実習を行なう。

Aプロジェクト**亞細亞テニス部員が4年間かけて達成することを
“Aプロジェクト”と呼ぶ**

- ・JTA(全日本ランキング)100位以内を目指す。(男子1243位～1位／女子658位～1位)そして、全日本選手権への出場、活躍を目標に努力する。

- ・年間52週のうち3分の1の休みをうまく活用してオープン大会へ積極的に参加、ランキングを上げる。
- ・テニスの戦略&戦術を学び、必要な技術に

- 磨きをかけていく。
- ・基礎体力の向上を目標に計画性をもち、目標達成の原動力にする。

戦術の研究 情報・理論の収集・勉強

コーチングスタッフは、ユニバーシアード元日本代表選手、全日本チャンピオン、インカレチャンピオン、グランドスラム出場経験者など。その経験を生かし、年間の練習プラン、メニュー作成から、実戦練習、戦術、ゲーム研究までを学生といっしょに行なう。

・堀内監督によるテニス講義「戦略と戦術」について、それに必要な「9つのボール調整」「ナチュラルスピンドサービス」などが考え方のベースとなる。

・部室には、テニス、トレーニングに関する1000冊を超える書籍やテニス関連の映像教材が設置されていて、自由に利用できる。

・毎年1月に行なわれるオーストラリアン・オープン観戦の遠征や、国内主要大会観戦(デ杯・フェド杯・ジャパンオープン・東レPPO・全日本)に、積極的に出掛けて、理論を勉強する。情報収集の重要性。

・主催する男女国際大会でのゲーム分析(サービス、リターンの確率／エース・ミスの調査比較など)。出場学生のほか、参加選手のデータ収集も可能となり、非常に有効な情報収集、研究の場となる。

・自身の練習や試合を撮影し、部室のテレビなどを使ってチェック、改善に役立てる。

・主要大会のゲーム映像を部室の大型テレビで研究。

・関東大学テニスリーグなどのゲーム分析。

・時間や空間、場所取りなどテニスにおける戦術をゲーム分析含め映像やデータなどから読み取り、実際に役立つように処理し修得する。

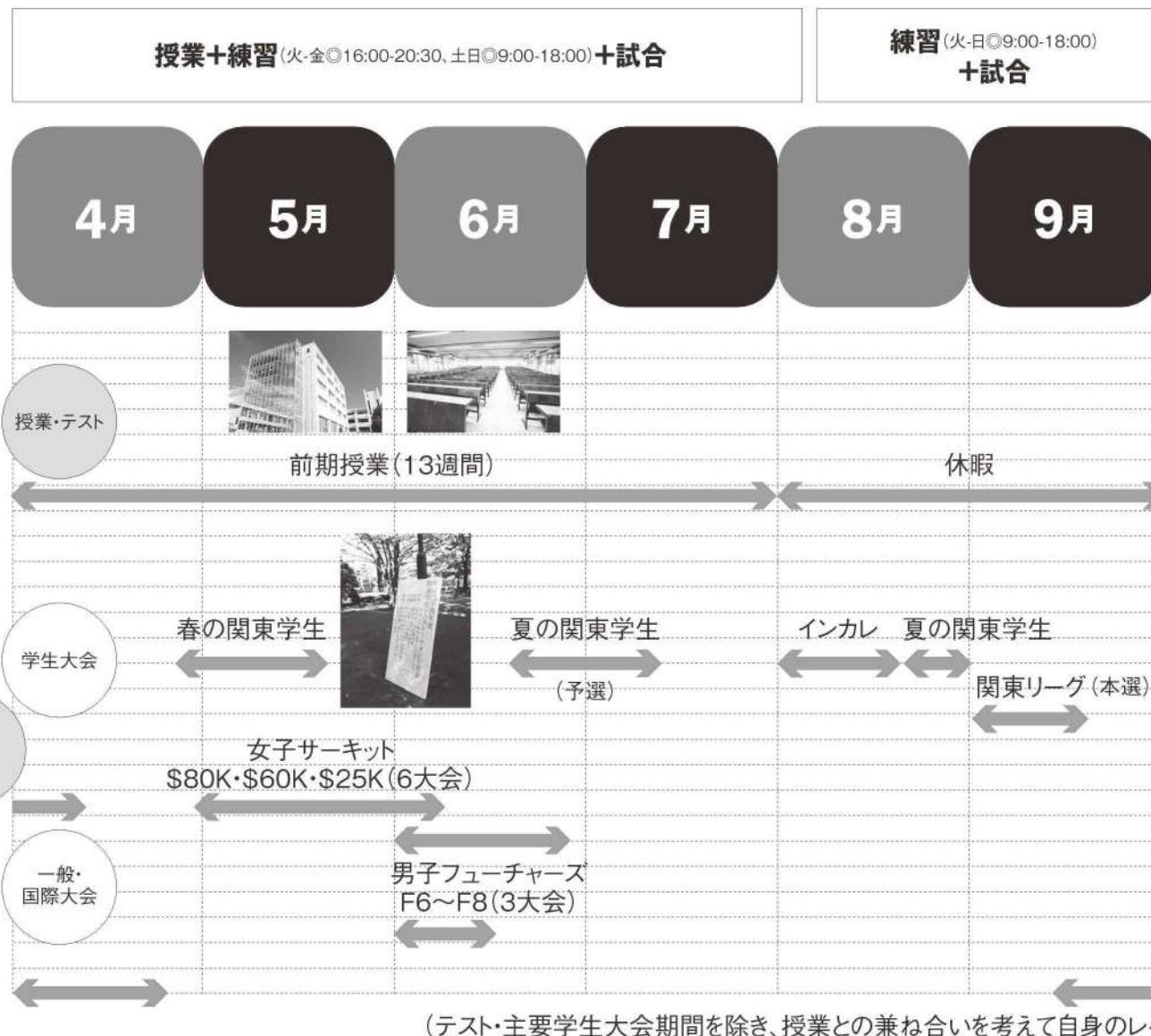
試合後のミーティングが特に重要

トーナメントを終えたあとは、コーチングスタッフとミーティングを行なう。反省をもとに改善点を洗い直し、その反省を生かし、次のプランを作成し実践していく。

卒業生のプロたちも学生を強力サポート

卒業生で選手活動をしている選手が、大会の合間に練習に参加し、学生を引っ張っている。心・技・体を学生とともに鍛え、磨き上げていくことができるのも、いまの亞細亞の大きな特徴。卒業生プロたちは、卒業後も大学をホームコートとして活用している。

1年間の流れ



年間スケジュール

- ・「国際大会チャリティークリニック」を年間20回を目標に開催
(※写真⑪)チャリティークリニックの風景
- ・毎年3月後半に男女国際大会を主催。男子F1フューチャーズ(\$1万)／女子サーフィン(\$1万)

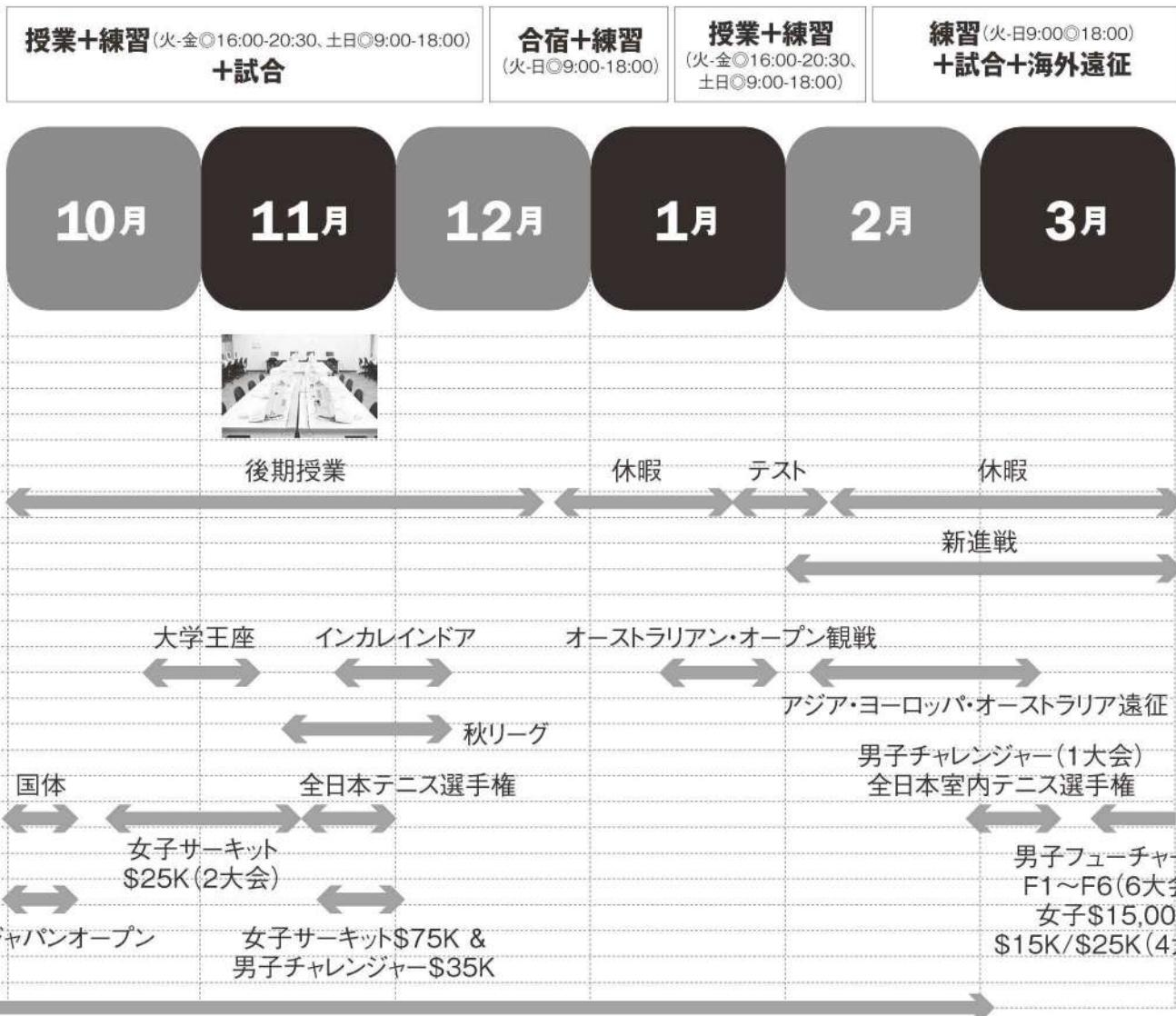


月間スケジュール

- ・対抗戦やトーナメントスケジュールの確認
- ・クリニックや行事の確認
- ・試合、練習計画作成



12ヶ月のスケジュール。学事、学生大会、国際大会、JTAトーナメントを記載



考慮し20万～300万までの国内大会)

週間スケジュール

- 基本的に毎週月曜日がOFF
- 外部スクールへアシstantトコーチ派遣／①昭和の森TS、②武蔵野ドームTC
- 毎週水曜日(授業期間中)は、武蔵野キャンパスにてお昼にミーティング
- 土日には、その週の反省と次週の確認を含めミーティング

日常のオンコートスタッフ陣

- 堀内昌一監督／森 稔詞コーチ(週6日)
- 長久保大樹プロ(週6日)

1日スケジュール**授業有り (練習時間／火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00)**

- 基本的に1限が9:00からスタート。テニス部員はできるだけ3限までに授業を登録受講し、練習時間の確保に努める。
- 10面のテニスコートを使用する。
- オンコート練習(ナイター設備があり、20:30まで練習可能)。
- 3時間の練習と1.5時間のトレーニング。男子10km、女子8kmのランニング。
- 400mトラックを使いインターバルやランニング、フットワークトレーニングなど。
- トレーニングジムにてウエイトトレーニング。コートではフットワークドリルやプライオメトリクストレーニングなどを行なう。
- 雨の場合は、昭和の森TSインドアコートへ移動して、練習する場合もある。



契約トレーナーとともにフットワークトレーニングを行なう

我々は本物のテニスを追求する。

心

の追求

- ・スポーツマンシップの獲得(グッドルーザー～潔く負けを認められる人になるためには…)
- ・メンタルトレーニング受講(月1回、部員は高妻容一先生の講義を受講)。メンタルのスキルアップを実戦している。
- ・礼儀やモラルを大切にする(テニス部というチームで、仲間との協調性を磨き、団体行動において必要とされるモノを取得する)。
- ・PDCA(plan / do / check / action)の徹底。
- ・復習の徹底(試合報告書の作成や本を読み、座学を受けた際の感想文作成など)
- ・個々が毎日精一杯努力し、人間的成长を目指す。



テキスト『スポーツマンシップを考える』

技 の追求

なぜ必要なのか?

テニスは対戦競技であり、ネットを挟んで相手と対峙し、1ポイントを奪い合うスポーツ。1ポイントを奪い合い、1ポイントの積み重ねが1ゲームになり、1ゲームの積み重ねが1セットになり、1セットの積み重ねが1試合になる。

そのようなゲーム特性を踏まえると対戦するふたりは、テニスコートの中で、「間」=時間をうまく使い、「場」=スペースを確保し、あるいは埋めることを考えて、実行に移す。テニスはお互いが「時間」と「場所」を奪い合うスポーツである。その手段として必要になるのが「技」。

現在の競技力は劇的に進歩しており、スピードもスピinnもリカバリーも戦術も、より速く、より重く、より変化に富み、より高度に、より巧みになっている。スピードがある——すなわち時間がない——限られた時間の中で、プレイヤーの選択は、<いかに時間を有効に使うか>という、<戦術に基づいた技術>に進化している。

それは、<いかに無駄な時間をなくすか>ということにつながり、さらに、より機能的な運動に近づくという<再現性の高い運動>をすることでもある。それが、いま我々が目指している「技」である!

体 の追求

・専属トレーナーによる年間50日間のトレーニング指導。

・毎日のランニング(男子10km／女子8km)

・火曜日-金曜日(平日)は3時間のオンコート練習と1時間30分のトレーニングで、徹底的に「技」と「体」を追求する。

・テニスコート(ナイター完備)、陸上トラック、トレーニングジムとともに9:00-20:30まで利用できる。

・トレーニング1時間30分の内容は、韓国式(体幹)トレーニング、ジムトレーニング、オンコートフットワークドリル、メディシンボールでのブレイオメトリックトレーニングなど。

・土・日・休日は6時間のオンコート練習となる。

……なぜ6時間もオンコート練習か

……シングルス3セットマッチを2試合、ダブルス3セットマッチを1試合という、現行ルールでの最大ゲーム数を問題なくプレーするための準備。それに耐えられるだけの身体をつくることを目標にしている。常に「将来」に目を向けてトレーニングする。



目的意識を常に持ってランニング

すべてに共通、練習はできるまでやる!

どんなことが必要?

- 「再現性の高い運動」
- 「戦術に基づいた技術」
- 「時間をつくる」

- ・時間をつくるとミスが減る。時間をつくると相手を「観る」「探る」「読む」ことができる。時間をつくると場所が確保できる。
- ・我々は、時間をつくるために必要な技術、「戦術的技術」も追求していく。
- ・ただボールを打つだけでなく、技術の効果をどう上げるかを考えながら、技術習得を目指す。
- ・必ずその技術を習得するために、時間で区切った練習はせずに、できるまでやる～達成型の練習を行なう。
- ・対人練習はもちろんのこと、選手同士のコーチング練習、高校生やジュニア、一般プレイヤーを対象としたクリニックでの指導も、さまざまな角度から「技」を磨くためのものである。

もっとも追求している技術のひとつが「サービス」

試合の中で使う全ショットのうち、3分の1を占めるのがサービスである。ということは、3時間の練習であれば、1時間はサービス練習に費やす必要があると考える。サービスは、テニスの中で唯一のクロースドスキル(相手の影響を受けずに打てるショット)であり、自分自身でコントロールできるショット。サービスを追求することは、テニスの質を高める上で絶対に外せない。だからどんなに時間がかかるとも、亞細亞では徹底的に追求し、改善し、習得を目指す。

基本的にストロークにおいては、ボール調整(9種類と考えている)を行ない、練習に取り組む。各コートにはゴムで高さを設定し、目指すボールの種類をもって、この高さをクリアするまで練習は終わらない



写真◎●●●●

19

88年、亞細亞大学テニス部は大々的な強化をスタートさせました。その舵取りをしたのが、私の恩師のひとりである亞細亞大学元学長、衛藤藩吉先生（故人）です。先生は「テニスは、ラケット1本で世界中どこでもプレーすることができ、半日でいろいろな国の人とも親交を深めることのできる素晴らしいスポーツ」とおっしゃっていました。

私はいま、そのテニスを通して、志ある学生たちと日の出のテニスコートで汗を流しています。

関東大学テニスリーグ男子7部／女子5部からスタートし、大学王座優勝まで上り詰め、数々の全日本優勝者やグランドスラムでプレーする選手を輩出してきた亞細亞には、現在、ATP・WTAポイントを取得してグランドスラム出場を夢みる学生や、全日本、インカレ、関東学生に出場し、優勝することを目標に日々練習に励んでいる学生、ケガからの復帰を目標にリハビリしている学生などがいます。

そんな学生たちがいる現場では、目標を達成した学生が、新たな目標に向かいいそそう努力する瞬間、目標に届かずあきらめかけ、もがいている瞬間、再度挑戦している瞬間、目標を失い、迷っている瞬間など、それぞれの一喜一憂を目します。その中で私の役目は、個々の「夢」を思い起こさせ、目の前で起きていることに左右されず、軸をもち、軸をぶらさず、目の前の小さなことからクリアしていくようにアドバイスし、導くことです。



大学4年間は、大人になっていく過程でもっとも重要な時期です。一見「楽しそう」に思えることが多々出てきて、気持ちがぶれることがあります。でも長い人生、いくらでも時間はあります。いましか打ち込めないものを見定め、自ら何をすべきか優先順位をつけて自分を磨いてほしいと思います。

テニスを長くやっているとうまくいかないことだけで、あきらめそうになる瞬間もあります。しかし、小さい頃から好きで続けてきた「夢」を簡単にあきらめてはいけません。亞細亞で「夢」を必死に追い続けてみませんか。

私たち、亞細亞大学テニス部の目指す「夢」とは、テニスを通じて人間力を高めることにあります。大学王座やインカレを獲ることに収まらず、全日本選手権優勝やユニバーシアード、グランドスラムへの挑戦——と同時に、社会に出ても大きな力となるスポーツマンシップを修得することです。

「夢」の実現には、まず自分を信じて努力し、学生生活で仲間をつくり、学業で知識を深め、部活動を通して思いやりをもてるよう、そして人に感謝できるように、人のためになれるように人間力を磨くことです。

現在、それらを経験してきたコーチングスタッフ、堀内監督をはじめ、卒業生たちが日々コートに立ち、学生たちを指導しています。

現在の亞細亞大学テニス部のリーグ戦、個人戦の結果を振り返ると、課題は多く、私はもう一度初心に戻って、取り組まなければならないと思っています。自分の学生時代を思い出し、学生たちとコートに立ってボールを打ち合い、うれしいときはともに喜び、つらいときはともに歯を食い縛り、同じ夢を追いかけようと思います。「夢を変えずに自分を変えよう！」——私の好きな言葉です。いっしょに夢を叶えませんか。

**夢を簡単にあきらめないで。
「夢」を変えずに
「自分」を変えましょう！
亞細亞で「夢」を必死に
追い続けてみませんか。**

森 稔詞

（亞細亞大学テニス部コーチ）

挨拶

学長 永綱 憲悟

(亞細亞大学)

楽しくなければ
大学じゃない
面白くなければ
学問じゃない

アジアと共に 亞細亞大学

テニス部「チームガイド兼国際大会状況報告2022年度版」発刊を祝して、一言ご挨拶申し上げます。私は昨年秋、学長就任のさい、「楽しくなければ大学じゃない 面面白くなければ学問じゃない アジアと共に 亞細亞大学」というスローガンを掲げました。それは新型感染症拡大により、若者が内に閉じこもりがちな状況を脱却し、学生たちがにぎやかに集う大学を早く復活させたいという思いから出た言葉でした。同時に、大学生活を充実して過ごした者こそが、社会においても、第一線で活躍できるようになるという信念もそこにありました。

昨年、活動を再開したテニス部は関東学生テニス選手

権での活躍をはじめ、見事な結果を残しました。また多くのテニス部員が、学修にも真剣に取り組んでいるとうかがっています。テニス部はその意味で、楽しい大学作りの先頭に立ってくれているものと思います。

さて、私の専門のロシア研究との関連では、テニスといえば、マリア・シャラポワの名前が浮かんで来ます。シャラポワは、ロシア隣国のベラルーシ生まれですが、 Chernobyl 原発災害から逃るために西シベリアに移住し、のちに名選手ナブラチロワに認められて、アメリカへ移住することになります。グローバル化時代のスポーツ選手は国境を越えて活躍するという典型例かと思います。本学の



テニス部も国際テニス大会を開催するなど、ひじょうに先端的な試みを早くから行っているようで、素晴らしい限りです。

ところで本学では2023年度に経営学部データサイエンス学科開設を構想中です。データを分析して、それを課題解決に生かすという学問手法は今後あらゆる分野で必要とされるものです。テニスを含むスポーツにおいても、データ分析は重要な要素となってくるかと思います。国際性そしてデータ分析力も武器に加え、本学のテニス部がいっそうご活躍をされることを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。



宇田川 裕

(学校法人亜細亜学園事務局長)

社会に有為な人材の輩出、
社会貢献に取り組み、
**“世界に開かれた
テニスチーム”を目指します。**

亜細亜大学テニス部は、50年を超える歴史と伝統、輝かしい戦績や、多方面で活躍される卒業生の存在だけではなく、他には実現できない画期的な練習プログラムや教育システムをもって運営され、常に前進し続けています。

テニスプレーヤーの誰もが、満足できる成果を上げたいと思っています。ただ、練習によって技術を磨き、単に大会に出場するだけでは、その目的は達成できません。プレーするのは人間ですから、全般を鍛えていくことが必要なのです。また、今般の激変する社会環境にあって、大学卒業後に社会人として逞しく生き抜くには、スポーツの技術や理論を通して、思考力、実践力を身につけ、友人との協働とさまざまな社会体験によりコミュニケーション能力を養って、人間力を高めることが重要となります。

これを実践するために、私たちはさまざまな実践プログラムを用意しています。まさに、心・技・体を鍛え上げる、人間力の高いバランスのとれた学生育成を行なうのです。

そして、海外遠征や国際テニス大会の運営によって、国際感覚をも磨いてゆくのです。

私たちは、社会に有為な人材の輩出やテニス競技普及等の社会貢献に取り組み、皆さんとともに“世界に開かれたテニスチーム”となることを目指していきたいと思います。



金子 国彦

(教務部教学センター課長)

明るく、爽やかで、個性豊かな
バランスのとれた人間に
成長してほしい。
**国際社会に貢献できる
人材育成が目標です。**

亜細亜大学テニス部は、スポーツ新興の一環として大学の強化クラブに指定されており、大学テニス界においてトップクラスの戦績を挙げています。これも堀内昌一監督、森稔司コーチ等の熱心な指導による、部員ひとりひとりの日頃の努力と、チームとしてのまとまりがこのような良い結果につながったと思います。

本学は、単にテニスが強い大学を目指してはおりません。部員ひとりひとりが社会で活躍できるよう育成すべく、大学生活においてもていねいな指導を心がけております。特に授業のサポート体制は他大学にないものであります。同時に生活指導も行い人格形成においても、明るく、爽やかで個性豊かでバランスのとれた人間に成長していくことを目標としています。

また、大学という教育機関が、世界レベルへの登竜門となる国際テニス大会を主催することにより、本学の使命でありアジア地域を中心とした国際化の取り組みを実践する場となり、国際社会で貢献できる有為な人材の育成を図っております。

人柄がよく、やる気のある者、自分の可能性を信じてひとも、亜細亜大学のテニス部にチャレンジしてください。クラブ一同、歓迎いたします。

衛藤藩吉先生を偲んで

この出会いですべては始まった

文◎堀内昌一

「亜細亜大学学長の衛藤です。帰国したら大学で会おう!」——昭和62年7月、私がジュニア日本代表チームのコーチとしてロンドン（ワインブルドン）に遠征していたときにいただいた電話です。

帰国して学長室を訪ねると、衛藤先生はランニングシャツに下駄履きといいで立ちで私を迎え、大学改革についての思いをぶつけてきました。そこで私も、生意気にも自分の思いをぶつけました。日本テニス界は18歳以上の強化が課題であること、大学での指導の必要性、そして世界挑戦——当時の私は26歳です。

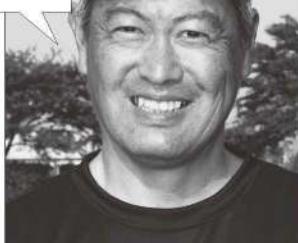
衛藤先生は、私の話をにこにこしながら聴いてくださり、こう言いました。「テニスはどこへ行つても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事もひとりでやり抜くことができるよ」と。衛藤先生はテニスが大好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこそ言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考えての手段となることが少なくない世の中、衛藤先生の純粋な考え方には惹かれ、亜細亜大学を選ぶのにもう時間はいりませんでした。あれから35年が経ち、あのときがなかつたら……いまの私もテニス部もありません。だから衛藤先生、心からありがとうございます。いつも見守つてください。

亜細亜大学テニス部 指導スタッフ紹介

ディレクター兼テクニカルコーチ

教え子のコーチ陣に囲まれて、指導体制はとても充実しています。その指導に甘えることなく、自立した学生、選手、部活動を目指しています。



堀内昌一監督

(亜細亜大学教授／テニス部監督)

全体を統括し、学生がテニスに集中して競技力を向上できる環境を整えている。これまで育ててきたOB、OG複数名をコーチとして迎え、指導者が常駐するほか、遠征に帯同できる準備もある。そのほか、トレーニングコーチ、メンタルコーチ、メディカルスタッフも揃え、あらゆる角度から学生をサポートする。

ほりうち・しょういち◎1960年に東京都世田谷区に生まれる。1972年に中央大学附属高校に入学、戦績はIH都予選ベスト64だった。日本体育大学に入學し2年生のときアメリカのニック・ポロテリーに留学、その後New Mexico Military Institute大学に留学。1982年には全米短期大学テニス選手権でベスト8に入った。帰国直後のインカレでベスト8入り、翌年の関東学生では優勝。その後、ユニバーシアードに選ばれた。日本体育大学院修了後、1987年に亜細亜大学の衛藤清吉学長と出会い、テニス部の監督を引き受ける。しかしそのときの亜細亜大学は男子7部女子5部、共に最下位であった。1988年、監督の指導力に惹かれて、前年のIHチャンピオンの岡田岳二さんや山崎史子さんをはじめ、高田充さんらの高校トップクラスの選手が亜細亜に入學し亜細亜大学の快進撃が始まった。ATP S 571位/D 713位 JOP S 17位/D 13位

テクニカルコーチ



森 稔詞

(亜細亜大学スポーツ振興センター所属)

大学強化第一期生が母校に戻り、学生に“テニスの精神”を叩き込む全力指導をしている。週6日男女部員を指導。

もり・としぎ◎1969年12月22日大阪府で、父(故)顕郎と母孝子の間に生まれ、弟大明の2人兄弟。父の仕事の都合で東京へ上京。小学校在学中、地元の多摩ローンテニスクラブで毎日壁打ち週末は野球。中学校在学中、平日は多摩ローン、週末は朝日生命テニス教室(スクール)へ通う。のち、大阪にある名門清風高校へ進学。3年次インターハイでは団体・単・複すべて準優勝。全日本ジュニア18歳以下複優勝。その後、亜細亜大学へ進学し3・4年次インカレ単2連覇とアジア学生選手権単複2連覇。90年ユニバーシアード日本代表(イギリス)複ベスト8。卒業後プロ転向プリンスホテルと契約。92年全日本テニス選手権複優勝、94年全日本室内選手権単優勝。97年引退。現在、亜細亜大学堀内監督の下、後進の指導にあたる。07年ユニバーシアード日本代表監督。日本ランキング単5位・複4位 / ATPランキング単579位・複473位が最高。大学1年生から8年間ナショナルチームメンバー。S級エリートコーチ。



高橋 隼

男子部員を中心に指導。選手経験に基づいた戦術や理論のコーチングを行っている。

たかはしじゅん◎1987年9月生まれ。東京都出身。02年全国中学テニス選手権複ベスト16。03年全日本ジュニアテニス選手権複出場。05年全国高校総体団体ベスト8・複ベスト16。06年・08年全日本学生テニス選手権出場。ブリヂストンスポーツ入社。2013年ASC(アジアスポーツクラブ)創設。現在はASC(アジアスポーツクラブ)にてジュニア育成をしながら学生の指導にあたる。



長久保 大樹

現役プロのツアーコーチにも帯同し、その経験を活かした指導から学生が厚い信頼を置いている。また、トレーニングの指導も行う。

ながくぼ・だいき◎1989年7月19日生まれ。学生時代は春闘複ベスト4、新進複優勝、インカレ複ベスト8、インカレインドア複ベスト8、全日本学生テニス選手権複出場、ニッケ全日本テニス選手権複ベスト16に入る。現在はASC(アジアスポーツクラブ)でコーチをしながら学生のコーチング&トレーニングを指導している。

テクニカルコーチ

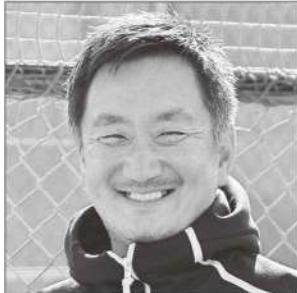


赤堀奈緒

週1日女子部員を指導。5部だった亜細亞を1部の常連にした立役者は、そのハングリー精神と職人気質な身体の使い方を指導してくれる。

あかほり・なお◎1971年生まれ。1987年東海大学附属相模高等学校に入学し2年次に全日本選手権ベスト8に入る。1990年亜細亞大学に入学し2年次にアジア学生テニス選手権(台湾)S優勝。全日本学生選手権Sベスト4、D優勝。全日本学生室内選手権S、D優勝。3年次には関東学生選手権S優勝。全日本学生選手権S優勝、D準優勝。全日本選手権Sベスト16Dベスト4になる。最高学年のときは、ユニバーシアードD準優勝。1994年大東銀行入行。1995年テニスプロ転向。1997年に全日本選手権Sベスト16、D優勝。1998年腰椎椎間板ヘルニアで引退。1999年～現在、民間クラブのテニスコーチ。2001年～2004年東京医療専門学校(鍼灸)。2004年～亜細亞大学コーチをしながら鍼灸マッサージの仕事をする。2011年～現在、祖師ヶ谷大蔵で治療院を開業中。

フィジオセラピスト



今泉智仁

選手の治療・コンディショニングを担当。豊富な経験から選手に寄り添った的確なアドバイスを送る。

いまいづみ・ともひと◎1972年10月1日生まれ。愛知県出身。北京中医薬大学医学部を卒業後、国内で鍼灸師の資格を取得。2007年よりテニスのツアートレーナーとしてプロに帯同し、体のケアとコンディションを整える。選手を一番良い状態でコートに立たせることに尽力することをモットーにしている。

メンタル担当



高妻容一

月に1回、メンタルトレーニングを指導。学生自らがトレーニングできるように、スクーディントトレーニングという役割を作って、トレーニングが継続できるように努力している。

こうづま・よいういち◎1955年、宮崎県生まれ。福岡大学(体育学部体育学科)卒。中京大学大学院(体育学研究科体育心理学)修了後、フロリダ州立大学へ留学(スポーツ心理学など)、博士課程中退。1993年、州立フロリダ大学へ1年間の研究留学。近畿大学教養部助教授を経て、現在、東海大学体育学部教授。1985～2001年、日本オリンピック委員会のメンタルマネジメント研究班員。1994年からメンタルトレーニング・応用スポーツ心理学研究会をスタート。所属学会は「国際メンタルトレーニング学会」など10を数える。

コンディショニング担当



平石貴久

亜細亞大学テニス部の心強いチームドクター。血液検査を定期的に行うなどして、身体に関する基礎知識を指導する勉強会を行うなどして、学生の体調を管理している。

ひらいし・たかひさ◎1950年鹿児島県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。専門は内科、循環器科、スポーツ医学、放射線診断、東洋医学。鍼灸あん摩マッサージ指圧師。介護予防運動指導員。日本体育協会公認アスレティックトレーナー。駒澤大学卒業後、小守スポーツマッサージで修業し、1977年からフジタ工業サッカー部のトレーナーに就任。1981年に独立し、日本トレーナー協会所属、三宅スポーツマッサージを設立。医療法人社団貴生会理事長。東京ミッドタウンメディカルセンター平石貴久特別外来ドクター。

トレーニング担当



石榑結太

月に数回、選手の治療・トレーニング指導を担当。試合時にはチームに帯同して、コンディショニングからマッサージまでを行なう。

いしへ・ゆんた◎1992年6月22日生まれ。岐阜県出身。大学でスポーツ科学を学んだのちに鍼灸師、あん摩マッサージ指圧師、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を取得。2019年より自由が丘で鍼灸マッサージ治療院—SPORT CONDITIONING LAB—の代表に就任。「治療」「コンディショニング」「トレーニング」を軸にジュニア選手育成からプロ選手の国内外の大会帯同やサポートを行なっている。2020東京オリンピックではテニス競技大会トレーナーとして活動。

学内スタッフ



宇田川 裕

(学校法人亜細亞学園事務局長)
亜細亞大学テニス部OBで、男子部部長である。現在は亜細亞大学職員として、学校の仕事もしながらテニス部の運営や就職の手伝いをしている。亜細亞大学国際大会事務局長。



金子国彦

(亜細亞大学教務部教学センター課長)
亜細亞大学テニス部OBで女子部部長である。現在は亜細亞大学職員として年度始めに履修カリキュラムのミーティングをしたり、部活との兼ね合いで履修ができない授業がある学生の、時間割変更などのサポートをしている。

部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR

男子

硬式庭球部

浅海 裕一

(主将)4年

- ①主将②埼玉県
- ③柳川高等学校
- ④2001年3月12日
- ⑤13年
- ⑥家族全員
- ⑦音楽を聴く
- ⑧百折不撓
- ⑨春闘1次予選敗退
- ⑩最後に嬉しひきして終わる。
- ⑪同期がいない中何とかここまでやってこれました。最後の年は、今までの全てを出していきます。

**橋本 一斗**

3年

- ①スカウト
- ②富山県
- ③水橋高等学校
- ④2001年7月2日
- ⑤14年
- ⑥カルロス・アルカラス
- ⑦スポーツ観戦
- ⑧パワー!!
- ⑨春闘1次予選敗退
- ⑩インカレ出場
- ⑪安全第一で頑張ります!

**齋藤 洋甫**

3年

- ①財務
- ②神奈川県
- ③上溝高等学校
- ④2001年9月24日
- ⑤9年
- ⑥日野知紀
- ⑦温泉
- ⑧純愛
- ⑨春闘1次予選敗退
- ⑩春闘2次予選出場
- ⑪物静かです。

**市野瀬 楓**

(主務)3年

- ①主務
- ②東京都
- ③霞ヶ浦高等学校
- ④2002年1月5日
- ⑤11年
- ⑥上杉海斗
- ⑦ギター
- ⑧思い立ったが吉日
- ⑨夏闘複2次予選SF
- ⑩インカレベスト32
- ⑪苦節20年。今年こそ結果出します。
ダンコ市野瀬!

**川崎 理比人**

3年

- ①学生コーチ
- ②山形県
- ③東京学館新潟高等学校
- ④2001年8月22日
- ⑤15年⑥平沢潤
- ⑦ボーリング、買い物
- ⑧努力は報われるまで努力する
- ⑨春闘複2次予選F⑩インカレベスト8
- ⑪納得が行くまで挑戦し続けます。インスタフォローお願ひ致します。

**齋藤 晶斗**

2年

- ①スカウト②宮城県
- ③東京学館新潟高等学校
- ④2002年5月9日
- ⑤15年
- ⑥アレックス・デミノ
- ⑦服を買う、映画鑑賞
- ⑧不撓不屈
- ⑨春闘単2次予選SF⑩インカレベスト8
- ⑪今年こそ良い年にできるように頑張ります。

**日野 知紀**

3年

- ①副将、IT・広報
- ②東京都
- ③松が谷高等学校
- ④2001年7月23日
- ⑤10年
- ⑥桜井淳
- ⑦ドラマ鑑賞
- ⑧凡事徹底
- ⑨春闘単2次予選F
- ⑩インカレベスト32
- ⑪泥臭すぎるプレーが持ち味です。日替わりフォアハンドで相手を圧倒します。

**芳谷 仁**

3年

- ①財務②香川県
- ③香川県立高松北高等学校
- ④2001年5月13日
- ⑤10年
- ⑥久保健英
- ⑦散歩
- ⑧気合
- ⑨夏闘複2次予選F
- ⑩インカレベスト8
- ⑪残り少ないテニス人生1日1日大事にしています。

**座間 大**

2年

- ①スカウト
- ②岐阜県
- ③岐阜商業高等学校
- ④2002年7月22日
- ⑤14年
- ⑥熊坂拓哉選手
- ⑦登山
- ⑧一石二鳥
- ⑨夏闘複2次予選SF
- ⑩インカレベスト16
- ⑪何事にも一生懸命、楽しくやります!

**松浦一貫**

3年

- ①スカウト②静岡県
- ③静岡市立高等学校
- ④2001年12月11日
- ⑤14年
- ⑥ヤニック・シナー
- ⑦ボディーメイク
- ⑧筋肉がNoと言っても、私はYesと答える。
- ⑨春闘複2次予選F⑩インカレベスト8
- ⑪筋肉の羽で今まで越えられなかった壁を越えてみせます。今年こそは結果を出します。パワーアード!

**李 光輝**

3年

- ①総務
- ②東京都
- ③堀越高等学校
- ④2001年10月10日
- ⑤11年
- ⑥土屋哲史
- ⑦映画鑑賞、ゲーム
- ⑧配られたカードで勝負するのさ。それがどういう意味であれ。
- ⑨春闘複2次予選SF
- ⑩単複インカレ出場
- ⑪恋愛相談は自分までお願いします。

**尹 準熙**

2年

- ①学生コーチ
- ②韓国(ソウル)
- ③柳川高等学校
- ④2001年6月8日
- ⑤12年
- ⑥ロジャーフェデラー
- ⑦読書、音楽⑧成長
- ⑨2015年U14ワールドジュニア韓国代表(予選、本戦)優勝、春闘単2次予選F⑩インカレ優勝
- ⑪今年は自分が納得できる結果を出すように頑張りたいと思います。



谷 嶋太

2年

- ①総務②東京都
③勇志国際高等学校
④2002年10月23日
⑤15年
⑥ラファエル・ナダル
⑦読書
⑧成長
⑨インカレ予選単出場
⑩インカレ優勝
⑪目標を達成できるように全力で頑張ります。



木塚 真彰

2年

- ①学連
②東京都
③松が谷高等学校
④2002年9月24日
⑤9年
⑥両親
⑦音楽鑑賞
⑧体力には限界があるけど、脳には限界はない
⑨春闘1次予選敗退
⑩単複インカレ出場
⑪もっと努力し続けたい上ります。



小倉 諭行

1年

- ①学生コーチ②東京都③目黒日本大学高等学校④2003年9月16日⑤7年⑥皇治さん⑦MMA(総合格闘技)・スニーカー集め⑧根性⑨全日本ジュニア出場、MUGFジュニアトーナメントベスト16、インターハイ団体ベスト8⑩インカレ上位⑪張り切れます。押忍。



橋本 洸矢

2年

- ①副務
②神奈川県
③津田学園高等学校
④2002年7月15日
⑤15年
⑥ラファエル・ナダル
⑦散歩
⑧勇往邁進
⑨夏闘単複2次予選SF
⑩インカレベスト8
⑪何事も諦めず全力で頑張ります。



宮崎 創

2年

- ①コートキーパー
②愛知県
③中京大学附属中京高等学校
④2002年1月9日
⑤3年⑥平塚太一
⑦フットサル
⑧表裏一体
⑨春闘1次予選敗退
⑩インカレ出場
⑪何事も勝ちにこだわり、バックハンドの左手はそえるだけ。



鈴木 克俊

1年

- ①財務②神奈川県
③日本大学三島高等学校④2003年8月24日⑤7年⑥ニックキリオス選手⑦綺麗な景色を見ること⑧為せば成る⑨S・Dインターハイ出場
三重国体静岡県代表⑩インカレ上位⑪全力でやり切ります。



大村 蒼汰

2年

- ①IT・広報
②沖縄県
③神村学園高等学校
④2002年11月12日
⑤12年
⑥渡邊聖太
⑦音楽を聞く
⑧フルスイング
⑨春闘一次予選敗退
⑩インカレ出場
⑪ちばります!



高山 秀汰

1年

- ①学生コーチ②埼玉県③浦和学院高等学校④2003年7月29日
⑤11年⑥レイントン・ヒューズ⑦サイクリング、筋トレ、スイーツ作り⑧「友情・努力・勝利」⑨令和3年度全国高等学校総合体育大会テニス競技大会団体ベスト16、シングルスベスト64⑩「インカレ優勝」「王座奪還」⑪やると決めたことはやり続けます。目標を達成できるよう頑張ります。



林 穂高

1年

- ①スカウト②東京都
③大成高等学校④2003年10月29日⑤9年⑥矢野洋、平本蓮⑦スケートボード、MMA観戦、フィギュア観戦⑧努力は天才を超える⑨U18関東Jr.ベスト16、関東高校ベスト16⑩インカレ上位⑪自分らしくやりきります。



松本 直杜

2年

- ①IT・広報②大阪府
③大阪産業大学附属高等学校④2002年5月9日⑤5年⑥松浦一貴⑦サイクリング
⑧結果の出ない努力は努力とは言わない
⑨春闘一次予選敗退⑩インカレ・インカレインドア出場⑪水泳で選手としてずっと活躍してきましたが、テニスでも活躍して水陸両用人間になります!テニスが大好き。



佐々木 康大

1年

- ①コートキーパー②新潟県③相生学院高等学校④2003年8月17日⑤12年⑥大谷翔平⑦バスケットボール観戦⑧勇気は一瞬、後悔は一生⑨全国選抜テニス選手権大会団体 優勝、インターハイ ダブルスベスト8⑩インカレベスト4⑪楽しく真剣に頑張っていきます。



真中 翔楊

1年

- ①スカウト
②茨城県
③足利大学附属高等学校
④2003年8月4日
⑤10年
⑥氏原将先生
⑦食べること
⑧笑顔
⑨関東大会ベスト16
⑩インカレ優勝
⑪努力で誰にも負けないよう頑張ります!!



部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
 ⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR

松元 翔一朗

1年

- ①総務
 ②鹿児島県
 ③佐土原高等学校
 ④2003年8月13日
 ⑤6年
 ⑥メドベージエフ
 ⑦音楽鑑賞・ゲーム
 ⑧努力を愛せ
 ⑨インターハイ出場
 ⑩インカレ出場
 ⑪チームに貢献できるように頑張ります。

**倉中 陽大**

1年

- ①コートキーパー
 ②広島県
 ③田無高等学校
 ④2003年4月3日
 ⑤10年
 ⑥熊坂拓哉
 ⑦カラオケ
 ⑧睡眠
 ⑨なし
 ⑩インカレ出場
 ⑪4年間頑張ります。

**安井 愛乃**

4年

- ①総務②愛知県③愛知啓成高等学校
 ④2000年10月29日
 ⑤15年⑥両親⑦料理、カフェ巡り⑧上手くやるより全力でやる
 ⑨インカレ複ベスト8、インカレンドア複ベスト8、夏闘複ベスト4⑩インカレ優勝、王座優勝⑪どんな時でも笑顔と感謝を忘れず毎日一生懸命頑張ります。ラスト1年全力でやりきります。

**二條 昂佑**

1年

女子
アジアローンテニス部

- ①IT・広報②香川県
 ③高松北高等学校
 ④2003年11月30日
 ⑤13年⑥山岡泰輔選手⑦プロ野球を見ること、音楽を聞くこと
 ⑧良い時ほど謙虚に悪い時ほど笑顔で⑨2021インターハイ団体出場⑩インカレ、大学王座出場⑪全力で一生懸命頑張ります!よろしくお願いします!

**中山 麗未**

(主将)4年

- ①主将②千葉県③東京学館浦安高等学校④2000年12月18日⑤16年⑥家族⑦スポーツ観戦⑧継続は力なり⑨インカレ単1R 複ベスト16 夏闘複ベスト4⑩全国優勝⑪ポジティブウォーマンになる!

**中島 美夢**

4年

- ①コートキーパー②大阪府③相生学院高等学校④2001年1月5日⑤13年⑥セレナ⑦音楽を聞くこと⑧今⑨春闘複2019準優勝、2020ベスト4、2021優勝 単複ベスト8 インカレンドア2021単複ベスト16⑩インカレ優勝⑪学生最後の1年、最後まで全力で!最高な同期と後輩と共に頑張ります!

**雨森 匠哉**

1年

- ①IT・広報②福井県③金沢龍谷高等学校④2003年11月2日⑤7年⑥平野歩夢⑦ギター⑧無知の知⑨高校総体県大会団体ベスト8 個人ベスト8 ダブルス準優勝、新人戦北信越大会団体ベスト8⑩インカレ出場⑪反復、継続、丁寧、をスローガンの元がんばります!

**伊藤 さつき**

4年

- ①副将、財務②愛知県③相生学院高等学校④2000年5月17日⑤16年⑥両親⑦料理⑧感謝⑨全日本選手権単ベスト64、複ベスト16⑩王座優勝⑪ついにラスト1年、笑顔で終われる様に頑張ります!

**有木 真絽**

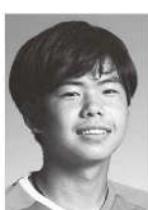
3年

- ①副将、スカウト②大阪府③城南学園高等学校④2001年9月19日⑤13年⑥松田美咲さん⑦映画鑑賞、お買い物⑧不撓不屈⑨春闘複ベスト64、夏闘複ベスト16⑩インカレ単複出場⑪感謝と笑顔を大切に今年こそ目標を達成します。

**加藤木 優人**

1年

- ①IT・広報②東京都③埼玉平成高校④2003年12月27日⑤9年⑥中島泰祐コーチ⑦映画鑑賞⑧never give up⑨関東中学生男子シングルスベスト64、関東高校テニス選手権大会男子団体出場、全国私立高等学校テニス選手権大会男子団体出場権獲得⑩インカレ上位⑪全力で走り抜きます。

**矢崎 梓紗**

4年

- ①IT・広報②埼玉県③山村学園高等学校④2000年11月21日⑤13年⑥両親⑦お菓子作り⑧人生楽しんだもん勝ち⑨春闘複本戦出場⑩インカレ単複出場して勝つ⑪学生生活ラスト1年沢山努力して笑顔で人生楽しみ、素敵な女性になります!

**中川 杏子**

3年

- ①主務②埼玉県③埼玉平成高等学校④2001年12月27日⑤12年⑥家族⑦読書、散歩⑧Keep Smile⑨春闘単2次予選F⑩インカレ出場⑪身長が高く、サーブが得意です。



山崎 郁美

3年

①学生コーチ②千葉県③秀明八千代高等学校④2001年8月24日⑤10年⑥アシュリー・パーティ⑦古着⑧勝って反省、負けて感謝⑨2021年全日本学生テニス選手権大会 単複ベスト8 2021年関東学生テニス選手権⑩インカレ単複優勝、王座優勝⑪筋肉活かします。



木下 菜々花

3年

①IT広報、学連②愛知県③鳴山女学園高等学校④2001年4月23日⑤11年⑥両親、福岡堅樹さん⑦カフェ巡り、アクティブライトな事⑧真実一路⑨夏闘2次予選敗退⑩関東学生出場⑪笑顔を絶やさず、どんな時でも諦めずに全力で頑張ります!挑戦する1年にします!



加藤 陽菜

2年

①副務②神奈川県③橘学苑高等学校④2003年2月20日⑤13年⑥両親⑦ショッピング⑧感謝⑨夏闘2次予選敗退⑩インカレ出場⑪日々成長できるよう一生懸命頑張ります!



吉川 ひかる

3年

①スカウト②神奈川県③湘南工科大学附属高等学校④2001年11月4日⑤17年⑥両親⑦音楽を聴くこと⑧自分らしく⑨インカレ単ベスト32複ベスト16、インカレンドア単ベスト32複ベスト16⑩インカレで上位に入る。⑪昨年よりも運動神経が良くなる様に頑張ります!!



新井 万由子

2年

①IT・広報②埼玉県③浦和麗明高等学校④2002年9月6日⑤11年⑥大坂なおみ⑦アニメ鑑賞⑧全力⑨春闘2次予選F⑩インカレ出場⑪単複インカレに出場できる様、頑張ります。



富永 葵

2年

①広報②神奈川県③湘南工科大学附属高等学校④2002年7月30日⑤14年⑥両親⑦映画鑑賞⑧感謝⑨夏闘単ベスト8⑩インカレ上位進出⑪毎日全力で頑張ります!



園城 海遙

3年

①総務②茨城県③東洋大学附属牛久高等学校④2001年10月11日⑤12年⑥頑張っている人⑦好きなライブ映像を見る⑧1歩進むための1歩後退⑨インカレ単初戦敗退⑩インカレ単複ベスト8⑪何事も冷静に考えて頑張ります。



佐久間 向日葵

2年

①財務②福島県③桜の聖母学院高等学校④2003年1月12日⑤13年⑥両親⑦ピアノを弾く事⑧努力は必ず報われる⑨夏闘2次予選敗退⑩インカレ出場⑪丁寧に頑張ります。



齋藤 瑞奈

2年

①役総務②福島県③相生学院高等学校④2002年10月3日⑤10年⑥両親⑦折り紙⑧努力に勝る天才なし⑨インカレ単ベスト32⑩インカレ単複ベスト8⑪日々成長出来る様に頑張ります。



伊藤 楓

3年

①副務②秋田県③聖霊女子短期大学付属校高等学校④2001年11月29日⑤11年⑥両親⑦寝る事⑧なんとかなる⑨春闘2次予選敗退⑩インカレ出場⑪怪我をせずに全力で頑張ります。



高橋 礼奈

2年

①スカウト②神奈川県③大成高等学校④2002年8月21日⑤16年⑥両親⑦歌うこと⑧可能性は無限大⑨夏闘2次予選F敗退⑩王座奪還に貢献すること⑪今の環境に感謝して自分らしく頑張ります!



沼野 菜海

2年

①スカウト②新潟県③新潟第一高等学校④2002年4月22日⑤15年⑥両親と祖父母⑦洋画鑑賞⑧人間とは死ぬまで未完成な生き物である⑨インカレ初戦敗退⑩インカレベスト8⑪初心を忘れず日々精進します!



部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR

児山 心美

2年

- ①学生コーチ
- ②大阪府
- ③慶風高等学校
- ④2002年8月16日
- ⑤16年
- ⑥豊田章男
- ⑦車、歌う事、動物とふれあう事
- ⑧雑草魂
- ⑨インカレ複出場
- ⑩インカレ優勝
- ⑪今年も1年頑張ります。

**小林 千陽**

1年

- ①スカウト②東京都
- ③慶風高等学校④2004年2月20日⑤4年⑥畠中君代⑦音楽を聞くこと・映画鑑賞⑧明日は明日の風が吹く⑨インハイ団体ベスト16、インハイダブルベスト32⑩インカレ優勝、王座優勝⑪自分らしく全てに明るく取り組み続けて楽しく頑張ります!

**高橋 琴葉**

1年

- ①総務、学連②埼玉県③杉並学院高等学校④2003年8月17日⑤10年⑥自分に厳しく何事にも努力する人⑦たくさん食べること、映画を見る事⑧嵐の後には嵐が来る⑨東京都インターハイ予選ベスト24、東京都私学大会5位⑩インカレ出場⑪自己PR 4年間全力で頑張ります!

**井口 紗**

1年

- ①IT・広報②東京都
- ③東京女子学院高等学校
- ④2003年7月1日
- ⑤10年
- ⑥孫正義さん
- ⑦高尾山歩くこと
- ⑧一石二鳥
- ⑨都高校ダブルス3位 関東高校 シングルス32、ダブルス16
- ⑩インカレ出場
- ⑪大学で逆転します、がんばります。

**小副川 莉桜**

1年

- ①学生コーチ
- ②千葉県
- ③東京学館船橋
- ④2004年3月15日
- ⑤13年
- ⑥大谷翔平選手
- ⑦読書、お菓子作り
- ⑧笑う門には福来る
- ⑨全国私学団体5位、インターハイ団体ベスト16
- ⑩インカレ上位、全日本選手権出場
- ⑪毎日笑顔で頑張ります!

**高橋 凪沙**

1年

- ①スカウト②神奈川県③湘南工科大学附属高等学校④2003年7月17日⑤14年⑥サバレンカ⑦韓国ドラマを見ること⑧なるようになる⑨全国選抜団体出場⑩インカレ優勝⑪最後まで諦めずに頑張ります。



インスタグラム・ブログ紹介



亜細亜大学テニス部のインスタグラムでは、部員紹介や大会結果、日々の日常や部員のおすすめなどが、画像や動画付きで面白く掲載されています。このインスタグラムは、高校生の方々に亜細亜大学テニス部とはどういう部活なのかを知つてもらう事や、高校生の方々以外にもいろいろな方に亜細亜大学テニス部の魅力を発信する目的で行っています。大会情報や結果を掲載していることで、選手たちの活躍をより身近に見ることが出来るのも特徴です。実際にこの活動を行つて、さまざまな場所でいろいろな方に声を掛けて頂くことが増え、褒めて頂くことが多くなりました。その為、広報活動のやりがいを感じています。気軽に見ることが出来る為、ぜひ見てみてください！



ブログもインスタグラム同様に、画像を使用し見やすく日々の活動を紹介しています。内容は、チャリティークリニックの情報や試合等の結果を投稿しています。より幅広い年代層の方々に見て頂いている為、ブログを見た様々な方に応援して頂いています。又、インスタグラムを使用していない方にも見て頂くことが出来、OBOGの方のみならずテニスを行つてゐる方すべてに見て頂いている為、亜細亜大学を知つて頂く一つのツールとして使用してます。これを見ることで亜細亜大学テニス部の全てを知ることが出来ます！ぜひ、インスタグラム・ブログを見てみてください!!



- 3月 16** 【W10 昭和の森オープンテニストーナメント3月大会試合結果(男子)】
2022/03/18 20:53 | コメント(0) | 読み込み:21
- 9月 16** 【W10 昭和の森オープンテニストーナメント3月大会試合結果(女子)】
2022/03/16 06:09 | コメント(0) | 読み込み:101
- 7月 14** 【部員紹介 松本直杜(1年)】
2022/03/14 20:45 | コメント(0) | 読み込み:36
- 3月 12** 【部員紹介 加藤陽菜(1年)】
2022/03/12 22:04 | コメント(0) | 読み込み:66
- 3月 12** 【部員紹介 芳谷仁(2年)】
2022/03/12 06:46 | コメント(0) | 読み込み:30
- 3月 12** 【部員紹介 木塚真影(1年)】
2022/03/12 06:54 | コメント(0) | 読み込み:30
- 3月 11** 【部員紹介 川崎理比人(2年)】
2022/03/11 07:49 | コメント(0) | 読み込み:30
- 12月 8** メンバー紹介！
2021/12/08 22:11 | 読み込み:28



～プロフィール～
氏名: 浅海裕一
学部学科/学年: 都市創造学部都市創造学科3年
出身校: 横川高校
出身クラブ: コートビア大阪
生年月日: 2001/3/12
好きな食べ物: 全部

今ワインボールが熱い!



- サイズ: 直径約60mm
- 重量: 約120g
- 形状: ボール状
- 素材: プラスチック+ゴム
(2,000円程度)

ワインボールは
ラケットの面に取り付けて振るだけで、
パワーアップ、ヘッドスピードアップの
効果を生み出すトレーニング器具です。



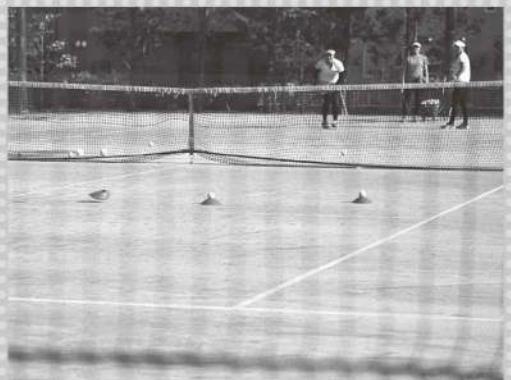
Let's do it
together

取り付ける位置によって、スイング時の負荷が変化します。その為、初級者から上級者まで、能力に応じて取り付ける位置を変えながら使用することができます。筋力が強い人ほど先端に取り付けた方が効果的です。



練習風景

男女共に「王座優勝」や
それぞれの目標を目指し
日々練習に取り組んでいます!



亞細亞大学テニス部・男子

自宅生

経営学部
3年生

市野瀬楓の1日



6:45	起床	寝坊しないようたくさんアラームをかけ、起床します。
8:45	学校到着&授業開始	自分の興味ある授業を選択し受講できます! しっかりノートを取り頭に叩き込みます!
10:40~12:10	授業(2限)	夢の世界に入りそうですが、同期と協力して授業に取り組みます。
12:10~12:50	昼休み&昼食	テニス部の同期や友達と会話しながらお昼ご飯。
12:50~14:20	授業(3限)	お腹いっぱい眠いですが必死でノートをとります。
15:30	日の出グラウンド	今日の目標を決め、より良い練習にする為計画を立てます!
16:15	部活動開始	1日のメイン! 自らの話題と向き合い毎日一生懸命練習します。
19:00	トレーニング	筋トレ、ダッシュ、ランニング。フィジカル面でも強くなれるよう全力で取り組みます。
20:00	部活動終了	1日の振り返りを行いテニスノートを書きます!
21:00	夕食	疲れた体を回復させるためにたくさん食べます!
22:00	就寝	疲れを残さないようストレッチをして、次の日寝坊しないようできるだけ早く寝ます。

亞細亞大学テニス部・女子

寮生

法学部
4年生

中島美夢の1日



6:15	起床	準備や朝食を余裕持ってすませられる様に朝早く起きます。
8:45	学校到着&授業開始	難しい内容もあり大変ですが、先生の話を聞いて勉強に取り組みます。
10:45~12:30	授業(2限)	疲れていますが、集中して勉強します。
12:30~13:15	昼休み&昼食	友達と楽しく学食を食べます。
13:15~15:00	授業(3限)	食後で眠たいですが、最後まで頑張ります。
16:20	日の出グラウンド	到着次第コートの準備などを行い、練習が出来る環境にして行きます。
16:40	部活動開始	試合で勝てる様に、毎日目標を定めてクリアし自分の課題と向き合って取り組みます。
19:00	トレーニング	皆で声を掛け合いながら、最後の追い込みを頑張ります。
20:30	部活動終了	次の日も全員が気持ちよく使える様に、コートを片付け見回りをします。
21:00	夕食	寮のご飯を食べます。予め用意されているので帰宅後直ぐに食べられるところが良いです。
23:30	就寝	お風呂や洗濯を済ませ、明日に疲れを残さない様にストレッチをします。 又、寝る前にテニスノートを書き1日の反省と明日の目標を書き出してから寝ます。

亞細亞大学テニス部の寮(男女別)

ドーミー立川北(男子寮) JR中央線 立川駅 徒歩約10分、自転車約5分

- キッチンコーナー IHコンロあり
- ランドリー 乾燥機あり
- 駐輪場あり
- 大浴場 18:30～翌日8:30
- プライベートシャワー 24時間利用可能
- トレーニングルーム
- 門限 24:00
- 食事
朝 6:30～8:30(土曜日は6:30～10:30)
夜 18:30～23:30(土曜日は18:30～22:00)
※朝夜共に、日曜日、祝祭日、第5土曜日は食事が出ない

～体育会奨学寮制度～

初期費用

(例)ドーミー立川北

○保証金 50,000円(初回のみ)

○入館料 150,000円→50,000円

○年間管理費 226,000円→0円

※毎年更新時に上記の金額が発生します。

月額費用

寮費(食事込み)

80,100円→66,200円(年間492,800円お得!)

※通信整備費 月々3,960円(税込み)

※電気基本料 月々858円(税込み)+使用料



ドーミー高尾(女子寮) JR中央線 高尾駅 徒歩約3分

- キッチンコーナー IHコンロあり
- ランドリー 乾燥機あり
- 駐輪場あり
- 大浴場 18:30～翌日9:30
- トレーニングルーム
- 学習室
- 門限 24:00
- 食事
朝 6:30～8:30(土曜日は6:30～10:30)
夜 18:30～23:30(土曜日は18:30～22:00)
※朝夜共に、日曜日、祝祭日、第5土曜日は食事が出ない

～体育会奨学寮制度～

初期費用

(例)ドーミー高尾

○保証金 50,000円(初回のみ)

○入館料 130,000円→50,000円

○年間管理費 186,000円→0円

※毎年更新時に上記の金額が発生します。

月額費用

寮費(食事込み)

73,000円→66,200円(年間347,600円お得!)

※通信整備費 月々3,960円(税込み)

※電気基本料 月々5,500円(税込み)



高校生のみんなへ いつしょに テニス しようよ!

部員から
ひと言



楽しいよ!!



ピース!!



Yeah!!





両立を目指す。学生は、部活と授業の両立を

面 白いもので、テニスの本当に強かった卒業生を顧みると、学業優秀とまではいかなくとも、単位をいつのまにか取っていた選手ばかりでした。岡田岳二、森 稔詞、山崎史子、赤堀奈緒、宮地弘太郎、岡本聖子、駒田政史、佐藤博康、宮崎靖雄、宮崎優実など、多くの卒業生の中でも特にレギュラーでタイトルを獲った選手ほどその傾向は強く、目標が明確であり、そのため好き嫌いにかかわらず、何事においても判断と行動は積極的でした。

競技成績だけではなく、プロとして活躍できた選手以外にも、企業で活躍できる卒業生も含め、明確なことは「部活」と「授業」との両立ができることが、すべての成長に繋がっているということです。

成長する選手とそうでない選手の違いは、「必要なこと」と「好きなこと」の区別ができるかできないかです。「将来」に必要なことと「いま」に必要なことを明確に理解して行動できる選手こそ、成長する選手です。

部活ではまず、新1年生に対して、11月の入試後にオリエンテーションをし、12月までに「4年間」と「今年」の目標を16ページにわたる「自己発見ノート」に書かせることにしています。自分のテニスや将来を確認させ、自分を気づかせる第一歩です。次に年末の合宿に参加し、そこで「今の自分」と「今後の自分」に必要な体力、技術、精神力の確認を、私たちといっしょに行ないます。

そして2月～3月の2ヵ月合宿を通じて、1年間の準備を徹底的に行なうこととしています。肝心なのは“自己の選択”ですから、練習環境や指導者がどんなに指導しても、最終的に判断し、実行するのは学生本人です。流されず自分の将来を見据えて選択できたものが勝利をつかみます。

そのときに必ずといっていいほど“教養”が大切になります。テニスはミスのゲームであって、自分本位の試合は、レベルが上がれば上がるほど、相手との駆け引きの中で“無理”や“無駄”が通用しなくなります。効率性や確率が大きな勝利のウエイトを占めてきます。そこでミスをどのように修正するかの能力が試されるわけです。

部活と授業の両立ができない選手はバランスを失い、「相手を知ること」も「自分も知ること」も「テニスやゲーム状況を知ること」も、そしてそれらを「説明すること」もできず、修正を失い自滅していくことになります。

テニスは実に正直で、バランス感覚をもたない選手には勝利をプレゼントすることはありません。ですからテニスの競技力に、まさしく部活と教養はプラスに働くのです。文◎堀内昌一





文 武 両 道



法学部 Law

全学部生 ● 1,509人 男女比 ● 男1,159人(77%):女350人(23%)

中島美夢(4年)の場合

「法学部での学び」

私は法学部では、2つの魅力的な事があると思います。1つ目は「多彩な選択肢の中から自分で選択することが出来る」です。法学部には、法律専門職、公務員、企業、現代法文科の4つのコースがあります。どのコースでも法律を学ぶ事ができ、その中で自分の興味があるものを専攻し、より深く学ぶことが出来ます。2つ目は「物事を論理的に考える力を育む」です。社会の基本的なルールとして日常生活に密接に関係するさまざまな法律について学び法解釈に求められる論理的思考力を養うこ

とが出来ます。法学部では1、2年で法学の基礎を学び、3年では基礎を活かして少人数でのゼミ形式で学ぶ事が出来ます。また、多種多様な問題の法的な解決手段を学びながら、幅広く法律の要素を身に付けることで問題解決能力を備えることも出来ます。法学部で学んだ法律の知識と物事を論理的に考える力は、将来どの様な職業に就いたとしても必ず役に立つと思います。

週間スケジュール

	M月 月曜日	T火 火曜日	W水 水曜日	T木 木曜日	F金 金曜日	S土 土曜日	S日 日曜日
1限目	フレッシュマン ・イングリッシュ	基礎演習	憲法II	フレッシュマン ・イングリッシュ	刑法I A組		
2限目	民法IV	フレッシュマン ・イングリッシュ	フレッシュマン ・イングリッシュ	民法IV	フレッシュマン ・イングリッシュ		
3限目	憲法II	基礎数理II 5組	中国語初級II 7組	刑法I A組	中国語初級II 7組		
4限目	心理学II B組		地誌学II	文章表現 L組	政治学II C組		
17:00 迄	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング
21:00							

基礎学力が高まるカリキュラム

法学部では、全学生がキャリア開発教育を受けています。全学共通科目の「基礎数理」を必修科目とするほか、専門選択科目として「公務員教養」を配置し、各種就職試験に対応しています。

公務員試験にも対応した充実の科目群

各種資格取得のほか、公務員を目指す学生を重点的にサポートします。国家・地方公務員試験に対応する科目を配置するとともに、課外講座「公務員試験講座」との連携も図っています。

ゼミを中心とした少人数教育の展開

法律学・政治学の学び方を身につける1年次の「オリエンテーションゼミ」「基礎演習」・卒業研修を通じて学生が自立して専門的調査・分析を行う能力を育成する「演習」(専門ゼミ)など、少人数教育を展開します。「演習」では、卒業論文やプレゼンテーションなどの形式で、4年間の学習成果を形に残します。

公務員コース

行政事務、警察、消防士など、国家・地方の公務員試験を受験する学生のためのコースです。公務員試験科目を中心としながら、法的要素のある優れた公務員の養成をめざした科目編成になっています。

企業コース

企業に就職する学生を想定し、法律の基本科目に加え、企業の組織や企業に取引に関する専門科目を中心に、ビジネスに直結する法律科目を配置しています。

法律専門職コース

裁判官、検察官、弁護士、司法書士、行政書士などの専門家や法律関連の資格取得をめざす学生のためのコースです。実定法科目をしっかりと学習します。

現代法文化法コース

現代社会の多種多様な問題に対して、法的なものの見方、考え方からアプローチできる能力の修得をめざします。亞細亞大学アメリカプログラム(AUAP)や中国の留学機関を活かすなど、より柔軟に履修科目を選択できます。

特徴

カリキュラム紹介

経済学部

Economics

全学部生 ● 1,126人 男女比 ● 男子884人(79%):女子242人(21%)



安井愛乃(4年)の場合

「経済を学ぶ」

私の在籍している経済学部は、身近な家計の調査から世界的な経済問題の研究まで幅広く世の中の仕組みを学ぶことができる学部です。経済学部では、会計・税務・金融の専門家、国家・地方公務員、グローバル社会で活躍する人材など、将来の志望に合わせた理想的な履修を選択することができます。

人々の生活に必要なものを生産して流通させている経済活動を研究対象とし、その歴史や仕組み、法則性についての知識を深めることができます。1年次には経済学の基礎となる「入門経

済学」や「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」を主に学びます。マクロ経済学では国レベルでの景気動向や経済成長について研究し、ミクロ経済学では個人消費や企業活動の分析をすることができます。2年次からは自分の関心に沿った専門科目や応用科目を学びます。また、3年次からは希望制でゼミナールに入ることができます。より特定の分野を少人数で教授と研究することができます。

経済学部は、日本の経済を学ぶだけではなく、世界の経済を学ぶことができ、グローバルな人間に成長することができる学部です。

週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目							
2限目	経済統計論	経済法	経済成長論	租税論II	民法		
3限目	金融政策	日本経済論	経済学基礎数学II A組	英語VI 5組	英語VII 5組		
4限目	英語IV 5組			経済史概論II			
17:00 ~	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング
21:00							

基礎から応用まで体系的に学ぶカリキュラム

1年次から2年次前期まで「入門経済学」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」などで経済学の基礎をしっかりと身につけ、2年次後期からは自分の関心に沿った選択科目で発展的に学ぶ。経済の深く広い知識を基礎から応用まで系統的に学びます。

将来の志望に合わせて豊富な専門科目から選択

会計・税務・金融の専門家、国家・地方公務員、グローバル社会で活躍する人材など、将来の志望に合わせた理想的な履修モデルを設定し、それに必要な専門科目を開講。進路に合わせた科目選択ができます。

少人数クラスで問題解決型人材へ成長

1・2年次には経済データに親しみながら分析ツールを学び、3・4年次には充実した演習や文献講読で深い専門性と多角的な見方を修得。少人数クラスより、現実社会への応用力のある、問題解決能力の高い人材を育成します。

現代経済コース

経済を深く理解できる社会人を目指します。経済学の基礎から応用まで幅広く学べます。

税務・会計インテンシブコース

経済と会計ができるビジネスパーソンを目指します。1年次からコースの基礎科目を学びます。

カリキュラム紹介

主な勤務先

みずほ銀行／三井住友銀行／住友信託銀行／積水ハウス／住友林業／飛鳥建設／TKC／ソフトバンク／ソニー・ミュージックエンタテイメント／帝国ホテル／富士通／ワコール／ブルボン／全薬工業／国分／セブン-イレブン・ジャパン／東急ストア／ユニアデックス／みずほインターベース証券／ワタベウェディング／日本郵便

国際関係学部

International Relations

全学部生 ● 1,277人 男女比 ● 男434人(34%):女843人(66%)

川崎理比人(3年)の場合

「国際関係学部の魅力」

国際関係学部には2つの学科があります。1つは国際政治、国際法、国際経済などを中心に学ぶ、国際関係学科です。また、国際関係学科は、5ヶ月間の留学プログラムをもっており、実際に世界を体験することができます。2つ目は多文化コミュニケーション学科です。この学科では異文化交流、言語学、観光学、文化人類学を主に学びます。また、学部名にもあるように英語に加え韓国語、中国語、インドネシア語、ヒン

ディー語、アラビア語、スペイン語の中から1つを必修で学ぶことが出来ます。また、国際関係学部では週に4回のフレッシュマンイングリッシュに加え、週に1日パソコンでイーラーニングの授業を行い英語の基礎から学び、一人一人のレベルに合った授業を受けることができます。国際関係学部は、他学部にはない経験がたくさん出来る学部です。英語や留学、異文化に興味がある方は国際関係学部をお勧めします。



週間スケジュール

	M月 月曜日	T火 火曜日	W水 水曜日	TH木 木曜日	F金 金曜日	S土 土曜日	S日 日曜日
1限目	環境科学 C組	スポーツ生理学			フレッシュマン ・イングリッシュ		
2限目	ヨーロッパの 芸術と文化II	スポーツの文化	テニス D組	フレッシュマン ・イングリッシュ	基礎ゼミ		
3限目	現代教養特講	情報リテラシー H組	中国語初級II 7組	国際英語II E組	中国語初級IV 7組		
4限目	経済学概論	教育心理学 B組	経営学入門		道徳教育の 理論と実践		
17:00 ~ 21:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング

→ 外国語によるコミュニケーション能力の習得

英語の学習を基礎としつつ(TOEIC600点以上を目指す)、韓国語、中国語、インドネシア語、ヒンディー語、アラビア語、スペイン語の中から1言語を地域言語として選択し、1年次から本格的に学びます。

→ フィールドワークによる現地体験型学習

国内外での現地調査(フィールドワーク)を通して、自分の感性で多文化に触れ、課題を発見する力を鍛えます。調査後の発表でプレゼンテーション能力の修得にも注力します。

→ 社会人類学、社会学を柱とする多文化理解

アジア、アフリカ、中南米の文化から観光、宗教、多文化インターナショナルなど多彩なテーマの科目を用意。文化人類学、社会学を軸に、国際社会に役立つ幅広い教養が身につきます。

→ 経済ビジネスコース

幅広い視野と判断力を身につけ、国際企業人や国際公務員など、世界で活躍できる人材になるために必要な知識を学びます。

カリキュラム紹介

→ 平和政策コース

本コースでは、紛争解決や平和構築の問題を政治と法の側面から学ぶことで、海外で活躍するために必要な広い視野と深い洞察力をもった人材を育成します。

→ 國際協力コース

開発途上国の経済発展や貧困、格差、感染症など開発問題と開発援助について、さまざまな角度から学びます。問題解決に必要な知識と、知識を現場で活用するための実践力を同時に養います。

主な勤務先

橋水ハウス／ワコール／花王／資生堂／東芝／NHK／JR東日本／全日本空輸／ユニクロ／三井住友カード／ヒルトン東京／第一生命保険／セコム／外務省／警視庁／防衛省／ディスコ／ツツミ／明治安田生命保険／近畿日本ツーリスト／トランス・コスモス／日本郵便

経営学部

Business

ホスピタリティ・マネジメント学科

全学部生 ● 624人 男女比 ● 男子137人(22%):女子487人(78%)



富永菜(2年)の場合

「経営学部とは」

経営学部には、私が所属する「経営学科」と「ホスピタリティマネジメント学科」の2つの学科があります。ホスピタリティマネジメント学科では、2016年4月より従来のクラブ領域を整備拡大しスポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」コースを開設しました。ここでは「ホテル＆ブライダル」「フードサービス」「パッセンジャーサービス」「トラベル」「スポーツ・ホスピタリティ」という5つのコースについて、「理論実務融合型教育」

をベースに少人数によるゼミナール形式の演習を行います。マネジメントスキルとホスピタリティマインドを涵養し、未来のホスピタリティ業界、スポーツ業界をリードし得るような実践的職業人を養成していきます。

経営学部では、社会に出たときに活躍できるような人材と、海外でも活躍できるようなグローバル人材の育成を目指しています。ぜひ経営学部に入ってみてはいかがでしょうか。

週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	総合英語VII		テーマ研究(テニス)	生理学II			
2限目		表現とメディアII	ホスピタリティ基礎演習	スポーツマネジメント論	ビジネスリテラシー		
3限目	数学入門II	日本史II	英書講読		総合英語VI	練習&トレーニング	練習&トレーニング
4限目				スポーツボランティア	西洋文学II		
5限目							
17:00 ~ 21:00	練習& トレーニング	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	フリー	フリー

ホスピタリティ・マネジメント学科の学び

平成28年4月、従来の「クラブ領域」をスポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」として設備を拡充します。「ホテルビジネス&ブライダルビジネス」「フードサービスビジネス」「パッセンジャーサービスビジネス」「トラベルビジネス」とともに、5つの分野について「理論実務融合型教育」を展開します。

少人数制によるゼミナール形式の授業を2年次から4年次まで継続して実施することで基本的なマネジメントスキルとホスピタリティマインドを涵養し、未来のホスピタリティ業界そしてスポーツ業界をリードし得るような人材を養成します。

特徴

ホスピタリティ・マネジメント学科

平成28年4月、従来の「クラブ領域」を、スポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」として整備拡充しています。基本的なマネジメントスキルとホスピタリティマインドを学び、未来のホスピタリティ業界、そしてスポーツ業界をリードし得る人材を養成していきます。

カリキュラム紹介

主な勤務先

東急建設／東芝／パナソニック／タニタ／JR西日本／ユニクロ／みずほ銀行／三井住友銀行／日本郵便／警視庁／ワコール
みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行

経営学部 経営学科

Business

全学部生 ● 1,582人 男女比 ● 男子980人(62%):女子602人(38%)



芳谷仁(3年)の場合

「将来の目標のために」

私が在籍している経営学部経営学科は1年次には経営学や簿記原理など基礎になることを学ぶことに加えて、レポートの作成に必要な技術を学んだりします。また、「インタビュー実践」という活動があり、自分が興味のある職業や企業などの話を聞いて、行動する力、聞く力、文章を書く力に加え、社会人としての基礎力も養うことができます。また、「基礎ゼミナール」では、企業や施設等の見学や実地調査などを行う「アクティブ・ラーニング」という活動もあります。このような活動を行うことによって、学生が

将来、役に立つために必要で今なにをしなければいけないかが明確になっていき、自分自身の役に立つと思います。2、3年次には、専門的な学問に入っていく、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という4つの経営資源を管理するノウハウを学んでいきます。経営学部経営学科は企業の第一線で活躍する経営者から経営学を学ぶ「トップマネジメント特別講義」があります。実際、日本のトップの企業がどのような思考で政策を練っているのかなど直接聞くことができます。

皆さんも是非、一緒に学びませんか。

週間スケジュール

	M月 月	T火 火	W水 水	T木 木	F金 金	S土 土	S日 日
1限目	フレッシュマン ・イングリッシュ	流通・マーケティング D組	フレッシュマン ・イングリッシュ	フレッシュマン ・イングリッシュ	テニス E組		
2限目	経営学 D組	フレッシュマン ・イングリッシュ	テニス D組	会計学 B組	フレッシュマン ・イングリッシュ		
3限目	基礎ゼミナール	表計算の 基礎と応用B組	中国語初級II 7組	数学入門II B組	中国語初級IV 7組		
4限目	基礎数理II A組	ITリテラシー入門		データ解析入門 D組	統計学入門II B組		
17:00 ~ 21:00	練習& トレーニング	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング

→ 聴く力を養う「インタビュー実践!」

オリエンテーション・ゼミナールでは、産業界で活躍する企業人への「インタビュー実践!」を導入。就職意識を高めるとともに、大学でなにを学ぶべきかについて先人の知恵を学びます。1クラス約15人の小人数制のゼミナールです。

→ 行動力と主体性を養うアクティブ・ラーニング

基礎ゼミナールでは、約30のテーマの中から学生自身が興味あるテーマを選択し、自ら設定した課題について、実際に現場を訪れたり調査・分析を実施します。成果をプレゼンテーション形式で発表し、能動的に学ぶ姿勢が身につきます。

→ 就業力を養う実践プログラム

経営学科では企業経営に関する多様な理論を学習しますが、修得した知識を現実に活かすことを目的にトップマネジメント特別講義、インターンシップ、ビジネス体験プログラムといった体験型授業が設置されています。

経営学科

「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という4つの経営資源を管理するノウハウを学ぶ。コミュニケーション能力や情報処理能力、数量的分析力といった幅広い教養と、企業経営に関わる専門的で実践的なマーケティング、経営戦略、会計、人材管理の知識を修得します。

カリキュラム紹介

主な勤務先

東急建設／東芝／パナソニック／タニタ／JR西日本／ユニクロ／みずほ銀行／三井住友銀行／日本郵便／警視庁／ワコール／みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行

都市創造学部

全学部生 ● 589人 男女比 ● 男子362人(61%):女子227人(39%)



李光輝(3年)の場合

「都市創造学部とは」

私が在籍している都市創造学部とは、人々と企業・行政・地域をつなないで、豊かな都市を創造するための学問を学ぶ学部です。

都市創造学部が目指しているのは、都市に活気と心地良さをもたらす未来の都市を計画し、実践できる人材の育成です。その為に、特徴的な学習をしています。

まず教員の多くが、元々は企業で働いていました。その為、教科書だけでは学ぶことが出来ない、働く現場における実践的な知識を教え

てくれます。

また、lotやビッグデータの勉強など、これから未来に必要な勉強をします。これらの知識を身につけることによって、未来都市のあるべき姿を考えるきっかけにもなります。さらには、これらの勉強を深めるために、フィールドワークによる都市の実態調査や留学とインターンシップもあります。

都市や社会のことを詳しく勉強したい方はすごく良い学部だと思います。

週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	心とからだの健康学	フレッシュマン・イングリッシュ	情報リテラシー	アメリカ研究入門	フレッシュマン・イングリッシュ		
2限目	フレッシュマン・イングリッシュ	ビッグデータ活用論	フレッシュマン・イングリッシュ	フレッシュマン・イングリッシュ	フィールドワークとデータ分析		
3限目	アジアのケーススタディ	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	テニス	数学入門		
4限目	ゼミ		中国語初級		中国語初級		
17:00 ~ 21:00	オフ	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング

都市の未来を産業と社会から考える

都市創造学科では、産業と社会の観点で都市を考察し、都市の産業とそこに住む生活者の視点で社会のあり方を考えます。めざすのは、都市に活気と心地よさをもたらす未来都市のビジョンを打ち立て、実施する「都市創造人材」を育成。自治体などが公表するデータや都市に関するSNSの膨大な情報を活用し、最先端の知見を社会の全体像の中で理解するとともに、都市のニーズに合わせて活用する視点も養います。

特徴 フィールドワークを重視した双方向型学習

1年次のオリエンテーション・ゼミナールから4年次の卒業プロジェクト・卒業研究や社会調査実習まで双方向型学習を重視したアクティブラーニング科目群が計画的に配置されています。必修科目的「フィールドワーク」では、渋谷や横浜などの街に出て、人々とコミュニケーションをしながら都市の実態を調査し、調査結果の発表も行います。

必修の海外&国内外でのインターンシップ

都市創造学科の留学は、単なる語学研修ではありません。アジア、アメリカなどの世界各国で英語+留学先の言語を学ぶとともに、海外インターンシップで留学先の産業社会を体験するチャンスがあります。言語・文化の壁を自らの力で乗り越え、現地社会に飛び込むことで、留学先での異文化理解が深まります。

カリキュラム紹介

都市創造学科では、「シティ・サイエンス」を理解するためには必要な経営学及び都市社会学領域を中心の科目を設置しています。

【学びのガイドライン】

■都市コンテンツ履修コース

文化、芸術、スポーツなどの多様なイベントから映像、音楽の制作、さらに店舗開発や商品企画まで都市の多彩なコンテンツづくりとその情報発信を担うプランナー、プロデューサーになるための実践的な知識を養います。ビッグデータを活用した分析で都市の状況を把握し、企画や制作の現場を知り、人をまとめ、ビジネスとして成立させる「シティ・サイエンス」の新たな領域を開拓します。

■都市デザイン履修コース

優れた都市計画が街の競争力を高め、美しい都市景観が街の魅力を生み出し、都市デザインと一体化したビジネスが都市問題を解決します。このコースでは、そうした「都市を総合的にデザインする」ための多様な知識を学びます。特に「ビッグデータの活用力」「スマートシティの構造力」など「シティ・サイエンス」の最先端の知識を実践的に学び、都市問題を解決していく人材に必要なスキルを養成します。

大学に入って、こんなに変わりました!

CASE 1 谷 嶺太(2年)の場合

私が亜細亜大学に入学した理由は、大学でテニスをする上で成長出来る大学だと感じたからです。ジュニア時代試合に出ても思うように勝てない日々が続いた上に、最後の年に新型コロナウイルスの影響で大会に出場することすら叶いませんでした。そのため大学進学後もテニスに全力で取り組める大学を探していました。当時通っていたテニスクラブのコーチに大学進学について相談した際に亜細亜大学について知り、後日練習に参加することになりました。練習に参加した日に亜細亜大学では高校時代に戦績の少ない選手がインカレ等の学生大会で良い成績を残していることを知りました。自分も同じようになりたいと思い亜細亜大学への入学を決意しました。

ジュニア時代は練習していたものの、練習やトレーニングに対して深く考えることではなく、言われたことをただこなしているだけでした。しかし入学後は部員全員で王座やインカレという目標に向かって真剣に練習

やトレーニングに取り組むことで自分自身の意識も少しずつ変わっていきました。1つ1つの練習メニューの意図を考えたり、教えることなどで効率良く練習が出来るようになりました。

また、亜細亜大学では学生大会はもちろん、JOP大会やITF等海外の試合にも積極的に挑戦することができ、様々な環境で多くの経験を積むことができます。その際には監督をはじめとするスタッフの方々も帶同をして下さり、細かくアドバイスをして頂くことで反省点や自分で気が付かなかった課題に気が付くことができ、直ぐに練習に取り組むことができます。その為、どのような試合も無駄にすることなく、次に繋げていくことが可能でした。その結果、予選ではありますがインカレや王座出場校決定トーナメントに出場することが出来、とても貴重な経験をすることが出来ました。そこで勝ち上がるにはまだ足りていないことが多くあることを知り、今まで以上に練習やトレーニングを真剣



していく必要があると感じました。

亜細亜大学テニス部は多くの事を学び、成長出来る場所です。ぜひ亜細亜大学と一緒に戦い強くなりましょう！

森 稔詞
コーチ から見た 谷 嶺太

昨年は、1年生としてインカレ予選に出場しました。もの静かな腰からは、想像のつかないショットを繰り出すパワーヒッター。サーブとフォアハンドを中心としたオーソドックスなテニスを軸としオールラウンドなプレーが身上。ただ、優しい心の中に隙が生まれ、試合の流れを手放してしまうこともしばしば。本学へ入学するまでは、セルビアへ数年の海外留学をするほど、テニスに対する姿勢は素晴らしい本気です。今後は、パワフルなテニスに安定感が増し、隙を埋める集中力と執着心を身につける事が出来れば、大いに期待を持てる大型選手です。純粋で大きな夢を持っているので、これから沢山の経験を積み、大きな羽ばたいて欲しい選手です。

CASE 2 安井愛乃(4年)の場合

私は、高校生活でやり残したこと、成しきれられなかった目標を達成したいという思いがあり様々な大学がある中でこの大学なら成長出来ると感じ、亜細亜大学に入学する事を決意しました。初めて亜細亜大学の練習に参加した際には、テニスが強くなる為の環境が凄く整っていると感じました。トレーニングセンターへ行った時は、先輩方が凄い大きな重りを背中に担ぎスクワットをしている姿にびっくりしたのを今でも覚えています。そして何よりもスタッフの方や先輩方が練習の際に練習メニューの意図を細かく説明して下さったり、何かあれば直ぐアドバイスをして下さる事が凄く新鮮でした。私自身、高校生の頃は、部活として活動していましたが顧問の先生がテニス経験者では無かった為、部活内で指導をして貰える様な環境ではありませんでした。基本的には部活動で活動していた為、週に1

回クラブに通い、そのクラブで指導して貰う様な生活を送っていました。その為、毎日指導者がいて下さり、プロのコーチングを受ける事が出来る事に亜細亜大学に練習参加した際に凄く刺激を受けました。

亜細亜大学入学したものの周りのレベルも高く優秀な先輩、同期ばかりで初めは練習についていくのに必死でした。その為、自分のケア不足などで怪我をしてしまう事も多く、思う様な結果も出しがれませんでした。今思うと自己管理が出来ていない自分が結果を出すなんて出来るわけがありません。しかし毎日部活を行う上で学ぶ事が沢山ありました。自分自身嫌なこと、辛いことがあるとすぐ楽な方を選択してしまい、間違った判断をしてしまう事がありました。しかし、私は恵まれていて間違ったことをした時には自分に厳しく指導して下さるスタッフの方、先輩方がいました。少しずつですがこの3年間で成長出来たと感じています。何かあれば本当にそれで良いのか、自分の選択は間違っていないか自分に問い合わせる様にしています。自分と向き合う時間を作ることで今何が自分に必要なの

か、自分はどうするべきなのかも明確になり、テニスに於いても大切なことが見えてくると思います。

私は、まだまだテニスも人としても成長途中です。テニスでは、いつも堀内監督が言って下さる自分の可能性を信じ、私の目標である日本一を夢で終わらせず実現させテニス人生終えられる様に残りの大学生活一日一日大切にし、必死に突っ走ります。

皆さんも自分の可能性を信じてこの亜細亜大学で日本一を目指しましょう！！

長久保大樹
コーチ から見た 安井愛乃

亜細亜大学へ入学後、最も実力をつけた選手のひとりです。入学後2年間は思うような結果を残す事が出来ず、多くの悔しい思いをしてきました。そんな彼女が何故ここまで成長できたのか。その答えは、「人としての成長」があったからだと確信しています。自らのテニスに対して真剣に向き合うことは勿論の事、部内において率先して努力する姿があったからこそ成長だと感じています。1つの試合を勝ち抜く為には、複合的に絡み合う様々な事象に対応していくかなくてはなりません。この事は、社会で生き抜いていく上で同様です。そんな「人間力」を磨き上げた彼女だからこそ成長であり、結果だと感じています。



CASE 3 芳谷 仁(3年)の場合

私が亜細亜大学に進学を決めた理由は、大学で後悔なく競技テニスをやり切りたいからでした。

2019年の高校最後の全日本ジュニアでは、関東の選手に、大敗しとても悔しい思いをしました。その時の大会では、四国から自分も含めて4人の選手が出ており4人とも一回戦で敗北してしまいました。シングルスの全国大会で、全国のレベルの高さを知ると同時に高いレベルの選手ともっと試合がしたい、もっと1日中テニスができる環境に身を置きたいと思いました。

亜細亜大学は、関東1部リーグに所属していて。亜細亜大学の強みは、環境の良さだと思います。コートは10面あり、すぐ隣には400mのトラックがあり、トレーニングセンターもいつでも使う事ができます。なにより堀内監督や森コーチ、長久保コーチなど選手時代結果を残してきた人たちの指導を毎日受ける事ができます。スタッフの人たちに、自分の間違っている考え方や、修正しなければならない事などを教えて頂く事ができます。またテニスだけでなく社会

に出た時に知っておかなければならぬ事も社会に出て困らないように、指導して頂けます。学生大会だけでなく、JOP大会などにも引率してくださります。その為、試合で学んだ事をフルで活用する事ができ、次の試合に確実に繋げる事ができます。

しかし、私は、これだけの環境があるのにまだインカレに行く事ができていません。その原因としては、このいい環境に甘えて、自分で考える事ができていなかったからだと思います。なので今後は、この環境に感謝して自分で考え色々な事に挑戦していきたいと思っています。

自分がこの大学に入って何より良かったのは、同期と切磋琢磨高め合いながら練習できる事です。また同期だけでなく尊敬できる先輩方とも練習をする事ができ色々なアドバイスをもらう事ができ、自分のテニスに活かす事ができる事です。

そんな素晴らしい環境に皆さんも身を置いてみませんか。テニスを強くなりたいと思っている方は、是非亜細亜大学に入学してください。



森 稔詞
コーチ

から見た
芳谷 仁

いじられキャラ的な雰囲気と一生懸命なプレースタイルが同居する、憎めないプレーヤー。鈍くさはありますが、彼のプレーには、何かを引きつけるものがあります。お山の大将だった高校時代から、荒波の中で揉まれている今、苦しみながらも少しづつ前へ前進しています。きっかけを掴むことさえ出来れば、高校時代に経験した「勝つ」に必要な事を思い出してくれると思います。そのためには、自分のプレーを磨き、状況判断能力を身につけ、自分を信じ、そして何より、得意なバックハンドを武器に、駆け引きの中に「自信」を取り戻して欲しいと思います。まだまだ、伸びしろだらけで、今後の活躍が楽しみな選手です。

CASE 4 富永 菜(2年)の場合

ことができます。練習時間やトレーニング時間が十分にあり、海外遠征やJOP大会にも多く出場することができるため経験を積むことができます。

私は高校生までは、ただ練習を行なう技術や体力を上げることしかしていませんでした。しかし大学に入ってからは、戦術の考え方やテニスの知識を多く学ぶようになりテニスの幅が大きく広がりました。練習を行うにしても1つ1つ練習メニューの意図を考えながら行ったり、プロの選手のフォームを見て正しい体の使い方を学んだりと様々なことを考えて練習を行うようになりました。また、練習時間が十分にあることで反復練習を行うことができ、パワーや精度を高めることができました。その結果、本番の試合では自信を持って戦うことができるようになり、少しづつ勝ち上がるようになりました。これからはさらに自分に厳しく毎日悔いのないように練習に取り組み、良い結果を残せるように頑張りたいと思います。

亜細亜大学のテニス部は1人1人のテニ

スに対する意識が高く、テニスのレベルも高いので様々な刺激を受けることができます。その中に入ることで自然と自分のテニスに対する意識も高くなり、辛い状況でも部員同士でブッシュし合い乗り越えることができます。これから強くなりたい人や全力で頑張りたい人には最高の環境です。ぜひ、亜細亜大学と一緒に成長し戦いましょう!

長久保大樹
コーチ

から見た
富永 菜

昨年1年間を通して、部内において最も成長した選手です。彼女の魅力は、如何なる時もアグレッシブにラッシュ続ける姿勢にあると感じています。これまでにも、上手い選手や才能を持った選手を多く見てきました。しかし、そのような中で、どんな逆境にも真正面から向き合っていく事のできる「強い選手」は限られています。私は、そんな「強い選手」になる可能性を秘めた選手が彼女だと信じています。成功に近道は無い。日々の努力を惜しむ事なく、コツコツと継続し続ける…まさにこの事を体現した1年であったと思います。まだまだ道半ば。夢や目標を達成すべく、努力を惜しまず、日々前進し続けてくれる事を期待しています。



私が亜細亜大学に入学した理由は、テニスに対して全力で取り組める環境が整っているからです。高校生の時は全国大会には出場していたものの、初戦敗退や2回戦敗退など勝ち上がることができませんでした。そこで高校時代の悔しさを晴らすために大学進学を考えた際に、より強くなれる環境がある亜細亜大学の進学を決めました。

亜細亜大学はコート面数が多く、陸上トラックやトレーニングセンターなどの施設が充実しています。また、スタッフの方々に毎日指導して頂き、学生大会やJOP大会にも帯同してくださりすぐにアドバイスを頂く

2003 Australian Open Review

亞細亞大学、メルボルンへ行く。

「大学に行ったら 世界に行けないなんて 言わせない」

2003年1月、賑わうオーストラリアン・オープンの会場内をウロウロする日本人学生のグループがいた。全国でもトップクラスを誇る亞細亞大学テニス部のメンバー6人。彼らは世界最高峰グランドスラムを「観る」という「意味」を持ってそこにいた。

文◎吉松忠弘 写真◎高野 徹
記事提供◎テニスマガジン(2003年5月号)

Melbourne

学校教育とクラブスポーツ、 大学テニスの共存

学校教育とスポーツは、それほど切り離さなくてはいけないものだろうか。昨今の論調は「地域に根ざすクラブスポーツ」を題目に、学校体育を批判し、「学校など」という形容詞で、短絡的にスポーツ強化のために学校（日本的な記憶・暗記教育のことではある）は「害」であると指摘する。

しかし、現実主義者から見ると、そう簡単にことは運ばない。落伍者は「失格」という価値観を共有したい大多数が、あと戻りできない社会を形成している以上、その中で「安定」や「慎重」を求めるることは決して責められない（好き嫌いは別として）。

国際通とか海外志向の高い指導者や関係者はその現実を無視し、「もっと海外に」やら「学校なんか」と宣う。ならば世界でも高水準にある約97%の高校進学率、約50%の大学進学率（平成15年度文部科学省の教育指標の国際比較から）は無意味なのだろうか。その率が減り、学校体育がなくなり、義務教育が終了すれば、スポーツにかける人が増えることが得意の「文化の創造」ということだろうか。そして日本国民は本当にそれを望んでいるのだろうか。

壮大なテーマになり、それを解説することがこの本道ではないので割愛する

が、現時点で中等教育以上（義務教育以降をこう呼ぶ）の学校を無視はできない。クラブスポーツも裾野を広げることが重要であり、つまり共存するしか日本の将来は見えてこないだろう。

その中にあってテニスも同じ悩みを抱える。特に究極の個人スポーツであるテニスは、若年層からの強化が重要視されており、それは学校教育となかなか相容れない。高校までなら18歳以下というジュニア枠に入り、まだ救いはあるだろう。しかし大学のテニスは、日本でもっとも忘れ去られた存在である。日本のテニスには、ジュニア、社会人、プロという構図しかないようにも思える。

ただ、この先、クラブスポーツや学校体育の共存を考えるなら、大学テニスを無視するわけにはいかない。そして大学テニス自身も、自ら動き出す必要性がある。今年のオーストラリアン・オープンで、亞細亞大学テニス部がとった「観戦」という行動は、文字にしてみると他愛のないことだ。しかし、少なくとも共存への小さな一步だったことだけは確かである。

選手とコーチに必要な 目標に対する逆算の理論

音頭取りは、OBで昨年（2002年）の4月からコーチに就任した森稔詠だった。森はグランドスラム本戦出場を経験して

いないが、予選には数回チャレンジしている。その自分より才能がありそうないまの大学生が、手をこまねいでいるのが歯がゆかった。

「本気でチャレンジすればできることはない。できないと決める方がおかしい。だったら行ってみよう。僕自身もいまのグランドスラムを見ていなかったから、学生全員にメールを出して、自費だけ行こうと誘った」

自費の有志なので遠征ではない。集まったのは、男子で昨年インカレ・ベスト4の宮崎靖雄、同ベスト8の比嘉明人、01年関東学生新進戦ベスト4の平良和己、女子で01年インカレ・ベスト4の北崎悦子の4人である。

しかし、この4人に森、堀内昌一監督を加えた6人がオーストラリアン・オープンに来て、観戦して帰ったというだけなら、残ることは稀薄に違いない。

「驚き」や「感嘆」が彼らを揺さぶるに違いないが、それだけだ。時間が経てば、少なからずとも消滅する。まして20歳代は、精神よりも実体験だ。物理的な接触に優るモノはない。森は、その体験を学生たちにさせた。宮崎、北崎は予選出場に挑戦させ、宮崎は予選のサインアップまでたどり着いた。

「運営の人たちが、何でおまえなんて来ているんだって、冷たい視線なんですよ。このランキングでよくここまで来たなって。あー、ここは実力世界なんだな、ランクを上げないとダメなんだなと思いましたね」

宮崎の世界ランキングは1116位。もちろん出場には、通例なら箸にも棒にもかからない。しかし今年の予選は欠場者が続出し、出場者の最低ランキングは904位にまで下がった。チャンスは本当に目の前に転がっていたのである。しかし、そこに選手がいなければ出場できないのは自明の理だ。

北崎はエントリーをしていなかったため、予選のサインアップはできなかったが、予選初日にラッキールーザーのサインアップができた。

「初めは自分なんかがサインアップしていいかなって思ったんです。引き気味でしたね。でも、試合を見ていたら、何倍も努力しないとダメだけど、私でも何とかなると。それに、ここに自分が立っていたらと思いながら、試合を見ることができたのは大きかったんです」



比嘉と平良は、先のふたりのような体験はできなかったが、会場で練習を決行する。もちろん厳密に言えば、選手でもない人間がコートを使用するのは違反だ。予選の最終日に、朝7時半から空いているコートを見つけて4人で練習をした。そのぐらいの厚かましさがなければ、世界のテニス界ではやっていけない。

「心構えからして、ここで戦っている選手は違う。勝つ意識や執念がすごい。技術とかいう以前の問題で、気持ちから入れ替えない」と

比嘉は話す。平良も同様だ。

「僕と同じくらいの身長の選手もいて、できないことはないと。でも、彼らは勝たなきゃ食えないんだという意識がすごい。日本ではありえないですから」

彼らは帰国する前の日、念願だったセントーコートに初めて入り観戦した。

「ここに立てるようにならないとダメなんですね」

北崎は、こうつぶやいた。

堀内監督はもっと早くこれを見ていたら、と少し悔やんだ。堀内監督は世界を知らないわけではない。テニスでアメリカの大学に留学し、また日本のジュニアの監督としてもウインブルドンに遠征したりしている。しかし大学の教員、監督という枠は多くのしがらみを生み、実質的に世界から遠ざかっていたことも確かだ。

「実際にそこにいないと逆算できないんですね。カレッジに行ったら世界に行けないなんて言わせたくない。そのためには選手もコーチも逆算じゃないとダメなんです。関東学生取ったらインカレ。インカレ取ったら全日本というプラスじゃなくて、グランドスラムがあって、そこに行くにはインカレや全日本があるという逆算じゃないと。そのためには、グランドスラムを実感していないと言えないし、選手も実感できないんですよ」

わずか10日ほどの滞豪だった。しかし6人が感じ、肌で触った日々は誰にも教えられないことである。そして問題はここからなのだ。この10日間が実を結ばなければ何も意味はない。

杉山愛は、27歳にしてテニス人生最高の瞬間を、ティアⅡのステートファーム女子クラシックの単複優勝で飾った。遅いということはない。そして、それはステップを踏み出さなければ、いつまで経ってもやってこない。

堀内昌一総監督

「僕が監督になったのは大学王座やインカレを最終目標にするためじゃない。大学は自分の力を伸ばすことが目標。そのためにはもう一回、自分がいろいろなことを見てみないとダメになる。原点に返ってみるとそこには夢があったはず。だから選手にはカレッジに夢を持って来てほしい。その夢を与えるのが僕ら自身の挑戦でもある」

北崎悦子(2年)

「雑誌とか見ていて夢の舞台だったのが、現実に観て気持ちの面では変わりがないと感じた。(グランドスラムは)日本とテニスを盛り上げる環境が全然違う」

森 稔詞コーチ

「大学3年のときにJOP大会で貯めたお金でオーストラリアとアメリカのサテライトに初めて行った。そのときに感じたことを同じいまの大学生に味わってもらいたいと思っている。頂点を見ていれば、この先リアルに映像として残るはずだから」



宮崎靖雄(3年)

「(オーストラリアに来て)テニスに対する考え方方が変わった。特に本村(剛一)さんに勝ったエスクデは、ショットは同じなのに体力や展開が違う。すごく印象的だった。みんな宿舎ではラケットに鉛を貼ったりして、"これで外国選手の重い球に負けないかな"などと言ったりしていた」

比嘉明人(2年)

「ジャパンオープンくらいしか見たことがなくて、そのジャパンオープンでもすごいと思ったのに、こっちはそれ以上だった。もっと体とか強くないと戦えない」

平良和己(2年)

「周りの雰囲気が違って、観客もすごいし、圧倒された。選手たちのボールを打つタイミングも全然違うし、ミスで決まらない」



Special Report

亞細亞から世界へ

昨年亞細亞大学を卒業し、プロ転向した4人の卒業生に
プロ1年目の経験や今後の活動に迫る!



松田 美咲 選手

大学卒業後、プロテニス選手として活動してから1年が経ちました。

この1年間で海外遠征を行った回数は4回、出場大会数は16大会でした。国内での大会は全日本選手権や国体予選があり、学生の時に想像していたよりも試合数が少なかったと感じます。

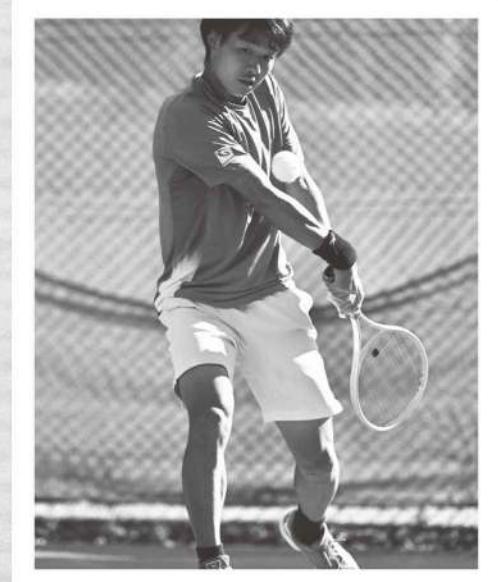
結果としては、シングルスでは満足のいく結果を残せず悔しい思いもありましたが、WTAランキングとしては自己最高ランク(471位)を更新することができました。ダブルスでは15Kと25kでの初優勝をすることができ、ダブルスでも自己最高ランク(401位)を更新しました。

1人で遠征に行くことも多くあり、交通手段や滞在ホテルなど沢山のことを調べながらまわる遠征はとても大変でした。しかし、学生の時よりもテニスに使える時間が増え、自分自身と向き合えるようになりました。遠征での反省を練習で修正し、よりベストな状態でテニスができるようにトレーニングをします。その流れとしては学生の時と変わらないように感じますが、ひとつひとつの内容がより深くなり、次の試合で活かせるようになりました。

2年目はもっと多くの大会に出場して結果を残し、ひとつずつ上のレベルの大会に挑戦できるように頑張ります。そして、反省の内容や試合でのプレーが質の高いものになっていければと思います。



Misaki Matsuda



熊坂 拓哉 選手

昨年度亞細亞大学を卒業し、今年度からプロテニス選手として活動しています。熊坂拓哉です。

今年は国際大会、8大会に出場しました。世界ランクも1300位台と自分の望んでいた結果を出すことが出来ませんでした。しかし、学生の頃より海外の試合に挑戦出来たり、初めての全日本選手権、日本リーグを経験出来たのは自分の中でとても大きな経験でした。中々勝つ事は出来ませんでしたが、その度に常に学ぶ事が成長をとても実感できています。

来年度は国際大会、30大会に出場していく、世界ランク500位を目指に頑張っていきます。また、チャレンジャーにも積極的に出場していくと考えています。

その為にサービスの強化や、土台となる体作りを試合に出場しながら1年間かけてやっていきます。

最後にサポートして下さっている方々への感謝の気持ちを忘れずに目標に向かって毎日大切に過ごしていきたいと思います。

Takuya Kumazaka



堀内 竜輔 選手

2022年1月1日付けでプロ登録した堀内竜輔です。学生からの変化についてですが、スケジュールが大きく変わりました。練習よりも試合の量が増えます。学生の頃は、関東学生、インカレ、リーグ戦のために準備し、計画を立てていました。

プロになってからは国内大会(jop)か、国際大会の2種類しかありません。この一年は30大会を目標にエントリーしますが、これまでに比べて試合数が多くなるので、怪我に気をつけていきたいと思っています。

初めてのことが多く、不安なこともあります。大学時代の同期3人に助けられています。高見澤、熊坂、松田が困った時に助けてくれます。同じ道を選んだ同期3人がいたことはとてもラッキーでした。

この一年の目標ですが、ATPポイントをシングルス、ダブルスで取ることです。亞細亞大学に恩返しできるよう、日々努力していきます。



Ryusuke Horiuchi



高見澤 岳飛 選手

昨年度亞細亞大学を卒業しました、高見澤岳飛です。

私は卒業後選手活動することを決意し、1年目が終了しようとしています。1年目は自分の思ったように予定が進まなかったり、結果が出なかった1年となりました。なかなか予選を上がりなれなかったり、本戦にいっても勝てなかったり、上手くいかないことだらけですが、その日々を楽しめてもらっているので諦めずに、日々挑戦していくように努力します。

学生の時はとにかく返すことがプレーの中で主体になっていましたが、ただ返しているだけじゃ勝てない、上を目指すにはパワーのあるボールを打たなければいけないと思い、最近では打ち込みの練習をしたり、サーブの強化をしたりして、苦手な自分からポイントを取りに行くパターンをたくさん練習しています。今勝つプレーより、上で勝てるようにするプレーを取り入れられるようにしています。更に練習拠点も変えたため、自分よりも強い選手と練習をしたり、新しいコーチの考えを聞くことが出来たりして、新鮮な選手生活を送る事が出来ています。

2年目の目標としては、まずはATPポイントの獲得が最低限の目標としてはありますが、とにかく少しでも上にいけるように最善を尽くしたいです。同年代の綿貫選手は18歳で全日本を優勝して、更にチチパス選手とも同年代で、既にグランドスラムで準優勝しています。どんなに勝っても既に周りは通過していると思って貪欲にテニスに向き合いたいと思います。

私がいま、選手生活をすることが出来ているのは、クラウドファンディング等で応援してくださった方々のおかげなので、今年も感謝の気持ちを忘れずにプレーをしたいと思います。



Taketo Takamisawa



卒業生、それぞれの道

…指導者へ— To a Leader

高田充
JTAナショナルチームナショナルコーチ
監督に言われてきただけで、自分を信じ続けること
選手たちに伝えながら、世界にチャレンジしていきたい



私が亞細亞大学進学を決めたのは、堀内監督からの1本の電話でした。高校2年生の夏に父親を亡くした私は、その後、糸の切れた糸のように、自分がどこに向かっているのかさえ理解しておらず、正直、自分の将来について真剣に考えていませんでした。

ただ、“なんとなくテニスが好きだからテニス活動がしたい”と漠然な思いをもっていた私に対して、堀内監督の「テニスが強くなりたら亞細亞大学に来い」という電話越しからの情熱的な言葉。私は亞細亞大学入りを決意させるのに時間はいりませんでした。

実際、大学に入学すると、同じ学年にいた多くのライバルたちといっしょに過ごす刺激は、私に大きなモチベーションを与えてくれました。今でもよく憶えているのが、合宿での朝から夕方まで練習をして疲れきったはずなのに、夕食後にナイターのフリー練習を欠かさず行なっていたことや、部活が休みの日に学校の近くのコートをみんなで借りてお金を出してまで練習していたことです。

また、いま考えると当時嫌だった、先輩後輩の上下関係を経験したことは、その後の活動において、コミュニケーション能力や忍耐力とい

平成3年度卒業の我々は堀内監督が亞細亞大学に入り、強化を始めた最初の学生です。私は他の大学の推薦もいただいていましたが、夢をもった監督のもと、そして同期の素晴らしい選手と亞細亞でいっしょに活動がしたいという強い思いで、堀内監督にお願いして受験させていただきました。

大学生活では、学業、テニス、部活動と充実した時間を過ごし、社会に出る前の準備をすることもできました。当時の衛藤学長からもテニスが強いだけではなく、人間力を高めるという考え方のもと、大学4年間教育を受けられたことは、現在の私にとって大きな財産となっています。

沖縄出身の私にとっては2、3月のセミナー春合宿はかなり寒く、たいへん厳しいものでした。夕方からの10kmランニングなどは、正直逃げ出したくなることもありました。それを乗りきることにより自信をもつことができたのも事実です。

大学リーグの団体戦では7部で（ひとりだけ）敗戦するという屈辱も、そしてチーム全員で成し遂げる喜びも味わうこともできました。自分の夢、目標に「チャレンジ」することを常に掲げて活動し、高校時代に戦績のほとんど

ない私が、全日本選手権で優勝し、グランドスラムも経験できたことは、亞細亞大学で経験した4年間、そして堀内監督から言われてきた「自分を信じ続けること」ができたからだと確信しています。

高校生の皆さんには、自分の可能性を信じ、目標をもって努力を継続する—言葉でいうのは簡単ですが、それに向かって「チャレンジ」する4年間であってほしいと願っています。それを実現できる環境はここにあります。

私は現在、ナショナルコーチとして活動しています。ナショナル選手のツアーに帯同して、常に強化を図り、レベルアップすることを心がけています。

デビスカップでは29年ぶりにワールドグループ入りを果たし、世界ランキング100位以内に3名が入るという目標も達成しました。今後も堀内監督に言われてきた、「自分を信じ続けること」を選手たちに伝え、世界に「チャレンジ」していきたいと思っています。

たかだ・みつる◎1969年9月26日、沖縄県生まれ、亞細亞大学出身。朝日生命退社後、2000、02年全日本選手権優勝。03年岩渕聰プロのツアー同行、03～06年杉山愛プロのツアーに同行。03、04、07、08年とフェド杯日本代表チームのコーチ。11年からデビスカップコーチ、男子ナショナルチームの指導にあたる。(公財)JOCアシスタントナショナルコーチ、(公財)JTAナショナルチーム、ナショナルコーチ(男子担当)。S級エリートコーチ

った、社会に出てからの重要な能力をつける修行期間であり、大きな財産となっています。

私は運よく大学4年のときに全日本選手権で複優勝（／佐藤博康）という結果を出し、ミキブルーンに就職できました。ミキブルーンではプロのような活動を8年間送ることができました。その後はナショナルコーチとして日本代表選手の強化に携わり、10年目になります。

人生は“自分の決断”でどんなことでもできると思っています。しかし、多くの選択肢を自分だけでは探し出すことができません。もし、この文章を読んでくれた高校生、ならびに両親、コーチがおりましたら、亞細亞大学を選択肢のひとつに入れて、真剣に自分の人生を考えていただければと思います。

こまだ・まさふみ◎1973年3月30日生まれ。愛知県出身。名古屋高卒。90年U18全日本ジュニア複優勝。91年亞細亞大学入学。94年大学王座優勝。全日本選手権複優勝。95年ミキブルーン就職。ミキブルーンで選手活動を8年間行ない、JOP(現JTA)最高単9位。その後はコーチへ転身、現在は竹内庭球研究所をベースに指導者の道を歩む。日本テニス協会ナショナルコーチ、16歳以下女子日本代表監督。S級エリートコーチ

駒田政史
(竹内庭球研究所)



私は、亞細亞大学を卒業後、弟の西岡良仁をはじめ、様々なプロ選手のコーチング、ヒッティング、サポートをしています。ですが、私もプロを目指して生きてきました。現実は厳しく、結局、結果を出すことができずに私は夢を諦めました。今まで明確な目標があった人生でしたが、急にそれがなくなったことで、自分のことが全くわからなくなりました。自分は何がしたいのか、何ができるのか、何のために生きたいのかわからなくなっていました。そんな時、良仁が「一緒にツアーを戦わないか」と言ってくれました。そこで初めてツアーコーチとしての経験をすることになったのです。私にとっての第一歩でした。そこで感じたことは、「自分から求めることが当たり前の世界」ということです。ツアーの現場では誰も与えてはくれません。だからこそ、自己アピールがMustな世界です。自分から行動しなければ、何も得ることができないということを知りました。同時に、とてつもないやりがいを感じました。プロ選手のコーチは、元プロ選手や有名な選手にしかできないといったイメージがあると思います。実際ツアーコーチとして、この年齢で活動している人はいないと思います。でも、私は敢えてそれにChallengeすることを決めました。そのきっかけとなった言葉が、There is no time like the

presentです。直訳すると、思い立ったが吉日という意味になります。今やろうとしていることは、私にしかできないことかもしれないと思い、気づいた時には走り出していました。それから、私はあらゆる現場を経験させてもらいました。必死に何かを成したい、学びたいといった姿勢は必ず誰かが見てくれています。私はたくさんの方々に手を差し伸べていただきました。格好悪くとも、周りから批判されても、自分自身を信じること。やりたいことに誠実であることが、きっと誰かの心に響くと私は思っています。出会いは必然です。必要な時に必要な人と出会うようにできています。きっとそれに気づくことが大事であり、難しいことだと思います。だからこそ、選んだ道を信じていくしかないのです。そしていつか、やってよかったと思える人生でありたいと思います。「今」を、そして「出会い」を大切にしてください。

にしおか・やすお◎1993年10月8日生まれ。三重県出身。四日市工業高卒。12年亞細亞大学入学。16年に本大学を卒業後、ツアーコーチとして活動中。西岡良仁、澤柳璃子のサポートをはじめ、プロ選手、ジュニアの強化、育成に関わる。グランドスマッシュ、ツアーレースの帶同経験あり。17年4月より、スペインのバルセロナにあるテニスクラブ「Club Mollet」を拠点に、ヨーロッパ、クレートのテニスを学ぶ。



西岡 靖雄

(ツアーコーチ)

出会いは必然
大事なのはそれに気づくこと

堀内監督の言葉

「大学生は未来への通過点に過ぎない」を胸に秘め

堀内 麻千香(旧姓辻)

浦和パトックテニスクラブアドバイザー

私が高校3年生になると、両親もコーチも含め周りの人に私の将来性や可能性など測られているように感じました。もっとテニスが強くなりたいのに、お世話になった方の薦めやつながりのある大学などを紹介され、何が正しいのか分からなくなっていました。大切なのは自分が納得いくまでやりたいかどうかだと思いました。高校3年生の時見学させていただいた、先輩方の練習する姿、堀内先生のご指導と環境作り・理念に感動しました。

当時、受かる見込みが低いと思いながらも受けたセレクションには、各地域のトップ選手がいて私はビリだったと思います。

セレクションから合格発表までに全日本選手権があり、セレクションではビリだから受かるには予選通過するしかない思い、死に物狂いで試合に臨み、無事本戦に上がりました。その後、合格の連絡が来たときは、4年間悔いのないようにしようと心に決めました。

亞細亞大学は他の大学に比べて、インカレ・大学王座などの学生大会以外にJOP大会やITF大会にも挑戦できる機会が多く、堀内先生もコーチも毎日ご指導くださりテニスを磨くには最高の環境でした。

堀内先生は「大学生は未来への通過点に過ぎない。自分に線を引くな。」と常におしゃって

いて普通ならインカレや大学王座を重視し、4年間で終えるのかなと思っていたところ、こんな私でももっと先の夢を見ていいのかな、と思いました。

それから私は今しかできないことを全力でやり、苦楽を共にした仲間と大学王座で日本一になり、就職も日本リーグで活躍できればと考えて朝日生命に入り、5年間戦うことができました。

大学時代を振り返って思うのは、頑張れる環境と指導者・同じ目的を持った仲間がそろってこそ悔いのない時間が過ごせるということです。現在はジュニア育成に携わっていますが、ジュニアを卒業してからが本当のスタートだということを20年間変わらず伝えています。

私が高校3年生の皆さんに何かお伝えできるとしたら、スタートはこれからだ、ということです。本気で強くなりたい人が本気でテニスができる環境に身を置くことが大切だと思います。是非、亞細亞大学で自分自身にチャレンジしてください。

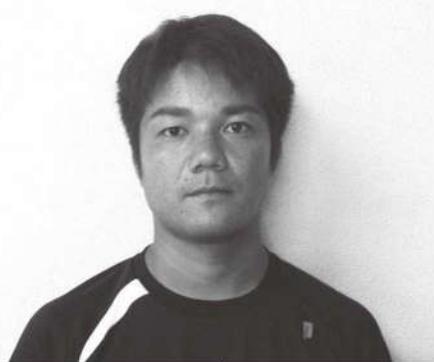
おかむら・まちか◎1971年5月14日生まれ。石川県金沢市出身。石川県星稜高校・朝日生命実業団5年。87~89年インターハイ・全日本ジュニア単複出場。88~97年全日本選手権出場。91年インカレ複8・93年単ベスト32。91年石川国体準優勝。日本リーグ3位。朝日生命退社後、浦和パトックテニスクラブにて選手育成コースを立ち上げ活動している。



高校時代に歯が立たなかつた
間に違ひなかつたと思いましめた

平良和己

(沖縄尚学高等学校)



6歳でテニスを始めて、高校まで地元・沖縄で活動しました。高校時代はインターハイで団体ベスト8に入るも、個人戦は1、2回戦負け——どうしてももっと強くなりたかった——。関東1部リーグではない、偏差値の高い名門の大学にも誘われましたがまったく興味がなく、全国のトップ選手が集まり、10面のテニスコートとグラウンド、トレーニングセンターなどの素晴らしい環境、そして堀内先生の指導に「ここだ！」と感じて亜細亜の門を叩きました。

4年間の学生時代は、大半をテニスに費やしたと言っても過言ではありません。沖縄にはない素晴らしい環境の中、全力プレーできることに、今までにない充実感を覚え、毎日テニス

コートを走り回り、自分なりに限界を目指してきました。そんな中で高校時代にはまったく歯が立たなかつた選手に関東学生で勝ったとき、亜細亜を選んで間違いなかつたと感じました。リーグ戦、大学王座という今まで味わったことのないプレッシャーの中での試

合は、いまとなればとても良い経験だったと思います。人生であれほどのプレッシャーはなかなか味わえるものではありませんから。

現在は高校の教師として教壇に立ち、放課後は部活を指導しています。もともと教師になるとは思っていませんでした。何となく4年間で免許が取れるならと思い、3年次から教職授業を受け、社会科の教員免許を取得しました。亜細亜のテニスクリニックで人にテニスを教える楽しさを感じ、今までの経験を地元で伝えられたらと思うようになったのです。堀内先生、森コーチの指導は、いまの私の部活指導の基本になっています。亜細亜での経験が、教師となつたいまの私を支えています。

大学4年間で目標を達成するために、誠実にテニスと向き合い努力することで、人として成長し、社会で認められる人間になる——亜細亜はそれができる場所です。目標があるなら、私は亜細亜を選んでほしいといいます。

たいら・かずみ◎1982年6月29日生まれ。沖縄県出身。沖縄工業高校卒。インターハイ団体ベスト8。01年亜細亜大学入学。04年新進ベスト4、春闘単ベスト8。04年大学を卒業。05年日本体育大学で体育教員免許取得。06年沖縄尚学高等学校体育教員に就任、現在に至る

中学の部活からテニスを始め、正直ここまでテニスに関わる人生になるとは思ってもいませんでした。これまで様々な分岐点で大事な決断やたくさんの人との出逢いがありました。中学でも高校でも納得のいく結果が残せず、もっと強くなりたい思うようになりました。

部活でテニスを学んできた私は、日本だけでなく世界に視野を広げた指導者のいる大学に進学を決めました。そこは、本気になるる素晴らしい環境でした。

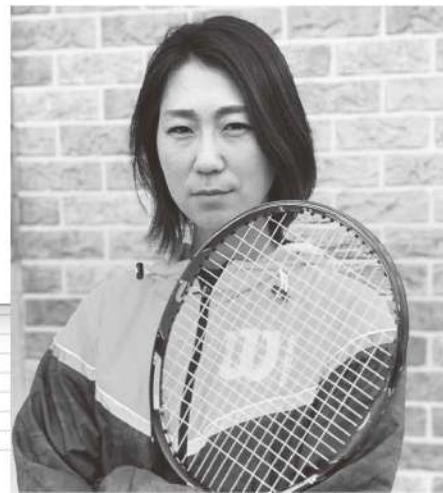
本気で上を目指す人たちの集まりについていくので必死でしたが、辛く厳しい毎日の中で、仲間と共に味わう感動が何よりも自分を成長させ、強くなれたのだと感じています。そこで得られたものは、テニスの技術だけではありませんでした。テニスクリニックなどを通じて人の繋がり、教える楽しさ、喜びなどを学び経験させていただきました。また、全豪に行き日本の選手の方たちの合宿に加わり、お金には変えられない価値のある経験をさせていただきました。

現在、教師をやりながらテニス部の顧問をしています。私自身結果を残せたわけではありませんが、不完全だからこそ目的を果たすために何が大切なことを伝えられるかと思います。教師なんて1ミリたりとも考えていましたが、亜細亜大学で培ったものや堀内先生との出逢い

が私を変えました。テニスの面白さや人に教えることの楽しさそして、仲間と共有することのできる目的があることの素晴らしさを亜細亜大学で教えていただきました。どんなに強い選手でも努力なしでは成果はないということを子どもたちに伝えています。

誰かの下で、どんなに良い環境があっても、何をどのようにしていくか、目的がなければどこにいても同じだと思います。本気になるかないか、その分岐点は自分の中にあります。テニスを追求し本気になるる亜細亜大学は、自分次第で最高の場所になると思います。

えんどう・まりこ◎1983年7月11日生まれ。埼玉県出身。浦和学院高校卒。01年インターハイ団体ベスト16、複出場。全日本ジュニア18歳以下複ベスト16。02年亜細亜大学入学。05年インカレ複出場。06年大学卒業。社会科教員免許取得。07年日本体育大学で体育の教員免許を取得し、翌年、学校法人明星学園浦和学院高等学校の教師として就任。16年~20年日本大学三島高等学校の教員として指導にあたる。



（元日本大学三島高等学校教師／テニス部監督）
遠藤真理子
「応援すること」「支えること」はまさに今の私の仕事につながっています



「個」を磨くことができました
偏差値よりも個性値を大切にする大学で、中村聰利

(浦和学院高等学校)

10歳でラケットを初めて握つてから現在までの26年間で、テニスを通じてさまざまなことを学んできました。「感謝すること」「あきらめないこと」「勝つために最善を尽くすこと」「相手を尊重すること」「チームの一員として役割を果たすこと」など。そして何よりもかけがえのないことは、「テニスを通じて多くの人と出会い、国内に限らず海外の友人もでき自分の視野が広がったこと」です。そんな経験をすることができた場所のひとつに、亞細亞大学があります。

当時は同世代のトップたちとともに、学生時代の大半をテニスコートで過ごしました。好きなテニスに夢中になり、その楽しさを感じ、ときには勝てない自分に悩み苦しんだりもしましたが、そんな日々と向き合いながら過ごせたのも「テニスが大好き」という思いと、堀内監督をはじめとした仲間が亞細亞という環境にいたからだと思います。

印象深いのは、日本一を決める大学王座決定試合に、4年次で挑んだ「王座奪回」。結果、優勝することはできませんでしたが、部員が同じ

方向を向き、本気で戦い抜いた準優勝には清々しいものを感じました。

現在は高校教師として教壇に立つとともに、亞細亞で培った経験を生かし、テニス部顧問として務めています。私の指導の心得の中には、孔子の言葉「水は方圓の器にしたがう」があります。これは「人は環境や交友関係によって善くも悪くも変わる」という意味です。お互いが信頼し、尊重し合える仲間をつくり上げることこそが、私たちにとっての「師」であり「テニス」なのだと思います。だから、指導者は自らを高め、その環境づくりにエネルギーを注がなければいけないと感じています。

最後に、これから社会を生き抜くためには「個」が問われることでしょう。偏差値よりも個性値を大切にする大学で、自身も「個」を磨くことのできた亞細亞は、誇りのものてる私の母校です。亞細亞の門を突き破り、挑戦し続ける高校生の入学を期待します。私も生徒とともに、挑戦を続けています。

なかむら・あきとし◎1975年12月13日生まれ。山形県出身。日本大学山形高等学校卒。93年全日本Jr.18歳以下単ベスト32。94年亞細亞大学入学。97年インカレ複ベスト32。98年に卒業し、98~04年までJAMプランニングにテニスコーチとして務め、ジュニア育成に携わる。04年4月から学校法人明星学園浦和学院高等学校に教師として就任し、現在に至る。



私が亞細亞大学に進学した理由は、テニスに本気で打ち込みたいと思ったことと、自分を大きく変えることのできる環境があると思ったからです。

学生時代は1、2年となかなか思うような結果が出せず苦しい思いをしましたが、3、4年になると試合経験と練習量が増加し、海外遠征（ポルトガル）によって自信がつき、インカレに出場して勝つことができました。なおかつレギュラーとしてリーグ戦に出場することもできました。また4年次には主将となり、同期の皆さんに支えられて乗り越えることができました。

“責任”という大きなものを背負いながら日々を過ごせたことが、自分を成長させてくれたように思います。

私自身は高校まで、テニスクラブで練習をしていたので、大学からの部活生活は本当に新鮮でした。今まで自分でもうまくなるとか強くなると思っていましたが、部活でやることによってチームで強くなると思えるようになり、“協調する”ことの大切さを知りました。

現在、私は教師として、またテニス部顧問として活動しています。最初から教師を目指していたわけではありませんでしたが、教育実習を経験し、教師のたいへんさを知るとともに、人を変えることのできる仕事というところに非常

に魅力を感じました。自分が指導している子供たちが日々成長している姿を見たり、自分の伝えたことを実践して変わろうと努力している姿を見ると、まさにやりがいを感じます。

高校生のみなさん、亞細亞には本気になる環境があります。いつかは現役を退き、本気でコートを走り回ることもなくなります。しかし、そうなる前に大好きなテニスと納得いくまで本気で向き合い、本気で生きることを感じてください。最高の人生を送るためにには最高のプロセスを送ること。そのためには日々何事にも全力で取り組むこと。頑張れ高校生!!

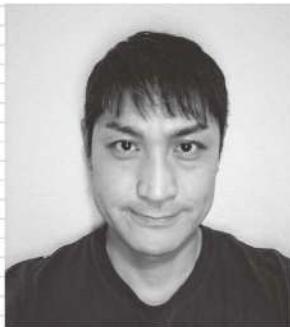
しんや・あきら◎1985年3月7日生まれ。大阪府出身。大阪産業大学附属高等学校卒。03年亞細亞大学入学。06年春季関東学生単&複ベスト32、インカレ単ベスト64、複ベスト32。07年に卒業し、現在は母校である大阪産業大学附属高等学校に社会科教員として務めるかたわら、テニス部顧問としても活動している

新谷 啓
(大阪産業大学附属高等学校教員)
本気になれる環境で、生きることを感じてください

大切さを学べることの大我武者羅になる場所

城間和人

(株式会社島津製作所)



私が亞細亞大学に入学を決めたのは、高校時代からの大先輩である高田充先輩が亞細亞大学に進学したからです。高校時代から直向に努力し続け、どんどんと実力をつけていく高田先輩は私の憧れでした。先輩が上京し、さらに強くなっていく姿に、「いつか自分も上京して強くなりたい!」と強く胸に抱きました。

しかし、同学年には全国トップクラスの選手ばかり。自分は、ここで強くなれるのだろうか、どこまでついていけるのだろうかと不安に駆られ、自信を失いつつありました。そんな中、同学年の仲間が私を受け入れてくれたこと。仲間と一緒に合宿所の屋上で素振りやフォームのアドバイスなどお互い話し合ったことが、不安から私を開放してくれました。その時、私は“くよくよ悩まずに兎に角今を我武者羅に頑張ろう”と心に決めたのです。そのおかげで1年生の時に全日本学生のダブルスで4強に入賞することができました。正直、私自身、驚きました。4年生の時は、シングルスで全く戦績が無かった私ですが、夏闘で初の4強入り。亞細亞大学に入って強くなったら実感した瞬間を今でも忘れません。

学生時代を振り返って、私が学んだことは、目標を持って頑張ることはもちろん、自分は何ができるのだろうかということを深く考えずに、とにかく何事にも我武者羅に、必死に今を頑張

ること、そして、一緒に頑張ってきた仲間に感謝する気持ちを持つことです。当然一人では強くなれないし、競い合う仲間や応援してくれる仲間がいたからこそ、我武者羅に、必死に頑張れたのだと思います。

その学んだことを活かし島津製作所に就職しました。社会人2年目の全日本選手権混合ダブルスで準優勝することができました。社会人選手を8年間、我武者羅に頑張ってこられたのも、テニスができるという環境を与えてくださった会社、応援してくださる方々、大会で戦ってきた多くの選手の方たちのおかげです。本当に多くの方たちに恵まれたことに感謝しています。現在は、テニスをさせてくれた会社に感謝の気持ちを持って、一社員として我武者羅に仕事を頑張っています。

高校生の皆さん、亞細亞大学の魅力の一つとして我武者羅に頑張れる環境があります。これからも、もっともっと一所懸命になれるような場所として亞細亞大学を盛り上げていきませんか?

一所懸命に頑張ってきたことは、自分の自信にもなりますし、一生の宝物になります。

しろま・なぎと©1972年4月2日生まれ。沖縄県出身。1991年全日本学生複ベスト4、1994年大学大座優勝、1995年島津製作所入社、1997年全日本選手権混合準優勝。島津製作所で選手活動を8年間行う。現在は、週1テニスを楽しんで過ごす。

私は高校3年生の時に、大学選びに迷っており、ギリギリまで決めることができませんでした。いくつかの大学で迷っていましたが、堀内監督や森コーチが熱心に勧説していただき、何度もお話を重ね、亞細亞大学に進学することを決意しました。

亞細亞大学にはハードコート8面、オムニコート2面と全部で10面のテニスコートと、トレーニング器具が完備されたジム、また、監督を筆頭に数多くの実績を誇るスタッフ陣と他の大学にはない環境が整っていると思います。しかし、亞細亞大学では常に答えを教えていただけるわけではありません。自らが考え方行動していける人間を育てることをモットーにしています。なので、学生が主体となり、練習メニューからトレーニングメニューなどを考えており、どのようにすれば大会で結果を出すことができるのか、部活をより良くしていけるのか日々試行錯誤しています。答えを与えられず迷うこともありますが、その迷いが自分自身をより大きな人間にしてくれていると私は思います。また、テニスは常に考えるスポーツで、それを一人で行わなければいけないのでこのような環境で過ごせることはとても重要だと感じます。

私は、このような経験から、関東学生で優勝、全日本学生でベスト8まで、行くことができまし

た。また、団体戦では目標としていた王座に出場することは叶いませんでしたが、毎年1部6位で、私が3年生までは1度も勝ったことがなかったですが、4年生で主将を務めた際にチームで2勝をあげ、1部4位になれたことは本当に嬉しく、チーム全員の喜んでいる姿は今でも忘れません。

亞細亞大学では、テニスを通して人間力や社会性を向上させていくことが出来る環境が整っております、一緒に切磋琢磨していける仲間もいます。冒頭にもお話しましたが、あの時熱心に勧説していただいたスタッフの皆様には感謝しておりますし、亞細亞大学に進学して良かったと思っております。

高校生の皆さん、人間力の向上ができ、4年間で目一杯テニスに打ち込めるそんな亞細亞大学はいかがでしょうか。

かとう・しょうま©1997年10月4日生まれ、神奈川県出身、横浜清風高校卒。2011ワールドジュニア世界大会2位、2013年全日本Jr複優勝、2015年全日本Jr単ベスト8、2015年国民体育大会3位、2017年関東学生新進テニス選手権複優勝、2018年インカレンドア単複ベスト8。大学卒業後は株式会社東急パワーサプライに入社。

加藤彰馬

(株式会社東急パワーサプライ)



私は一般入試で大学へ入学、ただただ普通の大学生でした。サークルはどうしようかな?と考えていた時に、テニス部へのマネージャー募集に出会いました。昔から家族でテニスをしていたこともあり、見学へ行ったことが私のテニス部生活の始まりでした。

マネージャーの仕事はテニス部の業務的なサポートがメインですが、の中でも学生テニス連盟の業務もさせて頂き、大会運営、学生強化などにも携わることが出来ました。大学生の大会は、全て学生で運営しており、他大学の仲間と協力し合い行います。特に強化部としては、ユニバーシアード(大学生のオリンピック/2007年タイ開催)へマネージャーとして参加させていただきました。ただの普通の大学生が日本チームの一員として日の丸をつけて参加するなんて、まさに夢のような経験でした。また、亞細亞大学でのフューチャーズ大会の立上げにも携わらせていただきました。プレイヤーの部員が大会を運営することは大変なことでしたが、みんなで協力し大会を無事に行なうことが出来ました。

マネージャーという立場ですが、監督やコーチ、同学、先輩・後輩などに恵まれました。特にテニスのことが何も分らない私を支えてくれた同学には感謝の気持ちでいっぱいです。マ

ネージャーですが、部員と一緒に全国大会での素晴らしい時間を過ごすことが出来ました。

現在は2児の母でもあります、ホテルにて勤務しております。ホテルでの仕事も日々チームプレーなので、この4年間の経験が活きていると実感しています。

亞細亞大学へ入部してくる選手は、「みんなテニスが好き、もっと強くなりたい」という気持ちが共通しています。ただテニスをするだけではなく、マネージャーの仕事もその先の社会に出てから活きてくることがたくさんあります。この4年間は本当に貴重な時間です。ぜひこの時間を仲間と共に切磋琢磨し、素敵な時間を送りませんか。



福田弓乃
(株式会社プリンスホテル)
マネージャーは決して裏方ではなく、誰よりも素敵な経験ができました

ふくだ・ゆみの ◎1986年2月3日生まれ。東京都出身。聖徳大学附属高等学校卒。04年亞細亞大学入学。08年株式会社プリンスホテル入社

今学生生活での成長が
今私の支えになっています

(明治安田生命保険相互会社)

田中文彩

「全国で勝つにはここしかない。」そう思い、私は亞細亞大学に進学を決めました。中学、高校では納得のいく結果を残せず、全国で勝つためにはこのまま地元の愛知県で進学するのではなく、全国から選手が集まる関東に行くべきだと考えました。その中でも亞細亞大学は、堀内監督をはじめとするコーチ陣の熱い指導、コートやトレーニングの施設、素晴らしいライバルと、どこにも負けない環境が整っており、1番魅力的な大学でした。

もちろん戦績もない私が通用するのか不安はありませんでした。入学してからは毎日が緊張で、付いていくのに必死だったのを覚えています。そ

れでも自分の中の目標を忘れずに、その環境ですべきことをやり続ければそれが当たり前になります。また次のステップへと進むことが出来ます。辛い時、挫けそうな時も乗り越えようとしたその行動が、成長させてくれたのだと思います。

大学生活は社会に出る前の大切な期間でした。日々の授業、クリニックや大会の運営、集団生活や先輩後輩との上下関係など、コミュニケーションスキルや時間の使い方、忍耐力などは今でも役立っていると感じる場面が多くあります。あれ程までにひとつに打ち込み、熱くなれる時間は2度とないでしょう。周りのサポートがあったからこそ出来たことですが、リーグやインカレ、主将を経験し辛かった時期やあの緊張感は今では本当に良い経験であったと思います。

亞細亞大学は、自分次第でいくらでも可能性が広げられる場所です。自分と向き合い、仲間と共に成長出来る素晴らしい4年間になるよう願っています。

たなか・あや ◎1995年8月16日生まれ。愛知県出身。県立津島東高校卒。15・17年関東学生復ベスト4。15・18年インカレ出場。16年全日本復ベスト32。現在は、明治安田生命に勤務し実業団チームに在籍。19年日本リーグ準優勝。



人間性が磨かれた4年間

橋本大貴

(株式会社NIPPO)

平成29年度卒業の橋本です。私は高校3年の春までは他の大学への進学を考えていました。しかし、その年の夏に亞細亞大学の練習に参加させて頂いた際に10面のテニスコート、トレーニング器具が完備されたジム、そして堀内監督を筆頭に数多くの実績を誇るスタッフ陣。自分自身のテニスを追求するには十分過ぎる環境だと思い、進学を決意しました。

亞細亞大学は、学生主体で部活動を運営する意識がかなり高いと思います。私は、1年生からレギュラーとして活動し、4年生の時には主将も務めました。試合で上手く結果が出ない、部活動の運営に問題は無いかななど、現在の状況



大学選びに悩んでいる高校生へ伝えたい事は、「チャレンジ出来る環境に身を置いて欲しい。きっと見た事のない絶景が見える」という事です。高校生までの私は、全国大会に出場しても1,2回戦敗退ばかり。大学進学は2部か3部の有名大学に入ろうと考えていました。そんな私が亞細亞大学への進学した大きな理由は、堀内監督の存在です。高校までテニスはやり切つたつもりでしたが、堀内監督の温かく情熱的な人柄と指導力に惹かれ、大学でも頑張ってみよ



うと思ったのです。そして厳しい練習を乗り越えて迎えた、インカレ、インカレ室内、王座で決勝へ進む事ができました。今でもあの時の感動、あの時の景色を思い出すたびに鳥肌が立ちます。それと同時に「亞細亞大学に進んでよかった」と思うのです。皆さんの中には大学卒業後の進路に不安がある方がいるかもしれません。しかし企業は「何かに全力で取り組んで成長した人」を求めています。亞細亞大学では学生主体となって国際大会を運営したり、コーチ陣等で国内外のITFの大会に挑戦できます。そのような経験は亞細亞大学テニス部でしか出来ない経験です。また、必然的にテニス界での繋がりも広がっていくので、卒業後に実業団を希望する学生に有利です。最後に冒頭でもお伝えした通り、「チャレンジ出来る環境」に飛び込むことで想像以上に充実した経験が出来ると思います。これは経験者である私だからこそ胸を張って伝えられます。

たかはし・れいな◎1996年8月8日生まれ。山形県出身。宮崎商業高等学校卒。2010年全日本Jr.単ベスト16。2015年亞細亞大学入学。2018年インカレ複準優勝、インカレインドア複優勝、王座準優勝。2019年に卒業し、リコーに就職。実業団で活躍中

卒業して間もない私だから言えること
チャレンジの先にある絶景を見に飛び込もう

高橋玲奈

(株式会社リコー)

を打破する為にどうすれば良いのか、自分で考えるのはもちろんですが、同期や先輩、後輩と日々話し合い解決策を模索していました。どんな状況でも決断を下すのは学生自身でした。この環境だからこそ自分で考え抜く力が磨かれ、テニスだけではなく人間性、心の部分が大きく成長したと思います。亞細亞大学での4年間は、私を人として大きく成長させてくれた一生忘れることのない時間だと確信しています。

高校生の皆さん、大学生活は一度きりの人生の中で各個人の中に色濃く残る大切な時間だと私は思います。そんな貴重な時間を、より良い環境で過ごしてみませんか。亞細亞大学には、4年間を余すことなく完全燃焼できる環境があります。

現在、私は株式会社NIPPOの営業マンとして日々仕事に従事しています。毎日テニスに没頭していた大学4年間とは環境が大きく変化しましたが、常に人間性を磨き、心の成長を止めないことを考えています。これからも亞細亞大学での経験を活かして、人として大きく成長していきたいと思います。

はしもと・たいき◎1995年8月14日生まれ。北海道出身。中学校まで北海道でテニスを続ける。秀明英光高校進学を機に関東へ。埼玉県私立秀明英光高等学校卒。団体戦第35回全国選抜高校テニス大会3位。団体戦平成25年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)3位。個人戦平成25年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)単出場 複ベスト16。2014年亞細亞大学入学。平成28年度関東学生新進テニス選手権大会 複準優勝。全日本大学テニス選手権大会(インカレ)複ベスト32(2015・2016)。関東学生リーグ4年間単複フル出場。大学卒業後は株式会社NIPPOへ入社。

三上英知

(伊藤忠商事株式会社)

あきらめずに頑張れば報われるということを、身をもって経験できました

私は一般入試で亜細亜大学に入ったので、入部当初は、自分のレベルが周りの同期、先輩とかけ離れており、やっていけるのか不安に感じたのを憶えています。それでも自分を信じ、とにかく、毎日必死にボールを追いかけていました。途中、ケガなどもありましたが、堀内監督を信じ、あきらめずに4年間頑張った結果、入学当初は想像もしなかった成績を収められ、本当に良い経験となりました。ありきたりですが、あきらめずに頑張れば報われるということを身をもって経験できたこと、主将をやらせても

らい、人をまとめることの難しさを勉強させていただきました。両方の経験がいまの人生に生きています。

楽しかったことと言えば、何と言っても素晴らしい同期と出会い、いっしょに時間を共有できましたことです。ほとんど兄弟のように365日いっしょにいました。反対につらかったことは、毎日でしたが(笑)、それくらい必死に練習していましたと思います。やはり4年のときに部の運営をしていて、なかなか全員が同じ方向を向いてくれなかったときはつらかったです。でもそれもいまとなっては良い思い出です。

亜細亜大学テニス部は、素晴らしい練習環境の下、テニスの大幅なスキルアップが図れることは間違いないし、同時に人間力を磨ける本当に素晴らしいチームだと自負しています。ぜひ入部して自分を試してください。

みかみ・えいち ◎1970年9月18日生まれ。静岡県出身。静岡聖光学院高校卒。89年亜細亜大学入学。91、92年春季関東学生複ベスト8、インカレ複ベスト32。91年全日本テニス選手権復出手場、92年全日本学生室内復出手場。93年大学卒業後、伊藤忠商株式会社、建設部門に配属。その後、食品流通部門へ異動しファミリーマート事業に携わる。06年より5年間中国広州市へ海外駐在。駐在中もテニスを通じ日中交流を楽しむ。帰国後は、駐在の経験を生かし中国を担当



皆さんにとって「仲間と一緒に力を高め合いながら熱狂できること」は何ですか?それを見つけられる人って残念ながら意外と少ないのではないかでしょうか...?私は亜細亜大学に一般入試で入学し、ほぼほぼ素人レベルでの門をくぐりました。先輩そして同期にはインハイで大活躍していた選手、後から入ってくる後輩もとんでもない選手ばかり...私のようなテニス素人選手がこの環境で何に熱狂したのでしょうか?私はこの亜細亜大学で「チームで戦うという快感」に熱狂していました。テニスは究極の個人戦であり究極の団体戦です。コート上にいるのは一人...でもコートの外には多くの仲間がいます。一緒に汗を流し、時にはもめる事もある。でも我々はチームです。そして私が4年生の時、亜細亜大学硬式庭球部は大学王座で日本一になったのです。今私はオーストラリアで飲食という畠でチームを作り目標に向かって走り続けています。海外ならではの苦労、思いも寄らぬ問題が毎日のように降りかかってきます。しかし亜細亜大学庭球部で培った「チームで戦うという快感」を求め日々奮闘しています。学生という

人生の中でも最も貴重な時間をこの亜細亜大学で堀内監督はじめコーチの方々の指導を受けながら、自ら考え行動しチーム一丸となって大学生活を謳歌していって下さい。そしてどんな分野でも結構です。海外で活躍できる力を身につけましょう!オーストラリアで待っています!

ひらぬま・かおる ◎1971年10月18日生まれ。テニスの主な実績は無し。大学卒業後、旅行会社に就職。2年で退社しニュージーランドへ旅に出る。一時帰国したもの29歳でシドニーの外資系旅行会社に就職。就職したその年に会社が倒産。30歳で飲食の道に進み現在ブリスベンに焼肉店を2店舗とラーメン店を2店舗、ゴールドコーストに居酒屋1店舗の合計5店舗のオーナーとして奮闘中。



平沼かおる

(オーストラリアで起業して)
テニスは究極の個人戦であり究極の団体戦。
そこで得られるることは:

柴廣

（明治神宮外苑テニスクラブ）

充実した力を高め、人間力を育む、生活を



今から40数年前の昭和53年（1978年）成田空港が開港した年になりますが、私は縁あって亞細亞大学に入学いたしました。一般入学でありましたが、新入生勧誘を受けたこともあり、硬式庭球部に入部することにいたしました。高校でテニスの経験は少しあったものの、体育会というのは正直不安な気持ちだったこと今でも覚えております。

当時のテニス部にはホームコートがなくジブシー活動。また特定の指導者がいない中でも練習・規律は結構厳しく、部員皆で知恵を絞り一生懸命テニスをしながら、まず充実した学生生活を送っていたと自負しております。

戦績はといいますと、関東学生本戦にも上がれず、チームとしても4年間、関東リーグ最下部の7部にいた訳ですが、最後の年に7部の中で準優勝したことは、ちょっぴり自慢です。

卒業後、テニス関連の仕事に就いた後、昭和から平成に替わる年、明治神宮外苑という法

人に奉職することとなりましたが、それ以降も学生諸子の活躍はずっと見続けてきております。

さて、私はその明治神宮外苑で、神宮水泳場、神宮第二球場・ゴルフ練習場と実経験のない施設を回り、平成23年（2011年）20数年振りにテニスに復帰し、テニスクラブ支配人として着任し、現在に至っております。

テニスから離れていた20数年間、仕事以外でもテーマを自分自身で見つけ、乗り越える。達成出来たかは疑問がありますが、そんなことを常に考えていました。思い起こしますと、指導者不在でした学生時代、そこには仲間がいましたが、重要だったのはテニス以外のこと自分自身で考え、実施する「人間力」だったと思います。

最後になりますが、私もずいぶん人生送ってきました。学生時代の仲間はたった4年間の付き合いでしたが、今では生涯の友となっております。そんな仲間とテニスはだけでなく、様々な経験を積み、バランスの取れた素晴らしい学生生活をお送りくださいますよう、心より願っております。

しば・こういち◎1959年11月14日生まれ。東京都出身。都立桜町高校卒業。1978年 亞細亞大学経営学部入学。1982年卒業。フミヤテニススクールアルバイトを経て、1983年神宮テニスクラブにテニスコーチとして就職。その後、1988年明治神宮外苑入苑。

私は、経験豊富なコーチ陣が他の大学より多く在籍していること、また、国際大会を運営していることを魅力に感じ亞細亞大学の入学を決めました。

私が学生時代の中で一番心に残っている言葉は堀内監督の「社会人になるとミスをすることは許されないから学生の内にいっぱい挑戦をしてミスを怖がらず挑戦しろ」との言葉でした。国際大会では多くの企業に出向き国際大会のアピールや協賛をしていただいて企業に対してどのような利点があるのかなどを伝えることをしました。また、部活内では副将として部の運営のサポート、勧誘では多くの高校生や高校の先生方、親御さんに亞細亞大学のアピールをして多くの選手を獲得するために尽力しました。

仕事だけではなくテニスに関しても多く悩みましたが1年生の時よりかなり実力、結果ともに成長することが出来たと思います。自分の求めるプレーでどうやって結果を出すことが出来るかをコーチ陣と沢山の時間を使い議論したことは今でも感謝しています。

私自身、現在の仕事では職員同士でのチームワークが必要でミスが絶対に許されない仕についておりますが、学生時代の4年間が凄く自分の力になっていることを感じ、やってきたことが間違っていないと確信を持っています。

最後になりますが、成長するかしないかは自分自身だと思います。ただ、この亞細亞大学には自分自身をより良い人生に進むことの出来るきっかけがあります。また、プロになれる環境もあります。多くの経験をしてなりたい自分を見つけて頑張って欲しいと思います。

恒松拓未

（東急電鉄株式会社）

亞細亞大学で得た経験

つねまつ・たくみ◎1996年1月26日生まれ。埼玉県出身。大成高校卒業。14年亞細亞大学入学。15年に単複インカレ予選出場、16年にインカレ本戦、新進複準優勝。また17年には単インカレ予選・複インカレ本戦出場、夏闇複ベスト8。18年に卒業し、東急電鉄株式会社に入社。現在も東急電鉄株式会社に勤めている。



卒業生の主な就職先

■就職状況

近年、学歴よりも人物重視の選考を多くの企業が取り入れてきています。

そこで就職状況を紹介するとともに亜細亜大学テニス部での活動がどのように就職に生きてくるかをお伝えしたいと思います。

★学歴重視よりも人物重視の採用

学歴=大企業と思われる方も多いと思いますが、近年多くの企業が人物重視の採用を行っています。

これは本人が今までどのような学生生活を過ごしてきたが重要になるということです。

ではテニス部での活動がどう生きてくるのかをお伝えします。

POINT

- 国際テニス大会の運営(男女同開催)により実務力が向上
- クリニック(3時間受講生の方に監督、コーチ、学生でテニス指導)で接遇能力向上
- 国際テニス大会の運営費(クリニック、スポンサー)の呼びかけ、集金など交渉力向上
- 派遣コーチで実践的なコーチスキルアップ(亜細亜大学と提携しているテニスクラブにアシスタントコーチとしてレッスンに加わる)
- 週6日の部活動(日々の活動の中で多くの体験をする事が出来る)による生活力向上
- その他、社会人として必要な幅広い能力が身につく

亜細亜大学テニス部◎主な就職先一覧

大正製薬／パイオニア／松下電工／NEC／パナソニック／豊田自動織機／朝日生命保険／大沢商会／セコム／伊藤忠商事／ゼネラル石油／ヤナセ／ワールド／東芝／島津製作所／NTT東京／日本舗道NIPPO／北日本物産／NTT北海道／福岡銀行／日本生命／平和堂貿易／東急百貨店／松下通信工業／大東銀行／アイシン精機／山陽新聞／ディスコ／野村証券／ヨネックス／みずほ銀行／レオパレス21／常磐薬品／ANA／プリンスホテル／警視庁／神奈川県警察／JR北海道／トヨタ自動車／ブリヂストンスポーツ／アメースポーツジャパン／イカイ／KONAMI／JA山梨／明治安田生命保険／三井住友海上火災保険／アドヴァン／エームサービス／ウェスティンホテル／株式会社三越伊勢丹／ワインザーテニスショップ／九州電力／福島工業株式会社／株式会社リコー／東急住宅リース／留学(イギリス・ドイツ)／学校教員

OBインタビュー(株式会社東急パワーサプライ)

「就職活動に役立った点」 目黒 志和

(令和4年度卒業 経済学部経済学科)

亜細亜のテニス部というとテニスしかやらないと思う方も多いと思います。ですが、全くそんなことはなく、むしろ私はテニスよりも人間的に大きく成長する場だと感じています。そんな私が就職活動に役立ったと思う点は3つあります。

まず1点目は出来るまでやる思考と継続力を身に付けられる点です。堀内先生のお話でよくある「出来るまでやる」は私たちの練習のテーマでもあり4年間徹底して行ってきました。この精神はテニスだけでなく私生活や就職活動にも大きく役立ちました。また、テニス部では毎日のトレーニングメニューや1日の練習の反省などを毎日ノートに書くことを徹底しており継続力を身に付けることができました。

2つ目はミーティング・プレゼンテーションが多い点です。週1回の全体ミーティングでは司会者を学年関係なく週替わりで全員が行うようにしています。また、そのミーティングでは各自で決めたテーマの研究を行いプレゼンする時間も設けられており、入学当初は人前で話すのが苦手だったのですがこれらを通じ、ハキハキと話ができるようになり、同時に理解しやすい話し方を身に付けることができました。

3つ目はプチ社会人を体験できる点です。様々な部署があり、そこに1人1人が所属しています。私は副将就任までスカウト活動を

行っており、高校生の各大会の結果をリスト化し伸びしろのある選手探しに努めています。リスト作成には3年間で何百時間費やしたか分かりませんが、昼休みや授業の合間にうまく時間を作り計画性をもって行動できるようになりました。様々な場面で試行錯誤していく中でPDCAサイクルの重要性を理解し、実行できるようになりました。テニスだけではない様々なことを経験させてもらえたからこそ、就職活動では困ることなくスムーズに進めることができました。

4年間真剣にテニスに取り組めば勝手に社会人に向けての準備もできるそんな環境が亜細亜大学テニス部にはあると思います!



就職ガイダンス

卒業・就職までのスケジュール

1年 働く意味を知り、
なりたい自分を見つける

2年 自分の強み、興味、
関心を仕事に向ける

キャリアガイダンス

キャリア形成の取り組みをサポートする説明会で、ワークシートなどを用いてキャリアに関するレクチャーを実施します。

●キャリアフィールドワーク

「働くこと」をリアルに捉え、職業観をより明確にすることを目的としている。大学生版「社会見学」のようなもので、就職をより強く意識する絶好のチャンスです。

●就職準備講座

夏季集中講座。就職活動の3大要素、「自己分析」「企業訪問」「模擬面接」を学びます。

●キャリア講演会

社会で活躍する著名人や卒業生を招いての講演会を行ない、学生時代に「何をすべきか」を知り、その後の「生き方」を考えていきます。

●職業興味検査

進路の方向性を客観的に理解するための機会。「職業と自分」を考えていきます。

キャリア・就職支援プログラム

●個人面談

「学生一人と徹底的に向き合い、同じ目線で将来を見つける」キャリアセンターは常に学生とひとつになり、各自の興味・関心や個性を見据え「進路」を模索します。

●グッドカンパニーフェア

2月、3月、5月に企業の人事担当者の方に来ていただき「学内企業説明会」が行われます。約200社を招き、業務内容などを細かく説明してもらいます。

●キャリアデザイン

なりたい自分への道を描くスキルを身につける。

●卒業生との語らい

亞細亞大学の卒業生をキャンパスに招き、就職活動体験や業界・企業に関する情報を教えてもらうことができ、年齢が近く適切なアドバイスをもらうことができる。

●業界研究セミナー

「業界」の概念を学び、志望企業をイメージする。日本を代表する企業約20社の人事担当者を招き、企業の動向や採用情報、求める人材像などを詳しく解説してもらいます。このセミナーをきっかけに進路を決定する学生も多数います。

資格取得支援および各種講座も多数あり

公務員試験講座
[1講座6コース]

民間企業就職試験講座
[1講座2コース]

資格取得講座
[10講座15コース]

TOEICテスト対策講座
[1講座16コース]

語学会話講座
[3講座15コース]

福祉関係講座
[3講座6コース]

専門課程

教職課程

①「社会科、英語科(国際関係学部のみ)」

中学校、高校の一種教員免許状の取得を目指します。取得できる教科は、高等学校の公民・商業・英語高等学校の商業は、経営学部経営学科のみ。中学校の社会・英語中学校・高等学校の英語は国際関係学科のみ。学校図書館に配置される司書教諭の資格も取得できます。幅広いプログラムで実力のある教員を養成しています。

②図書館学課程

図書館法によって定められている図書館司書の資格を取得できます。同時に、情報システムを駆使できる専門職を育成します。

③社会教育主事課程

生涯学習の企画・立案を行なう専門職を目指します。本課程修了で社会主事の講習を履修したことになります。

亞細亞大学では、入学時から多彩なキャリア・就活支援プログラムを展開。

自分に合った職業に就けるように全学年を通し、個別面談を中心に細かなサポートを行なっています。

3年

自分の適正を見極め、
目指す業界、
職種を絞り込む

4年

就職活動本番!
自信を持って選考へ

就職支援ガイダンス

・自分を知る

自己理解、自己分析、履歴書作成を支援します。

キャリア・就職支援に関するセミナーや目的別講座を実施します。3年次には介護体験、4年次には教育実習が行われます。

・業界・企業を知る

「人事担当による模擬面接」に「ビジネスマナー講座」「文献情報入手講座」「内定者に聞く“就活の基礎”」「卒業生との語らい」「業界研究セミナー」などの実施。

・いざ就活!

「グッドカンパニーフェア」「学内企業説明会」「専任職員による個別面談」の実施。

インターンシップ体験 2、3年次の夏休みに「インターンシップ体験(就業体験)」に参加するのが一般的。1年次にも参加できます。

「教育実習だから感じられたこと」 清水 奎吾

(令和2年度卒業 経営学部経営学科)

私は、母校である滋賀県私立光泉カトリック高等学校・中学校に教育実習に行きました。コロナウイルスの影響で当初予定していた3週間が2週間となりましたが、感染対策がしっかりと行われた状態で実習をすることが出来ました。自身の大学では実習が1週間短くなったので、それらを補う補講プログラムが行われました。教師という仕事を体験できる貴重な機会であり、楽しみな反面不安でもありました。教員側に立ってみると生徒であった時とは異なる考え方や考え方を経験することが出来ました。

学級は高校1年生を担当し、教科は高校3年生の政治経済を担当させて頂きました。高校3年生ということで、受験を控えた時期でもあり、いい緊張感のなかで授業を行っていたと思います。実習3日目からと早い段階で教壇での授業をしました。そのなかで感じたことは、より良い授業をするためには、準備が全てであることを思い知りました。準備をしっかりとすることが出来れば、生徒たちの反応も良かったのですが、一方で準備が怠ってしまうと自分で何を説明しているか分からず、同じことを何回も言ってしまうことがありました。何を教える、伝えるにも自身で充分に理解してからでないと授業として生徒に情報を提供出来ないと思いました。それからは、毎日学校に残れる時間まで残り教材研究を行い、生徒たちが理解しやすいように例え話を考えるなどのことを行いました。また、情報を伝えるにも生徒たちが分かりやすい言葉を選んでいくことにも心掛けました。生徒にとっては、初めて学ぶ知識なので、教員の伝え方一つで生徒のなかに残る知識になるのが決まります。そのようなことにも気を使って情報を共有していくことの重要さを感じることが出来ました。実習生として高校に訪れたからこそこのような経験を出来たと思います。

また、部活動でテニス部にも携わらせて頂きました。テニスを教えるにも学校内で感じたことに似ており、感覚的なことを伝える際



に生徒によってしっくりとくる感覚があるので、私は様々な言い回しをしながら指導を行いました。結果的に、多くの生徒が理解してくれ、理解が出来ない生徒は聞きに来るなど良い雰囲気のなか生徒の接することが出来たと思います。生徒と一緒に何かをすることで生徒との距離感を縮めることが出来たと思います。テニスでの活動はもちろんのこと、実習期間中に農業体験があり、それらを通して生徒と自然に会話することができたので、対面の授業のなかでも教員と生徒が共に学んでいくような空気にしていき、生徒と一緒に成長していく教員を目指すべきだと感じました。

今回の教育実習を終えて、情報を正確に伝える難しさや何事も準備の重要性を身に染みて感じました。教師という職を経験することが出来たからこそ感じるものもありました。とてもやりがいを感じる仕事です。亞細亞大学では、法や経済、経営の勉強をすることに加えて教職課程も受講でき、教員免許も取得でき、多くのことに挑戦できます。また、テニス部では国際大会を主催しており、一般の大学生では経験出来ないことを行っています。挑戦することに妥協がなく、皆がなんでも挑戦できる環境が整っています。最高のチームだと思うので、ぜひ入部しましょう。



第1回「亞細亞大学国際オープンテニス2007」

国際大会開催までの全記録

2007年3月19-25日、私たち亞細亞大学テニス部は、日本初となる大学主催の男子フューチャーズ1万ドル大会

『F1亞細亞大学国際オープンテニストーナメント』を開催しました。

準備から運営にいたるまで、すべて学生が行なった手づくりの大会の全記録がここにあります。

記事協力◎テニスマガジン(2007年6月号掲載)

2006年9月
大会まであと6ヶ月

フューチャーズを開きたい!

堀内昌一監督が学生たちに「フューチャーズを開きたい」と言い始める。学生たちはまだ半信半疑で「無理ですよ」という雰囲気だった。

2006年10月
大会まであと5ヶ月

開催決定

堀内監督が学生に「フューチャーズを開催する」と正式に伝える。さらに「すべて学生でやってもらいたい。お金の集め方から運営の仕方まで、お前たちが全部考えてイチからやってみろ」との指示が。学生たちは「え? 本当に?」という感じだったが、同時にこれはもう引き下がれないという状況になる。

川廷さんの視察

10月24日、ITF(国際テニス連盟)で世界的に活躍している川廷尚弘さんが視察に訪れる。亞細亞大の施設がフューチャーズに使用できるか、コートの幅、審判台の高さなど細かいところまでチェック。



準備や運営についての講義も受けた。徐々に大会のイメージが膨らんできて、「やるならちゃんとやろう」という空気が全体にできあがる。

後日、川廷さんが視察レポートを学生全員に配ってくれた

2006年11月
大会まであと4ヶ月

第1回学生ミーティング

1回目のフューチャーズ・ミーティング。議題となったのは「資金集め」。最初の構想としては、毎年ついている庭球部パンフレットで協賛してもらっている方、日の出町(コート所在地)、地元住民のみなさんや一般企業などに、フューチャーズの主旨を理解してもらい、協力を仰ごうというもの。しかし、実際には厳しさを知り、資金集めは堀内監督、森コーチ、OB・OGが行なうことになった。学生はクリニックのスタッフとして携わることになった。

2007年1月
大会まであと2ヶ月

強化期間開始

年が明け、東レPPOテニスのボーラーなどで忙しく、あまり準備が進まず。30日から、フューチャーズを最終目標とするテニス強化期間に入る。

2006年12月
大会まであと3ヶ月

幹部ミーティングがさかんに

4年生の幹部が監督、コーチらとセミナーハウスに泊まり込んでミーティング。役割分担の項目を決めたり、協賛していただくメーカーや企業を探したり、何度も打ち合わせを行なう。

亞細亞大のセミナーハウス。フューチャーズの話し合いや準備で使用したほか、大会中は大会関係者の宿舎としても1泊3000円で貸し出した

資金集めの主な方法

- ・日頃お世話になっているテニスメーカー、一般企業、団体からの協賛金
- ・学校からの補助金
- ・OB・OG会からの寄付金
- ・父兄、テニス関係者など個人からの協賛金
- ・日の出町からの協賛金
- ・サポートーズクラブの発足(応援してくれる一般の方を募集。クリニック受講、記念Tシャツ、「つるつる温泉」入浴券、ドリンクサービスなどを付けて3000円で販売)
- ・チャリティークリニックの開催(一般クリニックは5000円、ジュニアクリニックは500円で開催。大会前、大会中合わせて10回ほど行なう)

※資金面だけでなく、地元商工会やたくさんのボランティアに支えられた

2007年2月
大会まであと1ヶ月

本格始動

フューチャーズ開催に向けて本格的に動き始める。まずは、資金集めとフューチャーズの宣伝のため、一般の方やジュニアを対象としたクリニックを開催。1日クリニックは10~12時、13~16時でひとり5000円、1日30~40人、多いときで50人くらい集まる。このクリニックを計10回ほど開催したことで、かなり資金が集まった。



部内WC選手権が突然の中止

2月9日からセミナーハウス(寮)にて合宿開始。ここで部内のワイルドカード(WC/主催者推薦枠)選手権を行なうはずが……「何も準備ができていないのに、予選会をやるなんてダメだ。そういうものは、全部決まってからやるべきだ」と堀内監督に言われ中止に。

国際大会について調査

森コーチと世界で行なわれている大会について話をしたとき、学生は何も答えられず、これでは国際大会の運営者として失格だと痛感。デ杯やグランドスラムなど国際大会をはじめ、選手、テニスの歴史についても勉強する。



2007年3月1日

大会まであと16日

「簡単に大会に出るな。 大会をつくる苦労を知った上で、 大会に出ろ!」(堀内監督)

フェューチャーズ開催の意義

部員全員で「フェューチャーズの意義」について意見交換。運営するにも、選手として出場するにも、意義を知った上で臨んだほうが頑張れる、と思ったため。「学生はフェューチャーズに出てもすぐに負けてしまう。大会を開くことの苦労を知れば、試合にもっと執着心をもって臨めるんじゃないか」と堀内監督。なぜ監督が学生に運営を任せなのか、その理由を皆が理解した。

私たちが考える “フェューチャーズの意義”

●1年生の意見

- ・外国選手との交流
- ・ATPポイントの獲得
- ・プロ選手を見て勉強する
- ・多文化の理解と受け入れ
- ・選手のルーティンを学ぶ
- ・運営することでマネジメントを学ぶ

●2年生の意見

- ・社会勉強(運営、資金集め、マネジメント)
- ・国際交流(コミュニケーション)
- ・教養を身につける
- ・国際大会を主観的に見られる
- ・地域振興
- ・大学での国際交流やスポーツ、地域振興への意欲の高さを示す
- ・国内の他のスポーツに良い影響を与える

●3年生の意見

- ・大会ができるまでの過程を知る
- ・大会に対する思いを知る
- ・日本選手の強化
- ・運営に携わることで自分自身とテニスの関わりを見出すことができる
- ・亞細亞大学の活性化

●4年生の意見

- ・日本選手の強化
- ・学生テニスのレベルアップ
- ・学生の学習の場の提供
- ・国際大会数が世界ランカー数と相関関係にあるため、日本の国際大会数を増やすなければならない
- ・企業、団体、地域、マスコミなどのあらたな関わり
- ・各企業、メーカーの宣伝
- ・亞細亞大学テニス部と世界のつながりをつくる
- ・大会運営の過程を学ぶ

3月2日

大会まであと15日

役割分担

誰がどんな仕事に就くのか、係を決定(項目は下記)。それぞれが部の役職や得意分野が生かせる係に就けるように話し合う。部のブログ担当はメディア係に、財務担当は賞金係に、機械関係に強い人はビデオ係に、英語が話せる人は通訳係に、など全員が能力を発揮できるように振り分け、各係でチーフを決めた。細かいところまで、考えられるすべて、全力でやろうということで意見が一致。この役割分担が、大会成功のカギだった。

係と主な仕事内容～運営の軸となる大会進行係

●幹部

- ディレクター○堀内昌一監督
アシスタントディレクター○森穎詞コーチ、小野塚弓乃
スーパーバイザー○川廷尚弘(国際テニス連盟)
事務局○宇田川裕(テニス部副部長)、
金子国彦(亞細亞大職員)

3月4日

大会まであと13日

パンフレット作成開始

もともとつくる予定はなかったが、協賛してくれた方々へのお礼、記者発表への対応を考え、急遽作成することに。「パンフレットって何だ?」というところから始まつたので、マスコミ関係者につくり方を聞きにいったり、これまでの大会パンフレットを集めたり、一気に慌ただしくなる。監督、コーチ、大学事務局と話し合いながら、掲載内容やレイアウトを決定。同時にプレスリリースやポスターもつくり始める。

3月7日

大会まであと10日

部内WC選手権開催

2月上旬に行なうはずだった部内ワイルドカード選手権をようやく開催する。「皆に機会を与える」というのが目的だったので、学生全員が参加。実力によって、上からABCDブロックに分け、8ゲームマッチの総当たり戦を行なう。下部で勝ち上がった2名が上のブロックへ移動、というのを繰り返し、最終的に本戦ワイルドカード4名(大塚、富田、篠川、井上)、予選ワイルドカード3名(古城、牛田、風早)を決定。また、この頃からストーブ、テント、パイプ椅子など学校から備品を運び出し、施設の設営準備が進む。

●運営係

全体への指示

●賞金係

選手、スタッフへのギャラントリの計算と管理、大会サポートからの寄付金受け取り

●会場・施設係

プレーヤーズルーム、コンピュータールーム、メディアルームの設営、学校の備品の持ち出し、管理、ドローボードの作成



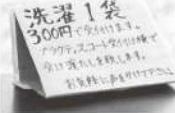
選手に戦いやすい環境を提供する係

●洗濯係

ランドリーサービス(セミナーハウスの洗濯機を使用、乾燥室用の部屋を借りて乾かす)

●インフォメーション係

会場の地図や案内板の作成と設置、自転車の貸し出し



今後の検証材料として、選手のデータを集める係

●アンケート係

選手へのアンケート調査(アンケート用紙を作製し、選手の実態を調査)

●ビデオ係

本戦の全試合をビデオ撮影(販売も行なう)

●スコアシート係

全試合のスコア記入(ウインブルドンの集計用紙と同じものを使用。確率やミスの種類まで細かくチェックし、試合後に渡す)



●体力測定係

プロの体力測定(握力、垂直跳びなど、プロの体力や筋力を測定)



●マニュアルづくり係

来年以降の資料として役立てるため、各役職の仕事内容などを記録

●Tシャツ係～記念Tシャツの作成、販売

「亞細亞大学硬式庭球部」「日の出」「未来」「一球入魂」「一期一会」と描かれた5種類の大会記念Tシャツを販売。文字は監督のお母さん(習字の先生)に描いてもらい、テニスショップ「テニスファクトリー」の八田修孝さんに協力してもらって作成。一般の方たちが着ることも考えて、落ち着いたカラーにした。



●レフェリー係

ワイルドカード選手権の運営

●チーフアソシエイト係

ボーラー、ラインズマンの配置、チェック、指導

●物品係

マイク、パイプ椅子、メーカーのバナー、紙コップなど備品の小さい管理、ネームボードの作成



●通訳係

外国人選手の対応、表形式でのスピーチ通訳

●写真係

ブログ用、記録用写真の撮影

●電話番係

選手、関係者からの電話対応



3月12日 |
大会まであと5日

泊まり込みのホチキス止め

パンフレットの中身がやっと完成。しかし、装丁に予想以上の時間がかかる。コピー、ホチキス止めを泊まり込みで行ない、200部を作成(パンフは大会期間中に何度も足りなくなつて、そのたび追加し、結局300部くらいつくった)。このあたりが焦りのピークだった。

3月13日 |
大会まであと4日

学生ワイルドカード選手権

関東リーグ1部校からの各4名と学生連盟からの推薦8名で、大学生だけのワイルドカード選手権が始まる。ワイルドカード予選3大会は川廷さんが不在なので、レフェリー係を中心に大会を運営する。

3月14日 |
大会まであと3日

記者発表資料が完成

できあがった大会パンフレットとプレスリリースを、庭球部パンフレットと大学パンフレットといっしょにファイルにセットし。記者発表用の資料が完成。また、学生ワイルドカードが早稲田大学の佐藤文平、吉備雄也に決定。



3月15日 |
大会まであと2日

初めての記者発表

堀内監督、小野塚AD、メディア担当・蒲谷の3名で岸記念体育館へ。集まつた新聞記者、雑誌記者、スポーツライターなどにパンフレットの入ったファイルを手渡す。堀内監督が大会開催の主旨について発表する。



初めての記者発表に緊張気味の監督

一般WC予選サインアップ

一般ワイルドカード予選のラインアップが開始。海外選手も含め、107名がサインをしにきてくれた。部員も全員がサイン。そのうち出場できるのは64名。

3月18日 |
予選2日目

ドローボード準備!

本戦ドロー抽選会の結果を受けて、ドローボードを作成。本戦1日目用のデイリーパンフレットもできあがる。



3月17日 |
予選1日目

予選開始!

役割分担でやるべきことは決めてあったが、実際に試合が始まるとわからないことだらけで慌てる。OPやドローに掲載している韓国人選手や中国人選手のアルファベット表記が見にくいうことで、漢字表記に直すことになり、選手個人に直接聞きにいく。スコアシート係は本戦から行なうということだったが、予選も準備期間として始める。

SUN, Peng [1] 朴誠勳	
OKI, Ryo	大木 良
FURUTA, Takeshi	古田 靖
CHANG, Kai-Lung	張 廉
DOERNER, Scott	ドーナー スコット
TOYOTA, Selya	豊澤 晴
KOGA, Kunio	小賀 公二
SIMPSON, Matthew [13]	シンプソン マ修
GONG, Mao-Xin [2]	孔 駿
LIN, Tzu-Yang	林 球
KOJIMA, Tatsushi	小島 長
ASAKURA, Makoto	朝倉 雅

3月16日 |
大会まであと1日

宿泊開始

一般ワイルドカードの予選が始まる。本戦選手がコートにやってきて、サイン＆プラクティス。この日からセミナーハウスに宿泊開始。



セミナーハウスは8人部屋。大会終了まで全員が宿泊

3月19日 |
本戦1日目

本戦スタート!

いよいよ本戦開始。専門誌をはじめ、マスコミの方が多く集まり、プレスバスやパンフレットを渡して対応する。今日からラインズマンが入るので、朝から気合いを入れて練習。試合後、初の洗濯注文を受ける。夜中にプラクティスコート予約の電話がかかってきたり、デイリーパンフレットやブログの更新に追われたりと、慌しい雰囲気に。試合は篠川が1回戦を突破してATP1ポイントを獲得、学生として2人目のATPランカーに。



ラインズマンは毎朝、大声で練習

3月20日 |
本戦2日目

杉田選手が登場!!

シングルス1R、ダブルス1Rが行なわれる。デ杯の活躍もあって注目された杉田祐一選手が勝利し、盛り上がる。



ランドリーサービスは外国人選手がよく利用してくれた。最初500円だったがちょっと高いのではという話になり、300円にしたところ急に注文が増えた



デイリーパンフレットは夜原稿を書き、翌朝にコピー。学校も印刷所も開いていないので、近くの病院の売店でコピー機を使わせてもらう



ドローボードに本戦選手の顔写真を貼ろうというアイディアが出る。多くの選手が快く協力してくれた

1日のスケジュール

06:30	起床
07:00	朝食 (食べ終わったら各自コートへ)
07:30	コート集合 掃除、準備
08:30	選手が来始める、サインアップ
09:00	プラクティス
10:00	試合開始 (各係が就く。時間があつたら試合観戦。 運営に慣れてきた大会後半は夕方から 練習練習練習…)
18:30	試合終了後、片付け
19:00	夕食→入浴
21:00	ミーティング (係ごとに今日の報告、反省点、意見などをチーフが発表。こうしたらしいんじゃないかなと思うことを毎日話し合う) ミーティング後は自由時間(自分の仕事が終わったら就寝)

3月21日
本戦3日目

祝日で大盛況

シングルス2R、ダブルス1Rが行なわれる。祝日だったので、地元の方やOBの方もたくさんきてくれた。小学生対象のクリニックも開催。また、鈴木貴男選手がきてくれたので、体力測定に参加してもらう。次週の早稲田大フューチャーズに参戦する韓国と中国のデ杯選手が練習しに来たので、どんなメニューを行なっているか調査する。



茶園鉄也選手(左)、寺地貴弘選手(右)がアンケートに答えてくれた

3月22日
本戦4日目



選手のサインを集めたサインボードはすばらしい記念

折り返し地点

大会も折り返し地点。みんな気持ちは少し余裕が出てきて、細かいことにも気づくようになる。シングルスは2R、ダブルスは準決勝が行なわれる。注目の杉田選手はフルセットで惜敗。

3月23日
本戦5日目

強風が吹き荒れる

シングルスは準々決勝、ダブルスは準決勝に突入。風が強く、本部の資料が飛んでしまったり、スコアボードが倒れそうになったり……。夜のミーティングでは、明日のダブルス表彰式に向けて会議を行なう。

杉田選手にサインをもらう



近藤大生選手(左)がTシャツをお買い上げ。漢字が受けて、外国人選手も購入してくれた

OGである岡本聖子さんが会場を訪れ、体力測定に参加してくれた



杉田選手にサインをもらう

3月24日
本戦6日目

ダブルス表彰式で感激

ダブルス決勝戦でOBの佐藤博康選手が登場。選手入場では、学生が花道をつくり、会場を盛り上げる。惜しくも準優勝だったが、「母校のフューチャーズに出られるとは思いませんでした。学生が本当にがんばってくれて、よい一週間を過ごせました。今後も継続して頑張ってください」と激励の言葉をもらった。最後に選手、スタッフ、そして観客の方もいっしょに写真撮影を行なう。



ダブルス表彰式



初めてボーラーが入る



クリニックおよびプリデストン試打会を開催

最終ミーティング

決勝戦に向けての最終ミーティング。学生の疲れはピークに達するが、監督からは「明日、達成感を感じたとしても、それで終わるんじゃない。この経験をどう生かすか、すぐに考えろ。『やりっぱなし』で終わるな!」と喝を入れられる。川廷さんからは表彰式の改善点、雨天時の対処法など、細かいチェックが入る。



サプライズパーティー

ミーティング後、4年生から再び招集がかかる。何が始まるのか思いきや…「これまでついてきてくれてありがとう」と特大ケーキのプレゼント!

体はきつかったが、「最終日、これまでの総決算として絶対に成功させよう!」という元気が湧いてくる。



3月25日
本戦最終日

初代チャンピオンに林(イム)選手

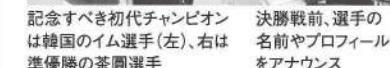
最終日の早朝は土砂降りの雨。午前中に止んで、素早くコート整備を行なうも、またすぐに降り出すというアンラッキーな事態に。しかし、雨天時の対処法は前日に確認できていたので、みんな慌てず臨機応変に対応。こうして14時に決勝が開始し、韓国のイム選手がベテラン茶園選手をフルセットで下して優勝した。表彰式は昨日の反省を生かしてスムーズに進む。



新聞紙やタオルも使い、大急ぎで乾かす



記念すべき初代チャンピオンは韓国のイム選手(左)、右は準優勝の茶園選手



決勝戦前、選手の名前やプロフィールをアナウンス



感動のフィナーレ

表彰式後、花道をつくり選手を送り出す。すると、学生から「監督も通ってください!」との声が。コートの隅でひとり号泣していた監督を、学生が引っこ抜き出し、拍手喝采の花道を通す。「学生たちが日々に成長していくんだよ。みんなエキサイトして一生懸命やっている姿がうれしくて。こいつら、すごいな。本当にやってくれたんだなと思ったら…感動しちゃったよ」(監督)。



学生たちに囲まれ、監督は大粒の涙



最後に皆で写真撮影

「世界の壁は厚い。
でもそれを破っていくことが大事だ。
そのエネルギーを感じたんだから、
やるしかないだろう」(堀内監督)



亞細亞大学国際オープンテニス2022

開催「中止」のお知らせ

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和4年3月6日(日)～13日(日)に開催予定であった「亞細亞大学国際オープンテニス2022」は、いまだ世界的に感染拡大する新型コロナウィルス感染症により、2021年大会「延期」の後「中止」に続き、2022年大会開催の「中止」を決定しました。

現段階で我々は、世界各国から参加の選手やご来場の観客・関係者の皆様の健康と安全を十分に確保できない事に加え、大学構内での開催という多くのハードルをクリアすることが出来ませんでした。

今後は、感染症が終息することを願いつつ15回目の開催(開催時期未定)に向けて、選手をはじめとし協賛協力頂いている各社・関係者の皆様のご理解とご協力のもと、大学とも話を進めて参ります。

何卒ご理解の程よろしく申し上げます。

亞細亞大学国際オープンテニス2022
大会ディレクター 森 稔詞

思

い出せば、けっこう不思議な光景だった——。

東京の西の最果、武藏野の面影残る日の出町は土砂降りの日曜。上がった雨が、また泣き出しそうな黄昏どきだ。ジャージ姿の学生たちがコートサイドに集まり、そこから女子大生の肩を抱いた中尾彬が転がるように現れた。女子大生は泣きじゃくり、中尾も大粒の涙。学生たちは胸上げとか笑いながら、いや、泣いている者もいた……。

よく見ると、中尾彬ではなく“ホッチ”こと亞細亜大学硬式テニス部の堀内昌一監督、よく見れば、英文の横断幕がネットに揺れている。〈F1亞細亜大学国際オープンテニス2007〉——3月から展開された男子テニスのフューチャーズ5大会、その幕開け、F1亞細亜が終わったところ。監督と女子学生が涙する昭和の卒業式のような光景は、彼らにしかわからない物語だった。しかし、彼らだけの物語ではなかった。

フューチャーズは、ATPツアーのもともと下位の大会である。本戦で1勝して1ポイント、優勝すれば12ポイント獲得できる。F1亞細亜は本戦32ドローに予選は64ドロー、さらに予選のワイルドカード8本のうち4本を公開して予備予選（32ドロー）を行なっている。8勝してやっと1ポイントを手にする勘定になる。

1ポイントで念願の世界ランク1518位タイ、ざっと500人の名前が並んでいる。四大大会の予選カットは250位前後で、最低150ポイントは必要だ。ロジャー・フェデラーの7715ポイントは、なんと遙かなるアラモだろう。

「学生たちにランキングを持つチャンスを与え、学生テニスも世界と結びついていることを再確認したい」というのがフューチャーズ主催に名乗を上げた理由だが、堀内監督の思惑はそこだけに止まら

平成19・20年卒業生がこの石碑を部室の前に立ててくれた。F1亞細亜大学国際オープンテニス2007開催を記念して、ここに紹介したテニスマガジン掲載記事と「大学から世界へ学生の学生による学生のための国際大会開催の地」という文字が彫られている

ない。

日本には、以前からこうした大会は存在した。堀内監督も日本体育大学で活躍していた80年代前半、メーカーなどが主催して春季サーキットが開かれ、ジャパンオープン（現・楽天オープン）もそうした流れから誕生している。90年代にもサテライトが開かれたものの、辛うじて鈴木貴男をグランドスラムに送り出したくらいの成果しかなかった。

フューチャーズの登場でポイントが取りやすくなるとはいえ、世界と結びつけば近隣の強敵たちも来日する。終わってみればF1亞細亜では、ベテラン茶圓鉄也の8ポイントを筆頭に近藤大生が2、ほかに6選手が1ポイント獲得し、学生は杉田祐一（早稲田大・三菱電機）と亞大の新1年生・篠川智大がゲット。

杉田は〈学生〉の対象外だから、日本選手、まして学生のポイント獲得が難しいことには変わりがないのだ。ただ、これは想定内だった。テニスはやって楽しく、見て楽しい。読んで楽しい人は少なく、運営の楽しさを知った人も多くない。F1亞細亜は日本初、川島尚弘スーパーバイザーによればアジア初の学生の自主運営による大会だった。

学生運営の大会は、堀内監督の20年来の夢だったという。早稲田大学との絡みでその機が巡ってきた。この秋、早稲田大は創立125周年を迎える。大庭球部のフューチャーズ開催も記念行事活動と連動している。この動きを見て、単独では名乗りを上げられなかつた亞細亜大が、千載一遇のチャンスとばかりアプローチショットを放って、ネットに出たのである。

「僕もアメリカに留学してサテライトを回りました。大会は手づくりの素朴なものでした。これまでの日本のフューチャーズも、みなさんが一生懸命手伝って温かい大会になりましたが、それを学生にやらせたかった。人と接することでたくさんのことを学び、テニスを別の角度から見ることで、テニスがもっと面白く、好きになれるはず」



2007年亞細亜大学国際オープンテニス・総括 日の出に世界がやつてきた。

文◎武田薫 記事提供◎ニスマガジン（2007年6月号）



自分たちのポイント獲得だけが目的ではないから、ワイルドカードの特権を他校の学生にもジュニアにも分けている。

予選には、内外から107人のプレーヤーが日の出町までサインアップにきた。55人の部員は選手全員の練習コートを手配、準備しなければならない。セミナーハウスを一泊二食付3000円で宿舎に開放し、近郊の昭島や八王子に滞在した選手の送迎の世話、洗濯の案内、自転車のレンタル、ツアープロの命綱・インターネット利用のため、大学から10台のコンピューターを借りた。画期的なデイリープログラムの作成にブログの逐次更新。国際大会だから英語表記あり……。予算は限られていたから、試合進行とこうした周辺作業すべてを、学生自らの手でこなさなければならない。

運営が学生だろうが、選手からは手厳しい注文が飛び込んでくる。

「使わなかったボールは練習で使うから、返さないよ。練習ボールと質が違う」と言い張ったのは、ニュージーランドから予選参加したアダム・トンプソン、デ杯代表でもある。

「一応プロだ。いまは親が援助してくれる。もう24歳だから精神的にきつくてね。ホテルは一泊80ドルだぜ。ニュージーランドならヒルトンホテルに泊まれる。どうしてもランキングを上げたいんだ」

健闘空しく予選落ちすれば、日本選手は恵まれているとヤケにもなる。シングルス本戦のWCをもらった大塚真之助は、1回戦敗退と同時に賞金・会計担当補佐に回っている。

「ボールの手配や水の準備、これまで当たり前に思ってきたことがけっこうたいへんで、貴重な経験でした」

あとから「何度計算しても5000円少なくて」と電話が入り、慌てたこともあつ

た。デスクの向こう側に座って初めて聞くツアープロのナマの声——間違いなく、学生たちがテニスを見る目は変わっただろう。

ダブルスで準優勝した亞細亞大OBの佐藤博康がこんな感想を話した。

「日の出町でフューチャーズをやるとは思わなかった。OBとしてうれしいし、決勝を戦えてよかったです」

日の出町という地域性も、このF1亞細亞の特徴だ。

日の出町は、1983年、中曾根康弘元首相の別荘での米国ロナルド・レーガン大統領とのロンヤス会談で話題になったことがある。新宿から中央線の立川で乗り換え、拝島で単線の五日市線に移って武蔵引田駅下車——駅からの道端に野菜の無人販売所があり、テニスのプロ大会の開催地でこれほどの遠隔地はかつての八ヶ岳くらいなものだろう。だが、フューチャーズは観客ではなく選手のための大会というところがミソなのだ。雨の中を訪れた青木國太郎町長はご祝儀を手にうれしそうである。

「26年前にゴミ焼却場を誘致してから、自然とスポーツがこの町のテーマでした。モラルを尊重するスポーツは、町民平和に結びつく。まして初めての国際大会です。ますます発展することを切に願っています」

学生は近隣住民にテニスクリニックを行い、地元の人たちはうどんコーナーを切り盛りし、商工会が特産品を並べて一体感を味わっていた。

かつて、デビューしたてのアンドレ・アガシが出場したボストン郊外の大会を取材した。夕方になるとバーベキューの煙がコートに流れ、近所の人たちがビール片手にワイワイと賑やかだった。堀内監督にはそんなイメージもあり、地元ア

ピールの場になればそれはまた別のおもしろい展開になるかもしれない。

『世界は日の出を待っている』ではなく、日の出に世界がやってきた……。

大会中、寝泊りをともにした川廷スーパー・バイザーは二重丸をつけた。

「学生たちは毎晩反省会を開き、いつボール交換するなど自分たちで決めてアドバイスを求めてきた。もっと教えなければいけないと思っていたんですが、いやあ、楽でした」

茶圓も「若いから、テキパキして気持ちよかったです」と拍手を送り、優勝した韓国の林奎泰はこうだ。

「学生だけで大会運営をやるなんて信じられませんよ。残念ながら、韓国の学生には真似できないな」

そんな声を聞けば、小川春男学長も、決勝戦の寒い中、朝から夕方まで付き合った甲斐があった。

「国際大会に相応しい緊張感あふれる試合でした。学生諸君も、雨の中で緊張感を維持し立派だった。いい勉強になったでしょう」

最終日は雨で試合開始が5時間も延期され、そのことも運営の経験になったと言うはたやすい。だが、すべてが初めてであり大きなリスクをともなう賭けだった。冒頭の不思議な光景、堀内監督の涙がその舞台裏を思わず物語っていた。

さて、このチャレンジは誰にでも可能だっただろうか。誰もが、いきなりアプローチショットを叩いてネットに出られるとは限らない。

テニスは大学の中だけでも日本の中だけでもない、世界を目指すことを忘れるな——堀内監督、森穂司コーチの日常的な指導方針が下地にあることを忘れてはいけない。日の出町に出現した日本の新しいテニス風景に、期待したい。

『2007亞細亞大学国際オープンテニス』ダブルス決勝のあと、大会スタッフとして働いたテニス部員も加わり、入賞選手を囲んで記念撮影。中央にいる2ペアが優勝、準優勝ペア。右の2人が、惜しくも準優勝だった亞細亞大学OBの佐藤博康とそのパートナーの李明



亜細亞大学国際オープンテニス チャリティーテニスクリニックに ご参加ください!

あなたも
サポーター

このクリニックの収益はすべて国際大会運営費に充てられます。
よってクリニック参加のみなさまは、大会サポーターであるとともに亜細亞大学テニス部のサポーターでもあります!
※コロナウイルス感染拡大のため開催は未定となっております。

“テクニカルシリーズ”開講中!

2007年にスタートした『亜細亞大学国際テニス大会～チャリティーテニスクリニック “テクニカルシリーズ”』は、これまでに年間およそ20回、2022年現在までを数えるとおよそ200回ほど開催してまいりました。

クリニック開催の目的は大きく分けて2つあります。ひとつはテニス部員と一

般プレーヤーのみなさまとの交流機会を増やしたいということ。そしてもうひとつは、このクリニックでいただく参加費を『亜細亞大学国際テニス大会』の大会運営費用に充て、みなさま方ひとりひとりに大会サポーターとなっていたいただき、さらには、亜細亞大学テニス部のサポーターになって、応援していただきたいという思いがあります。

クリニックの講師は、テニス部の堀内

昌一監督、森 稔詞コーチ、長久保大樹コーチのいずれかが務め、現役部員がサポートして、各回テーマに沿ったていねいな指導を心掛けています。もう一段階向上したいとお考えのテニスプレーヤーのみなさまに対して、期待に応える内容をご提供したいと思います。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

亜細亞大学テニス部一同

テーマは“テクニカルシリーズ”として細かく設定

例 サービス編 | レシーブ編 | ストローク編 | ボレー編 | プライベート編 など



情報およびお申し込み方法は、随時ブログに更新中!

亜細亞大学テニス部ブログ-EVER UPWARD!(意味は「限りなく向上せよ」)

<http://www.asia-tennis.com/sns/index.html>

参加者を代表して

下田 敏雅さん



亞細亞大学テニス部との出会いで、テニスの面白さを実感出来、また改めて継続していくと感じました。

亞細亞大学庭球部関係者各位殿

この度は、テニスクリニックの感想の御依頼、御指名頂きまして誠に有難うございます。私は、文才は御座いませんが少しでもクリニックの体験の良さをお伝え出来ればと思っております。

まず、参加の切っ掛けは、他所で堀内監督・森コーチにテニスの御指導を受ける機会が有り、亞細亞大学でもクリニックをされておられる事を知り、幾度も参加させて頂くようになりました。

次にクリニックの感想です。

私にとって最初の収穫は、テニスエルボーになりかけた時、クリニックに参加したこと、体の機能的な使い方を教わり、大きな故障を未然に回避しテニスが出来た事です。テニス仲間は、現在テニス肘で痛みと戦っております。おかげさまで私は痛みとは現在無縁です。

次の収穫は、今更ですが再度基本を教わったことにより、少しづつ試合でのラリーが安定してきました。各上の対戦相手に対して以前は不安を抱いておりましたが、勝敗は別にしてミスが少くなりゲームが少し楽しめるようになりました。現在下部ですが、実業団の対抗試合に出場させて頂き、団体戦なので特に勝ちを意識しますが、ベースになる球が安定的に打てるようになってから、戦術戦略を考えられるようになりました。勝ち進めるのは大変嬉しいです。

次の収穫ですが、クリニック参加で御指導頂く学生さんやテニスを上達したい志が同じ他のクリニック生の方々と多くお知り合いにな

れた事です。知り合いになった学生さんが学生の大会で御活躍されている試合を行きますと、試合のテクニックや応援が自分にとってとても参考になり、実業団の試合にも生かせます。また、他のクリニック生様とは、志が同じせいか意外と悩みが共通なので、第三者の立場から悩みを理解でき、自分の弱点の改善に役立ちました。

最後の収穫ですが、クリニックの参加費用が、フューチャーズの大会に充てられ開催されますので、プロ選手の試合やテクニックが大学のコートで間近で観戦出来ます。また、プロ選手と知り合える切っ掛けが有り、その選手が他の大会でも御活躍されますと、何か訳もなく大変嬉しいです。有明コロシアムでお会い出来ますと、声を掛けずにいられません。

このような素晴らしい機会をお与え下さいまして大変感謝しております。

堀内監督・森コーチ

今後とも末永く、このクリニックを継続されることを切に願っております。



小原 崇さん



熱心に取り組んでくれるテニス部の皆さんとテニスをするのが楽しくて楽しくてしょうがないのです。

チャリティークリニックのことを知ったのは2012年にテニスマガジン主催で行われた秩父での「大練習会」に参加した際でした。堀内監督や森コーチのクリニックが行われたこともあり亞細亞大学のテニス部の皆さんのが手伝いで参加されていたのですが、接するテニス部の皆さんのが非常に丁寧かつ熱心で感心したのを感じています。以降、チャリティークリニックには都合が合う限り参加させていただくという形で今に至っています。

自宅は横浜で日の出のコートまでは片道2時間ほどかかるためクリニックへの参加はほぼ半日作業となります。夫婦でテニスをしているため二人で3時間のクリニックを受けるために4時間かけて通っていることになり、周囲にその話をすると首を傾げられることが多いのですが私たち夫婦はその価値があると考えています。そこで、ここでは一参加者として私たちが感じているクリニックの価値を述べさせていただきます。

ます。

1.指導者(監督、コーチ)の説明が

分かりやすく、実行しやすい

夫婦そろって30過ぎてからテニスを始めることもありある程度理論的に説明してもらえないとなかなか実行できないことが多いのですが、説明が非常にわかりやすく納得して取り組むことが出来ます。また、個別へのアドバイスが非常に適切ですぐに成果が出ることが多いです。この辺りは多種多様な部員を一人前の選手になるように指導してきた経験が大きものを言っているように感じます。

2.テニス部の皆さんのが熱心で

接していて心地よい

クリニックでは生徒2~3人に一人といった割合でテニス部の皆さんのが指導についてしっかりこちらのプレーを見てサポートしてくれる体制になっています。テニス愛好家という立場でこのレベルのプレイヤーがマンツーマンに近い形で見てくれるという環境はなかなか無いと思います。

また、教える事の上手い下手といった個人差は当然ありますが皆さん非常に熱心でなんとか上手くなつて欲しいという熱意が伝わってきますので自ずとこちらもその思いに答えるといふ気持ちがわいてモチベーションが高まります。

3.日本テニスの発展に

多少なりとも貢献できる

チャリティークリニックの収益は毎年3月に亞

細亞大学で行われるフューチャーズ大会の開催資金に充てられます。錦織圭選手らの活躍でグランドスラムなどでの大会の注目度が高まってきていますが、ほとんどのプロテニス選手はまずフューチャーズ大会でポイントを稼ぐことによってさらに上のレベルにチャレンジしていきます。この登竜門であるフューチャーズ大会はアメリカやヨーロッパではほぼ毎週のようにどこかで開催されていますが日本では数が少なくプロとして活躍する最初の時点での日本の選手はハンデを抱えていると言えます。そういう意味でも亞細亞大学などで春先に開催されるフューチャーズのシリーズは日本人選手にとって非常に重要な位置づけとなっています。チャリティークリニックに参加することでフューチャーズ大会の開催に協力できるという事は日本テニスの発展に多少なりとも貢献できるということにつながると言えると思います。テニスを教えてもらう上に日本のテニスにも貢献できるなんてなんて素晴らしいことでしょう!

これから出てくる若いプレーヤーのためにもフューチャーズ大会は続けて欲しいですし、そのための協力は続けたいと思っています。ただ、そういうのを抜きにしても素晴らしい指導者の教えを請いながら熱心に取り組んでくれるテニス部の皆さんとテニスをするのが楽しくて楽しいのです。夫婦してこれからも片道2時間の道のりを通り続けるつもりですので今後ともよろしくお願ひいたします。

亞細亞大学国際オープンテニス 2023

F1 Asia University International Open Tennis

大会要項 (予定)

日程

予選	2023年 3月上旬	シングルス 48名
本戦	2023年 3月上旬	シングルス 32名
		ダブルス 16組

賞金ブレークダウン US\$15,000

試合方法 ●トーナメント方式(ベストオブ3セットマッチ6ゲームオール後タイブレーク採用)

会場 ●亞細亞大学 日の出キャンパス テニスコート(ハードコート8面)

〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1449-1 TEL042-588-5817 FAX042-588-5817

■男子 優勝

2007年 第1回	シングルス イム・キューテ(韓国)
	ダブルス ユ/ザン(中国)
2008年 第2回	シングルス 伊藤竜馬(ミキブルーン)
	ダブルス 近藤/佐藤(アイシン精機/フリー)
2009年 第3回	シングルス イ・チュハン(台湾)
	ダブルス 佐藤/イ(フリー/台湾)
2010年 第4回	シングルス 井藤祐一(空旅ドットコム)
	ダブルス 佐藤/イ(橋本総業/台湾)
2011年 第5回	東日本大震災のため中止
2012年 第6回	シングルス 内山靖崇(北日本物産)
	ダブルス 近藤/イ(アイシン精機/台湾)
2013年 第7回	シングルス 近藤大生(アイシン精機)
	ダブルス 関口/エイドリアン(三菱電機/スロバキア)
2014年 第8回	シングルス ディウ(中国)
	ダブルス 松井/小澤(ライフ・エヌ・ピー/北日本物産)
2015年 第9回	シングルス 仁木拓人(三菱電機)
	ダブルス 吉備/仁木(ノア・インドアステージ/三菱電機)
2016年 第10回	シングルス ハン・リヤン・チー(台湾)
	ダブルス 吉備/松井(ノア・インドアステージ/ASIA PARTNERSHIP FUND)
2017年 第11回	シングルス 高橋悠介(フリー)
	ダブルス 長尾/奥(エキスパートシズオカ)
2018年 第12回	シングルス ヌーゲン・ダニエル(アメリカ)
	ダブルス 仁木/今井(三菱電機/イカイ)
2019年 第13回	シングルス 今井慎太郎(イカイ)
	ダブルス 仁木/今井(三菱電機/イカイ)
2020年 第14回	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止
2021年 第15回	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止

■女子 優勝

2012年 第1回	シングルス 米村明子(島津製作所)
	ダブルス 穂積/手塚(フリー/ミキハウス)
2013年 第2回	シングルス ユ・ミ(韓国)
	ダブルス ハン/カン(韓国)
2014年 第3回	シングルス 井上雅(テニスラウンジ)
	ダブルス 波形/米村(北日本物産/島津製作所)
2015年 第4回	シングルス スー・チー・ウェン(台湾)
	ダブルス 岡村/米村(橋本総業/島津製作所)
2016年 第5回	シングルス フレッチ・マグダレナ(ボーランド)
	ダブルス 梶谷/宮原(早稲田大学/TEAM 自由が丘)
2017年 第6回	シングルス セクリッチ・サラ・レベッカ(ドイツ)
	ダブルス 小堀/高畠(橋本総業)
2018年 第7回	シングルス リー・ソ・ラ(韓国)
	ダブルス リー/キム(韓国)
2019年 第8回	シングルス ダリア・ロバテスカ(ウクライナ)
	ダブルス 米原/荒川(明治安田生命/プロ・フリー)
2020年 第9回	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止
2021年 第10回	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止

詳細は…国際テニス連盟(ITF)

<http://www.itftennis.com/procircuit/>

日本テニス協会(JTA)

<http://www.jta-tennis.or.jp/>亞細亞大学テニス部公式サイト <http://www.asia-tennis.com/tournament/index.html>

※2022年6月現在の予定。大会開催時期は申請予定です。